



令和6年度

スクール読書チャレンジ運動
実践事例集

佐賀県県民環境部まなび課

目次

各 賞		受賞校	ページ番号
入賞校	最優秀賞(1校)	佐賀市立循誘小学校	2-6
	優秀賞(2校)	多久市立東原庫舎東部校	7-11
		佐賀市立大詫間小学校	12-16
	敢闘賞(10校)	伊万里市立黒川小学校	17-21
		佐賀市立諸富北小学校	22-26
		佐賀市立開成小学校	27-31
		神崎市立千代田西部小学校	32-36
		伊万里市立青嶺中学校	37-39
		佐賀県立盲学校	40-42
		佐賀市立南川副小学校	43-47
		神崎市立日比山小学校	48-52
		多久市立東原庫舎西溪校	53-57
		佐賀県立鹿島高等学校	58-62
その他	佐賀市立勸興小学校	63-79	
	佐賀市立日新小学校	80-84	
	佐賀県立高志館高等学校	85-89	
	有田町立有田中部小学校	90-94	
	みやき町立三根西小学校	95-98	
	太良町立大浦中学校	99-101	
	佐賀市立若楠小学校	102-104	
	佐賀市立春日北小学校	105-109	
	小城市立晴田小学校	110-113	
	武雄市立御船が丘小学校	114-118	
	唐津市立第五中学校	119-123	
	武雄市立朝日小学校	124-128	
	唐津市立西唐津中学校	129-133	
鹿島市立北鹿島小学校	134-138		

令和6年度(2024年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	佐賀市立循誘小学校	児童数	303人
-----	-----------	-----	------

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	～図書室よりたくさんの出会いをお届けします～
	取組期間	令和6年(2024年) 4月22日 ～ 令和6年(2024年) 11月30日

※令和6年(2024年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和6年(2024年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

評価	取組人数	303人	実施日数	223日	読書冊数	39347冊	連携した団体数	2団体
	取組内容(概要)	<p>① 知識との出会い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 循誘っ子50選の活用や、読み語り、テーマ展示、分類 DAY を設け、蔵書の範囲と多様を知らせ、児童の関心をひきだし、読書の幅を広げる。 ・ 新たなイベントを開催し、児童の新しい気づきや発見につなげる。 ・ 学習に関連する資料を相互貸借で集め貸出し支援する。 <p>② 人との出会いやワクワクとの出会い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書室のキャラクターを選定し活用する。 ・ 図書室のイベントや環境整備を通して、人と人とのつながりの場とする。 <p>③ 情報との出会い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 佐賀市電子図書館の使い方を示し、良質な電子書籍を児童に示す。 						
	工夫したこと	<p>① ・ 低学年には教諭や司書が紙芝居や読み語りを行い本に親しませ、感性を養い、また月替わりで新刊、季節、時事、先生や図書委員のおすすめの本などを展示し、なにを読んだらよいかかわからない児童と本をつないだ。毎週金曜日はラッキー分類 DAY とし、図書委員が特定の分類の内容がわかる放送をし、その分類の本や50選を借りるとポイントがたまるようにし、幅広い読書に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国文学の本がほとんど動かずに気になっていたところ、ちょうどオリンピックが開催された。外国に興味をもつ良いチャンスだと思い、どこの国のお話なのか本棚にわかりやすく表示をし、絵本に国旗をはり、コーナーを設け「本で世界を旅しよう」というミニイベントを行った。旅した国の数に応じて、オリンピックにちなんで、金・銀・銅メダル型のプラス貸出券をプレゼントした。世界地図も掲示しどこにその国があるのかをわかりやすくした。 ・ 「ぐりとぐら」の作者の中川李枝子さんがお亡くなりになられて、本を紹介するとともに、出版社から著作物利用許可を得て「ぐりとぐらのたまごのくるまになにのせる？」のお絵かきイベントを行った。その際、用紙には「著作物利用許可済」と児童の目につくように記入し、著作権に関心をもってもらうようにした。 ・ 授業で使用するリクエストされた資料はもちろんのこと、もしかしたら使用する 						

	<p>かもしれない資料も団体貸出や相互貸借等でお借りして、急なリクエストにも対応できるよう学習支援を行った。</p> <p>② ・夏の図書館祭りで今年度の図書室キャラクターを募集しコンテストを行った。選ばれたキャラクターは、考案者から利用許可を得て、夏休みの読書の色ぬりや、しおりのデザイン、ぬりえなど幅広く活躍した。また、選ばれたキャラクターの1つに、「ギターを弾くと本のチョウチョが飛び出して読み語りをしてくれる〇〇マン」という当校教諭をモチーフにした作品があり、秋の図書館祭りでは、教諭がその〇〇マンになりきって、図書委員会とキャラクターのコラボお話をを行った。工作した皿回しの縁に切り紙で作成した本のチョウチョのモビールをつけて最初のギター演奏が始まると、図書委員が皿回しをし、本のチョウチョが飛んでいるようにみせ盛り上げた。</p> <p>・図書室の掲示物などは司書や司書補、図書委員主体で作成するだけでなく、他の児童と共に行うことにより、異学年の交流もでき人と人との出会いの場となるようにした。また、季節を感じることでできる図書室になるように心掛けた。</p> <p>③ ・6年生の図書の時間に図書室にタブレットをもってきて、佐賀市電子図書館の使い方を説明し、実際に利用してみた。その際、使い方をよりわかりやすくした資料を作成し配布した。</p>
<p>取り組んだ感想</p>	<p>本校は数年にわたり、本が子どもから離れないように心掛けており、読書が好きな児童が多く貸出冊数も多い状況である。そのような中、どうすれば児童がもっと成長できるのか？もっと楽しんでもらえるのか？図書室や本との出会いを通して新しい自分との出会いになってほしいと考えながら、本よりも児童をみることを心掛けて運営した。結果、多くの笑顔に出会えて嬉しかった。「本で世界を旅しよう」のイベントでは、「この国のお話だったんだ」とつぶやく児童が多くいたことが印象的だった。また、「アフリカの本を借りたい」と言ってきた児童がおり、ケニアの絵本が1冊あり手渡した。「アメリカはたくさんあるのに、アフリカの本は少ないね」と言うので「本そのものが少ないんだよ」という会話をした。今後児童が成長していく中で、社会が安定し経済的に豊かな国でないと、児童書を作ることは簡単ではないということにいつか気づいてくれたらと思いつきながら手渡した。また、佐賀市電子図書館を実際にみんなを使ってみることで、敷居が低くなり利用増になればと思う。初めて電子図書館に入り、「かりていいの？」と喜ぶ児童、音声読み上げに驚く児童、紙芝居で英語と日本語を切り替えながら楽しむ児童がいて、新しい出会いになったと感じた。今後、さらに図鑑などの調べ学習用の資料が増え、なおかつ、複数人（クラス全員）で同時に読めるということができるようになれば、よりいっそう授業でも活用できると思う。最後に、図書委員会では現状のフィードバックを行い、よりよくなるようにアイデアをだしあった。何事にも意欲的に取り組んでくれた図書委員に感謝するとともに、委員会活動を通して個人の大きな成長をみることができたことも嬉しかった。</p>
<p>今後の取組予定 (令和6年(2024年)12月 ～令和7年(2025年)3月)</p>	<p>「電子図書館の使い方」の学習は、4年生以上全クラスに行う予定である。今後も児童とのコミュニケーションを大切に、読み語りやブックトーク、フロアワーク、図書室のイベントや展示を通して、読書の素地をつくり、児童がホッとできる空間、新しい出会いとなるような図書室の運営を心掛け児童の成長につなげたい。</p>

① 知識との出会い

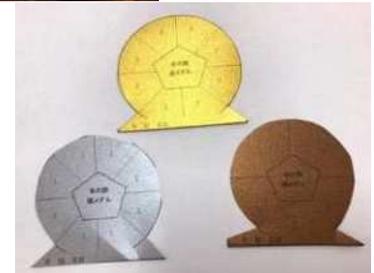
「本で世界を旅しよう」のミニイベント

世界地図↓



○ は国旗シール

アメリカ 	イギリス 	フランス
ドイツ 	日本 	中国
その他に どのくにのお話でしたか?書いてください。 「 」		



まず、どこの国のおはなしなのかを調べ、日本以外の絵本100冊以上に国旗を貼り、わかりやすく表示した。コーナーの本が少なくなると、つぎ足す方式で多くの児童が容易に借りることができるようにした。また本棚の上に923中国文学933英米文学943ドイツ文学と図書委員がわかりやすく掲示し、外国文学の存在感を示した。



円形の展示台を活かして裏側にもたくさんの本を展示した。

本を借りるとその国のマスにスタンプを押し、旅をしたこととする。7か国旅した人には金メダル、5か国旅した人には銀メダル、3か国旅した人には銅メダル型のプラス貸出券をプレゼント。スタンプの用紙にも国旗を表示したことで低学年の児童も容易に本を選ぶことができ、配布する用紙は白黒だったので、色違いの国旗があることに気づいた児童もあり、新たな発見となったようだ。

イベント終了後、多くの児童が金メダル（プラス2冊8回分）銀メダル（プラス1冊8回分）銅メダル（プラス1冊4回分）を利用し本を借りている。

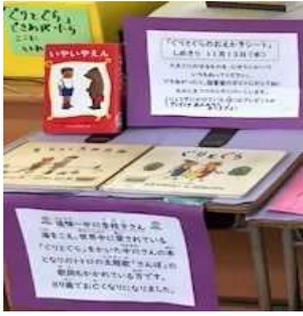


紫の用紙は50選、裏が分類スタンプ表となっている。

このイベントには学年を問わず多くの児童が参加してくれた。「おおきなかぶはロシアのお話だったんだー!」「バーバパパの本はフランスだったよ」「ドイツはグリム童話だったよ」と教えあっている児童もいて新しい気づきとなったようだ。高学年は、分類番号の真ん中の数字903により国が分かれていることに気づき、どこの国なのかを意識して借りていた。イベント終了後、3類の外国の暮らしの本や、国旗の本の貸出も増え、外国に興味をもつよい機会となり新しい出会いとなった。

「ぐりとぐらの」お絵かきイベント

多くの参加があり、図書室内だけではなく、図書室前にも掲示した。アイデアあふれる作品が多く、色とりどりの「ぐりとぐらのたまごのくるま」が校舎内を華やかにしてくれた。



用紙に「著作物利用許可済み」と記載することで「これなに？」と質問するなど、著作権に関心をもつ児童が増えた。高学年の児童は「どうやって許可を得るのですか？」と尋ねてきたので利用許可申請手順の説明を行った。

テーマ展示や掲示物 本を読んで感性アップ



給食コラボを4回行い、本は相互貸借を利用し多くの児童が読書と食との出会いを楽しんだ。



★図書コラボ 給食★『ゆうすげ村の小さな旅館』
今日の給食は「ゆうすげ村の小さな旅館」から、みづきさんが作る、大根づくしの料理をまねしました。今日の大根づくしの給食を食べるとみなさんの耳もよくなるかもしれません。ぜひ図書館で借りて読んでみてくださいね！！

① 人との出合いやワクワクとの出合い



ハロウィンのモバイルや本の旅の国旗、紅葉なども異学年の児童と共に制作

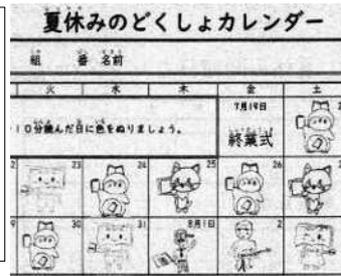


ペットボトルのラベルや葉っぱを使ったしおりを図書館祭りでくじびきの景品に！

2024 循誘小図書室キャラクターの選定と活用



図書だよりのイラストや、夏休みの読書の色ぬりに活用。また、前期目標達成者全員にキャラクターしおりをプレゼントした。



〇〇マンとのコラボお話会の開催



皿まわしのチョウチョが難しかったがうまくいった。



図書委員会が演出、司会を行い、キャラクターの〇〇マンをゲストとして迎える形で行い盛りあがった。本の読み語りに加え、ギター演奏&図書室の様子替え歌あり、「焼きいもグーチャーパー」の手遊び歌ありの楽しい会となった。閉会後は1年生が「サインくださーい♡」と〇〇マンの周り集まり、とても微笑ましかった。

② 情報との出会い 佐賀市電子図書館の使用



↑左側に本のジャンルがあるのでそこから入って本を探すことができます。また、かりることもできる。試し読みもできる本もある。

読み放題をクリックすると借りることはできないが本を読むことができます。同時に複数人利用OK

6年生に佐賀市電子図書館の使い方を説明し、実際に使用しているところ。公式の「佐賀市電子図書館利用案内」とあわせて、簡単な使い方のプリントも作成し配布。まずは紙の資料で読書の素地を養うことが大切だと考えてはいるが、今後多いに活用して自身の成長につなげてほしい。

令和6年度(2024年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	多久市立東原産舎東部校	児童数 274人
-----	-------------	----------

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	「TOBU 2024」読書のバトンをつなごう
	取組期間	令和6年(2024年)4月8日～令和6年(2024年)11月30日

※令和6年(2024年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和6年(2024年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

	取組人数	274人	実施日数	237日	読書冊数	33998冊	連携した団体数	6団体
評価	取組内容(概要)	<p>①SAGA2024 国スポ・全障スポとのコラボ企画「TOBU2024」</p> <ol style="list-style-type: none"> 国スポ全障スポコーナー設置…スポーツの本の紹介 掲示板の工夫…国スポを応援しよう!の掲示物を作成 多久市国スポ課との連携…コーナー設置に関して SAGA2024 多久市実行委員会の Instagramで紹介してもらう。 読書のバトンをつなぐ取組 <ul style="list-style-type: none"> ○おすすめ本の紹介…月ごとにテーマカラーを決めて本の色でコーナーを作成。 季節のバトンもつなぐ。 ○委員会の取組…学習委員会主催の図書館まつりを6月に開催。 読書ビンゴと図書館クイズのイベントを行う。 ○担任の先生から児童生徒へ…先生方自ら図書館へ足を運び、貸出や読書を促進。 本の寄贈も50冊を超えた。 ○多久市立図書館とのバトンの受け渡し…市立図書館コーナーを設置。(月1入替) ボードゲーム体験会。 おはなし会の実施。 市立図書館のイベントへの参加。 ○秋の読書週間の取組…「どうぞのいす」おすすめの本をつないでいくイベント。 ハロウィンイベントの実施。 期間中毎日3冊貸出を行う。 ○読み語りボランティアグループ「サザエさんクラブ」による朝の読み語り活動 …毎月第一火曜日の朝、1年生～6年生に実施。 ○多久ロータリークラブからの図書の寄贈 …毎年、命に関する本をいただいている。多久市のHPでも紹介。 ○ポプラ社主催のPOPコンテストに応募 …POPでおすすめの本のバトンを渡す。 						

	<p>②東部校グリーン図書館で継続している取組</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館オリエンテーション…4月に1年生から9年生まで全クラスに実施。 2. 放課後児童クラブ「なかよしクラブ」との連携…長期休業中の開館日の図書館利用。 3. 読書の星…本の貸出冊数が前期課程 100 冊、後期課程 50 冊達成すると個人カードに星がもらえる。 <p>○今年度はそれに加えて「東部校スターツリー」も作成。</p> <p>学年ごとの目標冊数を達成した人の名前が書かれたスターを貼って掲示している。</p> <p>11月までに全員達成したクラスが全クラス中2クラス。</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 読書ノートの活用…県まなび課よりいただいた読書ノートを活用。 5. 環境整備…図書館内、図書館前掲示板に季節ごとの掲示や装飾を行っている。
工夫したこと	<p>今年はオリンピックと佐賀県で国民スポーツ大会が開催されるということで、「児童生徒にもっとスポーツに興味をもって欲しい」、「スポーツを見る側・支える側として学校図書館でできることは何か」と考えた。同時に、国スポテーマソング「Batons」にちなんで、読書のバトンを渡すということでおすすめの本の受け渡しができるような取組を行ない、読書のリレーが実現した。</p> <p>①読書のバトンを渡す取組では、学校内ではもちろんのこと、多久市国スポ課や多久市立図書館や読み語りボランティアグループと連携をし、学校の図書館以外の本や資料などいろんな活動を知ることができるよう工夫した。</p> <p>また、月毎のテーマカラーを決め、本の表紙の色でおすすめ本のコーナーを設置し、いろんなジャンルの本を知ることができるようにした。</p> <p>②例年行っている常時活動に関しては、学習委員会や図書館によく来館する児童生徒も巻き込みながら、図書館に来たくなるような取組を行なった。</p>
取り組んだ感想	<p>今年度は、おすすめ本のコーナー設置や掲示板等を活用し、今までと違った方向から図書館のPRをすることができた。その成果もあり、来館者がとても多く、興味を持ってくれる児童生徒が増えたと実感している。また、なによりも教職員の協力が多大で、図書館へ足が向くように声かけをしてもらったり、実際に図書館を利用してもらうことが多く、読書活動が盛んになった要因の一つである。学校全体で児童生徒に本に親しんでもらいたい！という雰囲気を感じられ、図書館運営が上手く遂行できた。他機関との連携も盛んに行なうことができ、特に多久市立図書館とは密に連絡を取り合い、学校図書館と市立図書館のそれぞれの良さをミックスして、読書の楽しさやたくさん本を周知することができた。</p>
<p>今後の取組予定 (令和6年(2024年)12月 ～令和7年(2025年)3月)</p>	<p>好評であるテーマカラーのおすすめ本コーナーは3月まで続け、目標達成者数でスターが増えていく「東部校スターツリー」が全クラスで完成するよう、声かけと読書活動を引き続き行っていく。本校は1月から新生徒会での委員会活動がスタートするので、今までの良さは引き継ぎ、充実した活動ができるようにしたい。これからもバトンを渡し続け、読書リレーが盛んになるよう学校全体で東部校グリーン図書館を素敵な居場所にしていきたい。</p>

【 取り組み内容 】

①-1 国スポ・全障スポコーナー



オリンピック・国スポにちなんで、スポーツに関する本を集めました。図書館前掲示板には、テーマソングの「Batons」の歌詞を掲示し、多久市で開催されるスポーツライミングと弓道競技の日程なども紹介しました。

①-3 読書のバトンをつなぐ取組



4月



5月



6月

一番好評だった緑



7・8月



11月

月毎にテーマカラーを決め、ジャンルを問わず、本の表紙の色でコーナーを作成しました。緑の5月が一番反応が良かったです。また、夏は黄色、秋はオレンジにするなど季節を感じることもできました。

学習委員会主催による図書館まつりを6月に行いました。イベントは、読書ビンゴと図書館クイズです。学習委員が準備から運営まで頑張りました。



読書ビンゴ

テーマに合った本を借りたらスタンプを押してもらえます。



図書館クイズ

5問のクイズを2種類準備

全問正解者にはオリジナルしおりが作れる券を渡して、オリジナルしおりを作ってもらいました。

多久市立図書館と連携し、おはなし会や、ボードゲーム大会、イベント参加を行いました。
市立図書館の本も毎月入れ替えをしてもらい、学校図書館にない本にも出会うことができました。



多久市立図書館コーナー



「妖怪図鑑」のぬりえにチャレンジ。中央公民館に展示されました。



1・2年生 多久市立図書館のおはなし会
多久市立図書館の妖精「読谷雅男」と読谷体操しました♪



多久市立図書館のボードゲームを
体験させていただきました。

秋の読書週間期間中には、毎日3冊貸出を行い、「ハロウィンイベント」と「どうぞのいす」の取り組みを行いました。たくさんの児童生徒が図書館に来館してくれました。



絵本「どうぞのいす」グリーン図書館バージョン
次の人に「どうぞ♡」とおすすめの本を紹介しています。



ウォーリーの仮装でおどむかえ♪
この日、本をかりた人には新しい本
2さつ貸出券をプレゼント。



読み語りボランティアグループ
「サザエさんクラブ」による月1
回の朝の読み語りを行っています。



多久ロータリークラブ様より、
毎年本の寄贈をいただいています。
学習委員会とお礼の手紙を送りました。



ポプラ社のPOPコンテストに
今回も応募しました。
一生懸命作成してくれました。

②-3 読書の星

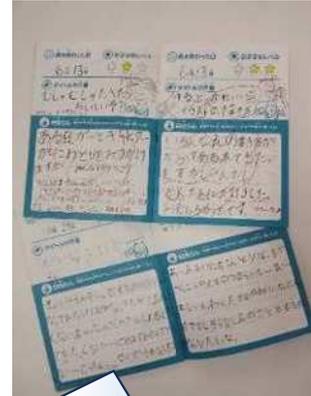


前期課程 100冊
後期課程 50冊
達成すると、個人カードに星☆



東部校スタートリー
目標冊数達成した人の名前が書かれたスター☆を貼っていきます。

②-4 読書ノートを活用



本の感想をたくさん書いています。

②-5 環境整備

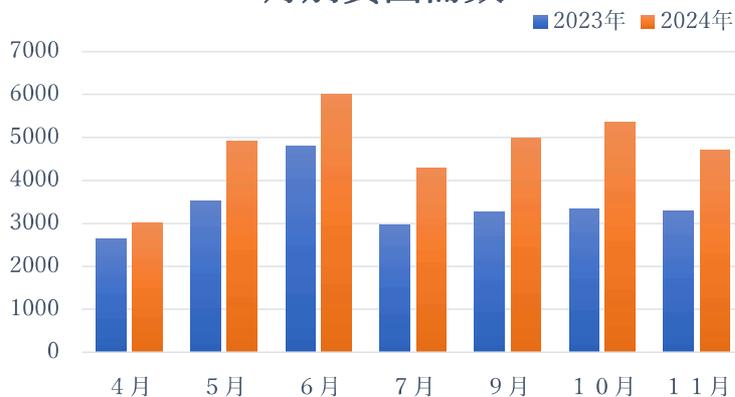


毎月、学習委員会と季節感のある掲示物やコーナーを作っています。
図書館に入りやすい雰囲気になるよう心がけています。



課題図書コーナーや
平和の本コーナーも設置しています。

月別貸出冊数



昨年度より、全ての月において貸出冊数が増加しました。
 いろんな取組の成果が、図書館利用の増加に表れたようです。
 協力していただいた先生方と、連携してくださっている団体の皆様のおかげでもあります。
 これからも、児童生徒がたくさんの本に親しむことができるような取組を考えていきたいと思ひます。

令和6年度(2024年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	佐賀市立大詫間小学校	児童数	73人
-----	------------	-----	-----

I.取組前の宣言内容

宣 言	目 標	図書館をもっと好きになろう！
	取組期間	令和6年(2024年) 4月15日 ~ 令和6年(2024年) 11月30日

※令和6年(2024年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和6年(2024年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

	取組人数	73人	実施日数	261日	読書冊数	10030冊	連携した団体数	1
評 価	取組内容(概要)	<p>① 図書館利用への動機付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポイント制度の導入や図書委員による表彰・年度当初の目標決め ・各種イベント・参加したくなる「図書館まつり」 ・市立図書館の団体貸出の利用 <p>② 図書委員会の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書委員おすすめの本のコーナーの常設 ・図書委員手作りの賞状・メダル・図書委員によるビブリオバトルの開催 ・川副地区「コラボ給食」 <p>③ 本の紹介の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が自分たちで選ぶ「おすすめ20選」・「新着図書」の掲示 ・「みんなのおすすめの本」のコーナー <p>④ その他 ・職員全員参加型の「朝の読み聞かせ」</p>						
	工夫したこと	<p>① 図書館利用への動機づけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本を借りたり、イベントに参加したりするともらえる「おだくまポイント」を導入した。ポイントを集めると「オリジナルカード」や「しおり」「一日図書委員券」などと交換できる。 ・年度初めに各児童の目標を書かせたカードを作成し、図書館の入り口に掲示した。貸出冊数が50冊を超えるごとに、自分でシールを貼らせた。また、毎月の図書館だよりで各月の多読者の紹介をした。月毎に区切って紹介することで、多読者が毎月入れ替わり、児童の意欲を喚起することができた。年間貸し出し冊数が100冊を超えると賞状・200冊を超えるとメダルがもらえるようにしている。 ・図書館まつり以外にも、ほぼ毎月くじ引きなどのイベントを行った。9月に「本のクイズを作ろう」というイベントでは、児童にクイズを作らせ、10月にはそのクイズを使って「ハロウィン本クイズ」のイベントをした。封筒に入れて外にバーコードを貼ることで借りる本がわからないようにして期待感を高め、また、その本には友達が作ったクイズを貼っているので本を読んでクイズを解く楽しさも味わえるようにした。 ・図書館まつりではパリオリンピックを意識した「縦割り班対抗の国旗パズルの作成」、「縦割り班対抗の辞書引き大会」秋には国スポを意識した「縦割り班対抗の日本縦断カーレース」を行い、小規模校 						

	<p>の特性を活かして、縦割り班で楽しめるような工夫をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模校で蔵書数も少ないため、積極的に市立図書館の分館や分室を利用して、常に読んだことのない新しい本を児童が借りられるようにした。 <p>② 図書委員会の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動の時間に各自おすすめの本を選び、おすすめのポイントや、クイズを作り、「図書委員のおすすめの本のコーナー」として常設した。 ・「ビブリオバトル」自体を知らない児童が多かったので、児童集会を利用して図書委員によるビブリオバトルを開催した。ルールを変更し、一人1冊ではなく2人または3人で1冊の本を紹介する形式にしたことで、図書委員も緊張せず発表することができた。 ・多読者向けの賞状とメダルを図書委員が手作りしている。また表彰式も月ごとに、給食の時間を利用して各教室で図書委員が行った。 ・川副地区はセンター給食方式のため、栄養教諭と連携が必要な、本に出てくる食べ物が給食のメニューとして登場する「コラボ給食」のイベントを開催しにくい環境だが、栄養教諭と川副地区の学校司書が協力して実現することができた。同時に他校の図書委員会が作成した「スープが出てくる本」のポップコーナーも作ったので、他校の図書委員との協働もできた。 <p>③ 本の紹介の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年初のオリエンテーションの時間で図書の分類について勉強した後に、児童それぞれに担当の分類を割り振り、選書させて、0類から9類・絵本を網羅したクラスごとの「おすすめ20選」を選定した。「おすすめ20選」の本を読むとスタンプがもらえ、冊数に応じてポイントがもらえるようにしたことで様々なジャンルの本に触れる機会が増えた。 ・「新着図書」の本の表紙画像を図書館外の入り口横に掲示して、児童の目につきやすくした。図書館が開いていない時間や掃除時間にも児童の目に触れることで、新着図書に興味を持って本を借りに来る児童が増えた。 ・夏休みの読書カレンダーの裏を利用して「おすすめの本」の紹介のページを設け、自由記述にした。その中からクラスごとに数人を選び、「みんなのおすすめの本コーナー」を作り、紹介文とともに展示した。借りる本を選べない児童に対して「ともだちのおすすめの本を読んでみたら？」と声かけがしやすくなった。 <p>④ 読書ボランティアと教職員による朝の読み聞かせ活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校では長年に渡って、月に2回、2名のボランティアに読み聞かせをしていただいているが、今年度からボランティアが入れないクラスには校長・教頭を含め、職員全員が交替で入るようにした。担任ではない先生の読み聞かせは新鮮なようで、児童も毎回楽しみにしている。
<p>取り組んだ感想</p>	<p>昨年度の同時期より、一人当たりの貸出冊数は約10パーセント増加したので、「図書館をもっと好きになった」児童が増えたのではないかと思います。読書の入口は学校の図書館の入口でもあると思うので、まずは図書館に来ることを習慣化してほしい。ビブリオバトルは初めての試みだったので図書委員が行ったが、紹介した本はどれも貸出冊数が伸びたので、来年度以降は図書委員以外の児童や教職員も含めた本格的なビブリオバトルを開催したい。</p>
<p>今後の取組予定 (令和6年(2024年)12月 ～令和7年(2025年)3月)</p>	<p>1月は、「図書館たからくじ」のイベントを計画中。</p> <p>また、冬休みに読んだ本の中から「みんなのおすすめの本」のコーナーを設置する。</p> <p>バレンタインデーの時期には、折り紙で作る、メッセージカードの作成イベントも予定している。</p>

図書館利用への動機付け

～ポイント制度～



本を借りたり、イベントに参加したりするともらえる「おだくまポイント」。いろいろな賞品や権利と交換できる。



しおり・豆本やフリーパス券・オリジナル貸出しカード



大谷選手になりきってパチリ。



「一日図書委員」は1年生に大人気



5ポイントで図書館に購入する本を自分で選書できる



図書館の入り口に、全員の目標を掲示



6年生女子の目標。
「目標冊数は100冊。
5(類)の技術など生活に生かせる本を借りたい」

50冊かりごとに自分でシールを貼らせて達成状況が目で見えてわかるようにしている



くじ引きのイベントは大人気。いつも行列ができる。賞品は「おだくまポイント」なので準備も簡単。



「ハロウィン 本クイズ」のイベント。本は袋に入っているのので、どの本が当たるかわからないドキドキ感と、友だちの作ったクイズを解くワクワク感が味わえる。



児童が作ったクイズ

開けずに貸出しができるように袋の外に本のバーコードを貼付

クイズに正解するとポイントがもらえる



図書館の一角に「市立図書館から借りてきた本」のコーナーを設け、相互貸借を利用して、本館・分館などから借りてきた本を常時150冊程度配架している。常に新しい本が図書館にあることで、図書館へ来る動機付けにもなる。また、児童のニーズを知ることができるので、実際に購入する本の選書にも役立つ。

～図書館まつり①～



縦割り班で協力

1学期はパリオリンピックを意識して「世界の国旗パズル」を実施した。どの国の国旗なのか、本を使って調べる児童がたくさんいた。
2学期は国スポを意識して、北海道をスタートしてゴールの沖縄を目指す「日本縦断カーレース」を実施。自分の班の車が、何県にいるのか、毎日教えてくれる児童もいた。「家族で行ったことあるよ!」「〇〇県は～がゆうめいだよ」と、会話はずむ。

～図書館まつり②～



縦割り班対抗の「辞書引き大会」
小さな声なら、班のなかまで協力できる
ルールにしたので、辞書引きが苦手な児童も含め全員が楽しめた。

図書委員によるお話しは毎回大盛況だった。

パソコンの動画も利用したので
作り方を忘れても安心



教育実習生をゲストにおかえて
「秋といえば…」のビンゴ大会

図書委員が先生になってトロの折り紙づくり

～コラボ給食～

「コラボ給食」のイベントでは、川副中学校と川副地区の小学校4校の図書委員が担当して「スープの出してくるおすすめの本」のポップを作成した。



図書委員会の活動

「図書委員おすすめの本」のコーナーを常設し、委員会活動の時間に、図書委員が自分のおすすめの本の紹介文を書いて展示している。カードには、おすすめのポイントをひとこと書いて、本の中からクイズを1つ出すようにしている。



～ビブリオバトル～



新着図書の中から、自分たちで紹介する本を選び、何度も練習して挑んだ。「ビブリオバトル」について知らない児童が多かったが、すぐにルールを理解して楽しんでいた。
挙手でチャンプ本を決定。選ばれた『バナナじけん』は、しばらく予約が途切れないほど人気の本になった。

～図書委員会による表彰～



本校では毎年図書委員が100冊達成者に贈る賞状を手作りしている。名前書きから表彰まで、すべて図書委員が行う。



給食の時間を利用して、各クラスで表彰式。



200冊達成者には折り紙で作ったキラキラメダルを授与。こちらも、図書委員と司書で作成した。

本の紹介の工夫

～おすすめ20選～



4月のオリエンテーションの時間を利用して、「おすすめ20選」用の本を分類ごとに児童に選ばせた。20冊に満たない部分については、教科書で紹介されている本や、司書のおすすめの本を入れた。「おすすめ20選」の本を借りるごとにスタンプを押すことができ、10冊・20冊達成でそれぞれポイントがもらえるようにした。「おすすめ20選」の本は別置せず配架し(分かりやすいように、背に学年のシールを貼った)自分でスタンプカードの請求記号を見て探すようにして、自然と背ラベルのしゅみや、配架場所が覚えることができるよう工夫した。

～みんなのおすすめの本コーナー



児童が夏休みに読んだおすすめの本を紹介したコーナー。宿題で配布する「読書カレンダー」の裏を利用して、紹介文を書かせた。

～新着図書のご案内～

図書館入口の廊下にある「新着図書」のコーナー。児童の目につくよう、カラーで印刷している。



朝の読み聞かせ



月2回の朝の読み聞かせの時間。地域ボランティアのお二人と教職員4人が各クラスを担当している。

一人当たりの貸出冊数の変化

1年(7人)	151冊
2年(16人)	133冊
3年(9人)	168冊
4年(17人)	107冊
5年(10人)	77冊
6年(5人)	101冊
全校(64人)	122冊

令和5年度



1年(14人)	163冊
2年(7人)	166冊
3年(16人)	114冊
4年(9人)	100冊
5年(17人)	140冊
6年(10人)	147冊
全校(73人)	137冊

令和6年度

全体では昨年度より約10%、一人当たりの貸出冊数が増加した。学年ごとに見ると、5年生が4年時の107冊から140冊、6年生が5年時の101冊から147冊と、大幅に増加しており、学年が上がるにつれ図書館へ足が遠のいていた児童の図書館利用が増えたことがわかる。

令和6年度「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	伊万里市立黒川小学校 児童数 102 人	担当者名	筒井由起子、大倉洋子
住所	郵便番号 848-0123 佐賀県伊万里市黒川町大黒川1335-1	電話番号	0955-27-0010

◆ご提出いただいた個人情報は、本事業のためのみに使用し、それ以外の目的に使用することはありません。なお、県における個人情報の取扱については、佐賀県プライバシーポリシー及び行動プログラム (<http://www.pref.saga.lg.jp/web/privacy/privacypolicy.html>) に定めています。

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	黒小っ子キラリ④『進んで読書をしよう!』達成プロジェクト!!～本だいすき～
	取組期間	令和6年 4月8日 ～ 令和6年 11月30日

※令和6年4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和6年11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

	取組人数	102 人	実施日数	236 日	読書冊数	6751 冊	連携した団体数	3 団体
評価	取組内容 (概要)	<p>【宣言目標の設定理由】 児童の読書冊数が近年減少してきたため、まずは図書室へ数多く足を運んでくれるよう楽しい取組や工夫が必要と考え、目標を設定した。</p> <p>【主な取組】</p> <p>*学習センターとしての取組 ①市民図書館の利用 ②オルゴールの活用 ③合言葉『サイレントリーディング』など</p> <p>*情報センターとしての取組 ①図書館日より、市民図書館からの家読おすすめの本の紹介</p> <p>*読書センターとしての取組 ①個人カードの工夫 ②おすすめビンゴ50 ③ハッピーブック ④もう1冊借りられる券 ⑤わくわくデー ⑥ぶっくんの利用 ⑦読み語り ⑧図書委員会の活動 ⑨ブックランチ in 校長室 ⑩soraによる平和集会⑪図書館ネットワーク出前授業⑫被災地への読書郵便 ⑬家読郵便</p> <p>*家庭・地域ぐるみの読書推進 ①KJRの活動 ②家読・ノーマディアウイーク ③リレー家読 ④育友会の読み語り</p>						
	工夫したこと	<p>*学習センターとしての取組 ①各学年の学習に必要な本を図書室、または市民図書館より借りて、準備、貸し出しをする。 ②『サイレントリーディング』&癒しの場 静かに読書が楽しめるように、『図書室で聞こえてくる音は、オルゴールの音と本をめくる音だけ!』を合言葉に「サイレントリーディング」を心掛けるよう児童に呼びかけ励ましている。また、児童にとってホッとできる癒しの場としての図書室になるような環境づくりを目指している。上手にできている子は図書館日より知らせたり、個人カードへシールを貼ったりしている。</p> <p>*情報センターとしての取組 ①図書館日より、市民図書館からの家読おすすめの本の紹介(月1回)などを知らせている。</p> <p>*読書センターとしての取組 ①個人カードの工夫 貸出の履歴(3年生以上はページ数も記入)、読書月間などのがんばり表、おすすめビンゴ50、ハッピーブック、『もう1冊借りられる券』入れなどを1冊にまとめている。 ②おすすめビンゴ50(1年間) 国語の教科書に紹介されている本を各学年50冊おすすめビンゴコーナーの本棚に並べている。分類番号でビンゴを作りビンゴが完成したらメモ帳(ブックカバーで作成)、「もう1冊借りられる券」がもらえる。 ③ハッピーブック(毎月)毎月テーマを決め、ハッピーブックコーナーを作っている。低中高学年それぞれ約20冊の中から校長賞を2冊決め、ヒントを読んで校長賞の本を当てるという取り</p>						

<p>工夫したこと</p>	<p>組みをしている。校長賞の本を借り見事に当てた児童は、シールと賞品がもらえる。</p> <p>④『もう1冊借りられる券』 『もう1冊借りられる券』を10枚使用したら、しおりと交換できる。</p> <p>⑤わくわくデー(毎週火曜日) 図書室に楽しんで足を運んでくれるよう毎週火曜日に本を借りたら「もう1冊借りられる券」のガチャのくじ引き(はずれなし1～3枚もらえる)ができる取り組みを今年度より始めた。</p> <p>⑥ぶっくん(3週間に1回) 各学年の図書係がぶっくんの本を30冊選書し、朝読書や隙間時間などに活用している。個人カードでぶっくんを利用している児童や先生方もいる。</p> <p>⑦『おはなしどんぐり』による読み語り(毎月2回) ・毎月テーマを決められて各学年に読み語りをしてくださっている。また、毎回おすすめ本を教室に2、3冊置いてくださっている。 ・低学年の国語の授業に参加協力してくださり、読み語りや音読指導をしていただいた。</p> <p>⑧図書委員会の活動 ・読書月間(6月) 図書委員会による活動の一つで、ブックイズ(毎日給食時間に放送)、読み聞かせ(紙芝居、絵本の読み語り)、「レッツゴーライブラリー」(図書室の本を10回借りに行こう)をした。 ・図書館まつり(11月) 読み語り(絵本・紙芝居・指人形を使用)、読書パズル(赤組白組対抗で、本を借りたらピースを1枚貼る)、読書ビンゴ(いろいろな種類の本を読めるように学年で条件を変えている)をした。</p> <p>⑨ブックランチ in 校長室(第2・3・4水曜日) 毎月の多読賞、多ページ賞など読書をがんばっている児童を各学年3人ほど選び、校長室でそれぞれ持ち寄ったおすすめの本1冊を紹介、感想を出し合いながら、大好きな校長先生と一緒に給食を食べるという取り組みを去年9月より始めた。その様子と参加者のおすすめの本の紹介を図書館だよりで家庭に知らせ、参加者には季節に合わせた記念バッチを渡している。また、なるべくたくさんの児童が参加できるように配慮している。</p> <p>⑩平和集会(6月 soraによる読み語り・歌) 平和に関する歌や絵本の読み語り(スクリーンを使用)をしていただいた。</p> <p>⑪被災地に届けたい絵本の読書郵便(7月 中島進先生による授業) 絵本図書館ネットワークの方々から選書された123冊の本を図書室に準備し、5、6年生を対象に授業をし、読書郵便につなげてくださった。</p> <p>⑫家読郵便 毎年埼玉県三郷市で行なわれる「うちどくゆうびんコンクール」に応募している。</p> <p>*家庭・地域ぐるみの読書推進</p> <p>①KJR(児童による読み聞かせグループ)による家読発表会への参加 黒川小の児童の読み聞かせグループ(希望者)で地域の家読発表会、ふるさつまつり(11月)クリスマスお話し会(12月)などに参加し、読み語りや歌(手話付き)を披露している。</p> <p>②ノーメディア・家読ウイーク(毎月10日間) ノーテレビ・ノーゲームを家庭に呼びかけ、家読ウイークの日は、トランプ・読書などを家族で楽しむ家庭が増えてきている。</p> <p>③リレー家読(各学年) 各学年2つのバッグにそれぞれ学年に合ったおすすめの本を「おはなしどんぐり」さんが準備してくださり、親子で1冊の本を読み一言感想を親も子どもファイルに記入し、学年で感想などを共有できる取り組みをしている。保護者にも好評で児童も親や弟妹に読み聞かせをしたり、親に読んでもらったりと、親子関係にもいい影響を与えているようだ。</p> <p>④育友会の読み語り(年1回) 昨年度より各学年の役員さんで朝の時間に読み語りをしていただいている。自分の親、友達の親の読み語りを子どもたちはとても楽しみにしている。</p>
<p>取り組んだ感想</p>	<p>*ブックランチでは、大好きな校長先生と一緒に給食を食べながら、おすすめの本を紹介し合う中で、発表の仕方が上達し表現力がついている。また、ブックランチに参加したいと思う児童が増え、本を借りる回数、ページ数が多い長編小説などを借りる児童が増えた。その時にももらえる記念バッチを楽しみにしている子どもも多く、もらった子は図書バックにつけ大切にしている。</p> <p>*読書月間(6月)では、図書委員により読み聞かせを全学年楽しみにしており、感想発表で「図書委員の読み聞かせが登場人物になりきって読んでいてよかった」と言われ、次回のやる</p>

		<p>気につながっている。</p> <p>* 毎週火曜日のわくわくデーの取り組みにより、『もう1冊借りられる券』のガチャを楽しみに本を借りる子が急増した。もう1冊借りられる券もどんどん使い、しおりと交換できるのを楽しみにしている。</p> <p>* 3年以上は、個人カードにマンガ・図鑑以外の読み物の本は、ページ数を記入するようにしてから、長編小説に挑戦する子が増えた。</p>
	<p>これまでの取組や 今後の取組予定</p>	<p>・新しいお楽しみ的な取り組みに進んで取り組む子が増えたが、読書量が多い子少ない子が固定してきているので、全校みんなが読書を楽しみにできるような取り組みを考えていきたい。</p> <p>・6月に読書月間、11月に図書館祭りを実施した。そこで数年前にした『折り紙教室』をしてほしいとの要望があったので、3学期に予定している。</p> <p>・12月の地域のクリスマスお話会にKJRが読み語り、手話などで参加予定。昼休みに練習。</p>

* 個人カード ↓ 読書月間 ↓ 毎月の読書記録 ↓ ハッピーブック ↓ ページ数も記入



* おすすめビンゴ50

学年ごとに完成した子の出席番号を学年カラーで塗る

個人カードのビンゴ表の分類番号を塗っていく

ほ1年ん2年だ3年い4年す5年き6年

* ハッピーブック(月1回)

校長賞の本を当てたらくじを引き、校長先生より賞品をもらう。

わくわくデー(毎週火曜日)

1~25までの番号が書いてあるガチャ

毎週火曜日に本を借りたら、ガチャの番号に入っている『もう1冊借りられる券』がもらえる。1~3枚入っている。はずれなし！
楽しみにされている担任の先生もいて、児童と和気あいあいにくじを引いている姿がほほえましい。

＊「おはなしどんぐり」（読み聞かせ月2回金曜日8:10～8:25 ・ 読み聞かせ突撃隊（昼休み不定期）・国語の授業参加）



「読み聞かせ突撃隊」

昼休み、図書室でおはなしどんぐりさんの読み聞かせのサプライズもしていただいた。

1年生国語の授業『昔話』にゲストティーチャーとして参加



＊読書月間（6月）



＊ブックランチ in 校長室



ブックランチで紹介された本に興味を持った子が増えた。図書室入り口にコーナーを作り、自由に貸し出しができるようにしている。



毎回、和やかな雰囲気の中、本を紹介し合い、「あ！それ読んだことある」「・・・だったよね」「ぼくは・・・って思ったよ」など自分の考えや感想などを自由に出し合っ、校長先生との給食を楽しんでいる。その様子やおすすめの本を図書館だよりで紹介している。

図書バッグに記念パッチ



＊「soraによる平和集会」



授業参観日に実施し、保護者にも参加してもらっている。情感たっぷりの読み聞かせに平和の尊さを毎年、実感し涙ぐむ先生や児童もいる。

＊被災地へ読書郵便「中島進先生による授業（図書室で）」



被災地で読み聞かせをした様子などを話していただいた。



7つのテーマごとに分けられた本の中から想いを伝えたい人を決め手紙を書いた。言葉を大切にしてほしいという中島先生の想いが詰まった授業だった。

*** KJR の「家読発表会」参加**

読み方のアドバイスやポイントなどを教えていただき練習した。



『黒川町ふるさとまつり』で、絵本の紹介をした。



*** メモ帳&しおり**

ブックカバーの再利用や折り紙での手作り「落ちないしおり」などを景品として目立つところに掲示している。しおりめあてで毎週火曜日のワクワクデーに必ず本を借りに来る児童が増え、担任の先生も一緒に本を借りに来るといふ今までにない光景が見られるようになった。担任の先生も喜んでしおりを選ぶ姿に児童も笑顔で会話が弾んでいた。

ブックカバー再利用



落ちないしおり



ブックカバー再利用



*** 「読書の実を实らせよう！」**



【一人一人の読書量を視覚化】

50冊達成・・・青りんご
 100冊達成・・・赤りんご
 5000ページ達成・・・梨（幸水）
 10000ページ達成・・・梨（豊水）
 「やったあ！僕の青りんごがある！次は赤りんごだ！」と喜びながら、図書室に足を運ぶ児童が増えた。

*** 図書館まつり(11月1日～11月29日)**



指人形を使っでの読み聞かせを初めてした。大好評で、図書委員ももっとしたいと次のイベントを考えている。

読書ビンゴ
 (学年に合った条件)

読書パズル (赤組 v s 白組)

令和6年度(2024年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	佐賀市立諸富北小学校
	児童数 232人

I.取組前の宣言内容

宣 言	目 標	出あおう いい本 育もう いい心 ～家庭・地域と連携した読書活動の充実を目指して～
	取組期間	令和6年(2024年)4月8日 ～ 令和6年(2024年)年11月30日

※令和6年(2024年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和6年(2024年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

	取組人数	232 人	実施日数	237 日	読書冊数	26001 冊	連携した団体数	3 団体
	取組内容 (概要)	1, 日常的な読書活動の推進 2, 足を運びたくなる図書室の環境づくり 3, 家庭・地域と連携した読書活動の充実 4, 児童主体の委員会活動 5, 学習センター機能の充実						
評 価	工夫したこと	<p>1. 日常的な読書活動の推進</p> ①朝の帯活動として「読書タイム」を設定し、日常的に読書に取り組ませている。 ②週末の家庭学習を工夫し、毎週家庭で読書する時間を設け、取り組ませている。 ③毎月、地域のボランティアの方に「読み聞かせ」をしていただいている。 ④各学年の児童に読んでほしい本を「にじいろ50選」として選び、読書を勧めている。 10冊ごと読み終わるたびに図書室でくじ引きができる仕組みにし、楽しみながら50冊を読み進められるようにした。「50選」の完読者は毎月の全校昼会で紹介され、校長から表彰されることになっている。にじいろ50選を達成した人は、図書室入り口近くの廊下に写真をはっている。発達段階に合わせた良書に親しむ取り組みとなっている。 ⑤毎月発行している「図書館だより」で「にじいろ50選」達成者や100冊、200冊達成者の紹介を行っている。 ⑥図書室の壁面に「北っこだくしょの木」コーナーがある。100冊、200冊、300冊ごとの花や実がなる仕掛けになっている。 ⑦全校児童で「読書ノート」を活用している。高学年はタブレット端末を活用して、読んだ本の題名とその感想を同じ学級の児童同士で共有し、楽しみながら読書の幅を広げている。校長がお昼の放送で児童の感想を紹介している。 ⑧夏休み・冬休みには長期休業中の図書室の開館日が一目で分かり、長期休業期間中の読書記録を残すことができる「読書カレンダー」を配付し活用させている。						
		<p>2. 足を運びたくなる図書室の環境づくり</p> ①季節や学校行事に合わせた掲示を行い、明るく楽しい図書室づくりを行っている。 ②本を分類番号順に配架し、一目でわかる表示を設置することで、本を探しやすく、整理しやすい環境を整えた。 ③図書委員おすすめの本の紹介コーナーを図書室に設け、読書の幅を広げるための取り組みをしている。						

	<p>④年度初めに人通りの多い掲示板に先生方のおすすめの本紹介コーナーを設け、読書に興味を高めてもらう取り組みを行った。</p> <p>⑤コーナー展示を充実させている。(新刊図書コーナー・市立図書館の本コーナー・過去の課題図書コーナー等)</p> <p>⑥新たに読書ルームを設置した。空き教室を活用して図書室に隣接する教室を読書ルームとして整備し、静かに本を読むことができる場所を増やした。読書ボランティアによる昼読み会や図書館祭りのイベント等を行うなど、読書に関連する様々な活動を行う場所と位置付けている。</p> <p>⑦図書館まつりのイベントの一つに、外国語専科教員による英語の絵本の読み聞かせを行っている。</p> <p>3. 家庭・地域と連携した読書活動の充実</p> <p>①月に一度家庭で行うノーテレビ・ノーゲーム・ノースマホデーに合わせて親子読書「ぼかばか読書」の取り組みを行っている。</p> <p>②読み聞かせボランティア「お話オルゴール」による読み聞かせを毎月第1水曜日の朝に行っている。</p> <p>③読み聞かせボランティア「お話オルゴール」による読書ルームでの「昼読み会」を毎月第4水曜日に実施している。</p> <p>④佐賀市立図書館・分館の諸富館と連携して、読書活動が充実できるようにしている。近くにある市立図書館分館の諸富館のイベントは積極的に紹介し参加を呼びかけた。</p> <p>⑤保護者へ向けて、「諸富北小学力向上だより」を発行しており、その中で音読や読書が子ども達に与える良い効果等を情報発信し、読書活動の啓発を図っている。</p> <p>⑥市立図書館や他校から本を集め、国語科学習での、同じ作者の書いた文学について、読み広げられるように環境を整えた。</p> <p>⑦年2回佐賀市立図書館から団体貸し出しをして学校にない本児童に貸し出している。</p> <p>4. 児童主体の委員会活動</p> <p>①図書室の使い方オリエンテーション動画を作成し、活用した。図書室利用のルールについて全校で共通理解することができた。</p> <p>②図書委員の児童が企画・運営する図書館まつりを実施した。</p> <p>5. 学習センター機能の充実</p> <p>①国語辞典・漢字辞典のクラス貸し出しを行い、学習活動に活用した。</p> <p>②授業と連携した教科学習関連図書を積極的に活用し、学習を行った。</p> <p>③相互貸借「情報流通システム」を活用し、充実した調べ学習ができるようにした。</p> <p>④国語科の言語活動で図書資料を活用して完成させた「どうぶつのひみつ」図鑑を冊子にして展示し、学習の成果物を披露する場としても図書室を活用している。</p>
<p>取り組んだ感想</p>	<p>諸富北小学校の図書室は校舎3階の一番端にあり、各教室からは一番遠い位置にある。そのような教室配置環境から、児童が気軽に来室できる場所がないため、図書室への利用者がとても少ないと感じていた。児童の来室機会を増やし、実際に本を手に取り、図書室を身近に感じてもらえるよう考え、取り組みを行った。その結果、「読書活動への取り組みを積極的に行った。」と回答した職員は100%(昨年度93%)に上昇し、「にじいろ50選や自分で選んだ本を読んでいる。」と回答した児童の割合は93%(昨年度86%)に改善した。昨年度より読書活動を充実させることができていると職員・児童共に感じていることが分かった。</p>
<p>今後の取組予定 (令和6年(2024年)12月 ～令和7年(2025年)3月)</p>	<p>読書活動充実のため、継続した取り組みを行っていく。最終的には学年末に「北っこにじいろ50選」を達成した児童が70%以上、図書室での本の貸し出し年間100冊以上を達成した人が90%以上になることを目指していく。</p>

諸富北小学校 「スクール読書チャレンジ運動」 写真資料



図書室入り口の掲示板には、季節を感じられる飾りを貼り、明るく楽しい雰囲気づくりを行った。毎月発行している図書館だよりも掲示している。



佐賀市立図書分館の諸富館専用のボードに、諸富館のイベント情報やお知らせを掲示している。

にじいろ50選を完読した児童の写真を掲示し、にじいろ50選の読書を推奨している。完読した児童にも喜ばれている。



「新着図書コーナー」、「おすすめの本コーナー」「季節や行事に合わせたコーナー」今年や過去の読書感想文の課題図書を一か所に集めた「課題図書コーナー」、など各コーナー展示を充実させている。



高学年のタブレット PC を活用した「読書ノート」。読書の記録を入力して、互いに感想を交流している。



紙の読書ノートも全学年で活用しながら、週末読書に取り組んでいる。

空き教室を活用して図書室に隣接する教室を「読書ルーム」として整備した。静かに本を読んだり、読み聞かせボランティア「お話オルゴール」による昼読み会や図書館祭りのイベント等を行ったりするなど、読書に関連する様々な活動を行う場所として活用している。





国語科の言語活動で図書資料を活用して完成させた「どうぶつのひみつ」図鑑を展示し、学習の成果物を披露する場としても図書室を活用している。



オリエンテーション動画



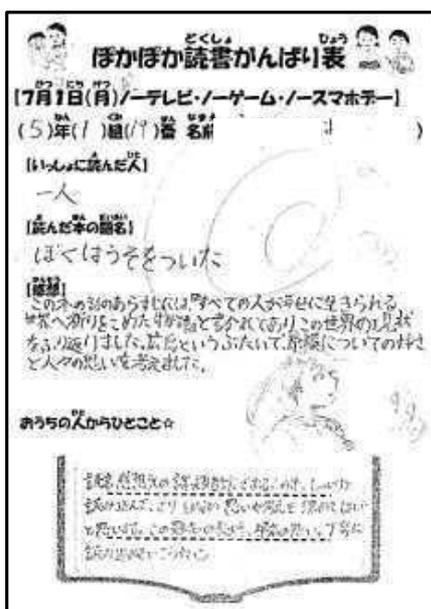
図書館祭りイベントの様子より



児童主体の委員会活動

← ↑ 図書委員児童による読み聞かせ

貸し出し業務の様子→



月に一度家庭で行っているノータレピ・ノーゲーム・ノースマホデーに合わせた、親子読書「ほかほか読書」の取り組み。↑



地域の読み聞かせボランティア「お話オルゴール」の方に、全クラスでの読み聞かせをしていただいている。



令和6年度(2024年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	佐賀市立開成小学校	児童数	414人
-----	-----------	-----	------

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	夢を抱き、心を感じる居場所をめざして 『図書館に行こうぜ!』
	取組期間	令和6年(2024年) 4月 1日 ~ 令和6年(2024年) 11月 30日

※令和6年(2024年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和6年(2024年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

	取組人数	414人	実施日数	244日	読書冊数	58058冊	連携した団体数	9団体
評価	取組内容(概要)	①興味のアナテナを広げ、読書につなげる ②図書館環境を整える(a:明るく心地よい場所をめざして b:読書量の視覚化) ③関係各所との連携						
	工夫したこと	①興味のアナテナを広げ、読書につなげる 『本の紹介スピーチ』 今年度から2年生の図書の時間に本の紹介スピーチをする時間を設けた。 幅広い種類の本に出会える機会なので、図書館にある本はジャンルを問わず全て紹介できるようにした。 『博報堂教育財団主催読書推せん文コンクールへ挑戦』 このコンクールはコミックや図鑑や詩集など書籍全てが対象で、「どんな本を選べばいいかわからない」「長い文章を読むのが苦手」「感想文って難しい」と思っている児童でも気軽に取り組みたいと思ひ応募をした。感想文が苦手と思っている児童でも、本を読む楽しさや想いが形になる喜びをこのコンクールを通して感じてくれたらと思う。 ②図書館環境を整える a:明るく心地よい場所をめざして ガチャ導入 貸出冊数が50冊100冊150冊・・・と50冊をこえるごとにプラス券や予約券等が入ったくじを引くことができる。しかし、おなじみのものばかりで少々マンネリ化していた。そこでくじを引く楽しみをもってもらおうと、そのくじの中に今年度からは新しく「ガチャ券」を加えた。 図書館マナーアップキャンペーン 夏休み明けの1週間を図書館マナーアップキャンペーン期間とした。 図書委員会で話し合い「ブックバッグの整理整頓をする」「貸出返却の時はバーコードを揃える」「本を正しい本棚に戻す」など日替わりで5つの目標を立てた。図書委員がポスターや朝の放送でその日の目標を呼びかけ、全校に周知するようにした。						

		<p>B：読書量の視覚化</p> <p>りんごの木</p> <p>図書館前の廊下には大きなりんごの木がズラリと並んでいる。</p> <p>貸出冊数100冊を達成するごとに赤→ピンク→黄色・・・とリンゴの色が変わっていく。</p> <p>学年の本棚（さくらの花、認定証）</p> <p>各学年で「〇年生の本だな」を60冊ずつ準備している。これは国語の教科書に掲載されている図書を中心に選書しており、その学年に見合った内容となっている。</p> <p>この学年の本棚から本を20冊借りると、図書館内に掲示している桜の木に名前入りの花びらが咲き、60冊全て借りると「学年の本棚 認定書」をもらえる。</p> <p>赤白対抗！図書館玉入れ</p> <p>運動会に向けて校内の士気が高まってくる中、図書館でも何かできないかと思い「赤白対抗！図書館玉入れ」を実施。運動会二週間前から、本を借りると自分の団の色シールをもらえるようにし、図書館に置いている玉入れの台紙にシールを貼ってもらった。</p> <p>③関係各所との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ボランティア（週3日） ・読み語りボランティア（年8回） ・給食コラボ（4日間） ・佐賀市立図書館団体借受、市内学校との相互貸借 ・図書委員会主催の図書館まつり（年2回）
	<p>取り組んだ感想</p>	<p>今年度は今まで取り組んでない新しい催事や掲示物をし、変化を取り入れた。</p> <p>『第二の保健室』とよばれる学校図書館。</p> <p>ただひたすらに貸出冊数だけを伸ばすだけではなく、困った時、教室に居づらい時、図書館に行けば先生や友達に会える、本が読める、楽しい！安心できる！と思ってもらえるような居心地の良い場所づくりを心掛けた。先生また来るね！と笑顔で退室していく姿を見ると、よい時間を過ごしてもらえたと実感できこちらまで嬉しくなる。</p> <p>また備品等も新たに購入することを極力控え、今あるものを最大限に活用しながら「子どもたちが喜ぶこと」を意識して環境整備や本の装備を行っていった。</p> <p>本校は司書、司書補、ボランティア（週3）で20分休みは対応しており、図書委員も当番日以外でも自主的・積極的に活動している。休み時間は貸出返却で混みあう日が多いが、カウンター対応はマンパワーが十分にあるので、司書は館内で一人一人の読書量や好みや性格に見合っただけで対応できる。本を紹介していると『僕もその本気になる！』『借りてみたい！』と本への興味が連鎖していくのを実感した。児童に応じて距離感や読書量を考えながら対応することができたのは、周囲の協力なくてはならないものだと感じている。</p>
	<p>今後の取組予定 <small>（令和6年(2024年)12月 ~令和7年(2025年)3月）</small></p>	<p>長文の本を読み終えた「達成感」や新しいジャンルの本を開拓していく「楽しさ」を小学生の間に体験できるように、そしてなにより「図書館に行きたい！」という気持ちが大きくなっていくようにこれからもサポートしていきたい。</p> <p>（主な取組予定）図書館宝くじ、卒業記念品作成</p>

①『興味のアンテナを広げ、読書につなげる』

本の紹介スピーチの様子



紹介する児童は毎回2～4人。幅広い本との出会いが目的であるが、人前で発表できることで自信をつけ達成感を感じてほしいとも考えている。

紹介した後は感想や質問する時間を設けることで「読んでみたい!」という気持ちが広がり、授業後にはお目当ての本を予約する児童がおり読書意欲にも繋がっている。選書には個性が感じられ、回を増すごとに発表の仕方もアレンジが加えられて、「どうしたらみんなに興味を持ってもらえているか」と考えているのが伝わってくる。

②『図書館環境を整える』

a: 明るく心地よい場所として

ガチャ導入



ダンボールとペットボトルで作ったガチャ箱には「一日図書委員体験券」「新しい本購入交渉権」「券フルセット」「景品券」の4種類のカプセルが入っている。ガチャをしてみたい!あの券がほしい!と図書館に来る楽しみや笑顔が増えたように感じる。

ミニクイズ『雨がつく漢字わかるかな?』



梅雨の時期に、部首に雨がつく漢字のクイズコーナーを設けた。漢字が貼られた雫の模型をめくると裏面には読み仮名があり、難しい漢字にどんどんチャレンジしていた。

図書館バルーンフェスタ POPをとばそう



手作りモビールで明るく楽しい雰囲気に



季節に合わせたクイズコーナー (パリオリンピック)



立体折り紙 (お月見)



b: 読書量の視覚化

りんごの木



図書館は2階渡り廊下の中心にあり、毎日多くの人が行き来しているため、このりんごの木も廊下を通るたびに自然と目が行く。児童はもちろんだが、担任も自分のクラスや他のクラスの貸出状況が一目でわかるので児童への声掛けや頑張りを認めるきっかけにもなっている。

学年の本だな (さくらの木)



図書館前方にさくらの木がある。学年の本だなを20冊借りると花びらが咲き、すべて達成すると認定証がもらえる。認定証は、「年間プラス1冊フリーパス券」としても使うことができる。認定証をもらうまでは時間がかかるがその分達成感も高い。

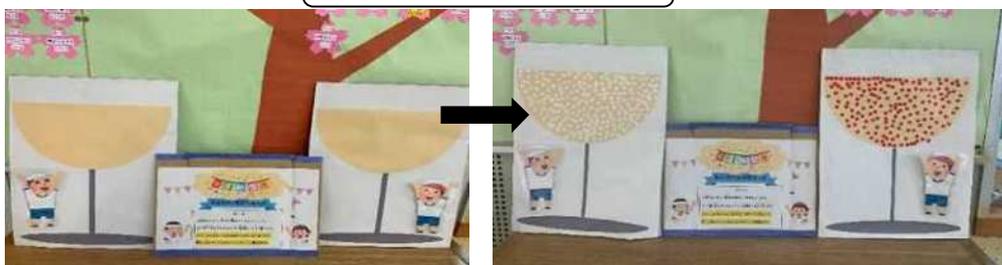


認定証

(参考) 学年の本だな 達成状況比較 (R5.R6 年度ともに 4/15~10/31 で集計)

	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生	達成者合計/ 児童数	達成率
R5 年度	0	7	4	8	5	8	32/443	7.2%
R6 年度	7	3	5	11	6	13	45/416	10.8%

赤白対抗! 図書館玉入れ



運動会前日までそのシール数を競って、多かった団は全員、普段一人1冊制限貸出の新しい本と人気シリーズの本を2冊まで貸出可能の特典をつけた。シールを自分で貼って可視化することで、自分たちの読書量をリアルタイムで実感できていた。

<その他の取組 SDGs など>

新聞・雑誌の活用



図書委員に選んでもらった記事を中心に切り抜きをし、図書館前に掲示して図書館内でもファイリング分を展示。またその記事に関連する本も一緒に掲示をした。

表紙の再利用



余っていたクリアファイルはカードケースに、不要になった表紙のカバーはパズルに、図書館まつりの本の表紙あてクイズに利用した。SDGs を意識して、廃棄物を有効活用した。

背表紙を一新! 手に取ってくれることを願って



中のページはきれいなままなのに、背表紙が劣化してしまい題名が見えない。

本棚に並べてもなかなか手に取ってもらえなかった本に少し手を加えて装飾し直すと・・・まるで新品のような印象に。本棚も明るくなり、手に取ってくれることが増えた。

令和6年度(2024年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	神崎市立千代田西部小学校	児童数	217人
-----	--------------	-----	------

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	たくさんの本と出会い、お気に入りの本を見つける西部っ子！
	取組期間	令和6(2024)年 4月 10日 ~ 令和6(2024)年 11月 30日

※令和6年(2024年)4月1日以降、各学校が取組を始めた日から、令和6年(2024年)11月30日までの取組とする。

II.取組後の評価

評価	取組人数	463人	実施日数	235日	読書冊数	46,459冊	連携した団体数	1団体
	取組内容 (概要)	<p>本年度は、児童と本をつなげる方法として、「楽しい読書体験」を意識した取組を行った。</p> <p>※「読む力」「書く力」を養う為に行われていた取組は継続して実施。</p> <p>《継続して行った取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書の記録 …「読む力」だけでなく「書く力」を養う為におすすめ30選を読み終え、その中から選んだ本(3冊)の感想を書く。(感想は児童の読解力、書く力に応じる) ・「せんだん賞」 …学年のおすすめ30選を含む100冊読破者へ「せんだん賞」を授与。 ・「読書がんばり表」 …自分が設定した目標冊数と貸出冊数が分かるようにした「読書がんばり表」を図書室に掲示し、シールの位置で貸出数を確認できるようにした。 ・読書ボランティア団体・先生・図書委員による読み聞かせ ・図書委員・先生のおすすめの本の展示 <p>《今年度新しく行った取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「赤白対抗 読書 de 玉入れ」 …体育大会の関連イベントとして赤組と白組に分かれ貸出冊数を競う読書玉入れを実施。(10日間) ※借りた冊数分のシールを貼っていき集計。 ・「親子読書 de 回覧板…クラスでグループを作り、グループごとに1冊の絵本を回覧する「読書回覧板」を実施した。 ・図書館まつりでは、図書委員による大型絵本の読み聞かせやパネルシアターの上映会を行った。 <p>《その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業単元に合わせた展示や、校内行事に合わせたコーナー展示(体育大会、修学旅行、重機体験など) ・神崎市に関するテレビ放送(アンドレ・ジャッピー氏の特集)に合わせて、号外を発行し、本校の「4年生のおすすめ30選」の本でもある『飛べ! 赤い翼』の紹介を行なった。 						

工夫したこと	<ul style="list-style-type: none"> ● 「読む力」「書く力」を養うための活動を継続していくと共に、児童と本とをつなぐ方法として新しいアプローチを試みた。取組を通して、本を読むことの楽しさや本を読んで学ぶことの面白さを感じられるよう工夫した。 <p>[児童の読書体験や学校行事に合わせたコーナー展示]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 読書ボランティアや先生による読み聞かせ、図書委員による読み聞かせやパネルシアターなどで読んだ本は、おはなし会のタイミングに合わせて図書だよりや図書室での展示で紹介した。 ・ 授業単元に合わせた展示や、体育大会、修学旅行、重機体験など校内行事に合わせたコーナー展示を行った。また、展示する本は、児童にも声をかけ一緒にテーマに合った本を集めるようにした。(図書委員だけではなく、展示コーナーに興味を示した児童にも声をかけ、一緒にコーナーづくりを行った) <p>[読書 de 玉入れ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書主任と体育主任とで連携し、体育大会の関連行事として行った。玉入れの結果を、体育大会のポイントに反映することで、参加意欲が高まり、6年生を中心にたいへん盛り上がりをもせたイベントとなった。 <p>「親子読書回覧板」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 回覧する絵本は、1学期に行った親子読書で家庭からおすすめされたものを中心に選んだ。また、取組についてのアンケートは、負担にならないよう☆の数で評価してもらうようにし、任意で感想コメントを書いてもらうようにした。
取り組んだ感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書委員による大型絵本の読み聞かせやパネルシアターは、初めてみる児童も多く楽しんでもらえることができた。 ・ 読み聞かせやパネルシアターで読んだ本が図書室にもあることを、おはなし会後に知らせたり、展示コーナーを作ったりしたことで、おはなし会の後の貸出が増えた。 ・ 「先生のおすすめの本」は児童に大変人気があり、読書への関心が高まった。また、様々な分類の本に触れる機会となり読書の幅が広がった。 ・ コーナー展示をする際に、児童と一緒に選書することで書架や本の内容への関心が高まり読んでみようという意欲にもつながった。また、複数人で本を集めたことで最近借りられていなかった図書がコーナーに並び、貸し出しに繋がった。 ・ 自分で作ったコーナーの本が借りられると、嬉しそうにする姿や、「こうした方が借りてくれそう」と言って本の並べ方を工夫する(面出しなど)児童の姿などがあった。 ・ 体育大会などの行事と合わせて行うイベントは、学校全体で読書をしようという雰囲気になり、とても良かった。6年生が中心となって盛り上げてくれた。 ・ 読書回覧板は、絵本を選んだことで読書の時間を作る負担が少なく、また高学年の児童からは久しぶりに親子で絵本を読み懐かしくなったなどの感想があり、好評だった。 ・ 友達と同じ本を読むということや、順番が回ってくることへの楽しみがあっただけでよかった、今後も続けてほしいなどの感想も多くあった。
<p>今後の取組予定</p> <p>(令和6年(2024年)1月～令和7年(2025年)3月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「せんだん賞」は4割の児童が達成しているが(11月現在)、まだ達成できていない児童もいるので、個々の頑張りを認めながら声掛けを行ない、達成率が上がるよう働きかけていく。 ・ 授業単元や行事に合わせたコーナー展示は、今後も児童が本選びに参加できるよう働きかけていく。

図書室入口に掲示されている「読書がんばり表」

- ・目標冊数:ピンク色
- ・100冊:黄色 (2024年11月30日現在)



せんだん賞表彰式



校長室前に掲示されている「読書の木」

- ・100冊以上本を借りた児童の名前の花が咲きます。(2024年11月30日現在)



号外・コーナー展示による図書の紹介

としよ
図書だより 号外

テレビで本が紹介されます!

本が由緒長い学校の「あすの30巻(4巻)」に
選ばれて以来、1巻、2巻、3巻と、絶えず
発表!九州のあちこちで紹介されます。

1936年、バリー画を基に制作するとい
う鳥 飛行機に執筆者のオックスの飛行機。ア
ンドレ・ジャビーは、飛行機の歴史で重要な出来事
に巻き込まれ、心強い有名人の助けを借りて一
歩を踏み出します。

このオックス人の冒険飛行機アンドレ・ジャビー
の機長が4巻に登場(9/7・9/14・9/21・
9/28)で放送され、第2巻(9/14)の放送では、
ジャビー氏が有名人で構成された機長の乗客が
紹介されます。

ジャビーさんほどのように佐賀県の有名人におりたのか?
有名人の人々による感動的な救出!

ジャビーさんの救出によってつなげられたフランスと日本!

みなさんが知っている場所であった機
をで読んでみませんか。機長の歴史や人の
情を学ぶことで、もっと場所が身近にな
れると思います。

【あすの30巻】でも読んでいただく
人はもう一冊!まだ読んでいない人はぜひ!
有名人の人もぜひぜひ!
この機会に読んでみてください。

最新号は9月14日(土)
時間 午後10時54分~午後11時00分
放送局 九州朝日放送(KBC)
放送についての詳しい内容は「マチコミ」
や「LEADER」でも紹介されています。



体育大会関連イベント『どくしょ de 玉入れ』

「どくしょ de 玉入れ」は 優勝 白組・準優勝 赤組 です。



親子読書 de 回覧板



本の破損を防ぐため、緩衝材で図書バックを作りました。また、紛失防止の為、本の表紙のコピーを貼り付けました。

〈読書回覧板の感想〉

親子読書 de 回覧板 感想 (5) 年 お子様のお名前 ()

「親子読書 de 回覧板」として素晴らしい取組みがおもしろく子供も興味しんしんに1つの本^{より}を大事に読んでました。友だちと同じ本を同じ言葉というお笑有っていいと思います。

回覧する本のおすすめ 親子読書 de 回覧板 感想 (/) 年 お子様のお名前 ()

自分の順番が回ってきたら、次のお友だちに回すという、とてもワクワクする取り組みだと感じました。なかなか普段選ばないような本の内容だったので、色々な本に触れて良かったと思います。
娘が (回覧の本)

回覧する本のおすすめの本があれば、書いてください。()

大型絵本の読み聞かせ



パネルシアター上映会



令和6年度(2024年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	伊万里市立 青嶺中学校	生徒数	99人
-----	-------------	-----	-----

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	貸し出しシール800枚で、特大の絵本パズルを完成させ、図書室利用者を増やします！
	取組期間	令和6年(2024年) 4月 8日 ~ 令和6年(2024年) 11月 29日

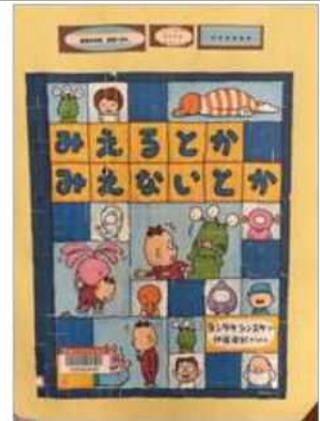
※令和6年(2024年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和6年(2024年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

取組人数	114人	実施日数	134日	読書冊数	1735冊	連携した団体数	2団体
取組内容(概要)	<ul style="list-style-type: none"> ①学級文庫の廃止 ②図書貸し出しパズル…804ピースのパズルを図書返却時にもらう ③ぶっくん(3週間に1度の巡回) ④読み語りグループ「おはなしどんどろ」(毎月第2火曜日) ⑤図書だより(毎月1回発行)5月、10月は職員、その他の月の表面は文化学習委員会の生徒がタブレットで作成して発行する。 ⑥ブックトーク(委員会の生徒と図書館司書)(5月) ⑦委員会の生徒による読み語り ⑧七夕まつり ⑨家読ゆうびんコンクールへの応募 ⑩しおりコンテスト ⑪季節の本の紹介 ⑫クリスマス会 クリスマスブック(先生おすすめの本の紹介) 						
工夫したこと	<ul style="list-style-type: none"> ①学級文庫の廃止 昨年度までは生徒が選書する学級文庫に新着本が配架されていた。その影響により、来館する生徒が少ない状況だった。今年度から学級文庫を廃止し、新着本を含めたすべての本を図書館に配架した。 ②図書貸し出しパズル…804ピースのシールパズルを図書館に設置した。図書返却時に1冊1ピースとしてシールを受け取り、パズルの完成を目指した。今年度中の完成を目標としていたが、貸し出し冊数が予想を上回ったために、11/18に完成した。新たに192ピースのパズルを追加しており、現在も楽しく取り組んでいる。 ③ぶっくん 文化学習委員会の生徒が選書して、集団貸し出しを行う。生徒からのリクエストを伊万里市民図書館へ随時連絡して対応してもらった。借りた本は教務センター前に棚カートで設置し、手に取りやすい環境作りに努めた。 ④読み語り 読み語りで使用された本を教務センター前に展示。読みたい場合は、センター 						

<p>工夫したこと</p>	<p>前のベンチや校内で閲覧できるようにしている。</p> <p>⑤図書だより 毎月発行している。4、5、10月は図書館司書が表裏の両面を書くが、その他の月の表面は委員会の生徒が各学年で担当している。新着本、赴任した先生のインタビューやおすすめの本の紹介、多読者の紹介などを行った。紹介された本を求めて図書室に来る生徒もいたため、読書推進に有効な方法と思われる。</p> <p>⑥生徒によるブックトーク 5月24日に図書室で文化学習委員会の2、3年生と図書館司書によるブックトークを行った。グループや個人でおすすめの本を紹介したもので、新入生だけでなく在校生も参加して話を聞いていた。</p> <p>⑦6月5日 朝読書の時間帯に委員会の生徒による読み語りをを行った。読み語りの練習を各自で行い、当日に臨んだ。特に1、2年生は興味をもって聞いていた。</p> <p>⑧七夕まつり 7月に入り、七夕飾りをして短冊を書くスペースを作った。また、当日の4日は本についてのクイズを行い、正解者に手作りのしおりをプレゼントした。</p> <p>⑨家読ゆうびんコンクール 毎年、埼玉県三郷市が募集している「全国家読ゆうびんコンクール」に全校生徒で応募している。相手に伝えたいことを文章や絵で表現するもので、国語の授業と連携して行った。どの生徒も真剣に取り組んでいた。</p> <p>⑩しおりコンテスト 文化学習発表会の取り組みとして、これまではPOPコンテストをしていたが、今年度から好きなイラストなどでしおりを飾る「しおりコンテスト」に変更した。文化学習発表会前後に、保護者を含めた全校生徒による人気投票を行い、各学年の最優秀賞を決めた。副賞として、「購入図書リクエスト権」を進呈した。</p> <p>⑪季節の本の紹介 図書館司書が季節を感じる本を選んで、特設コーナーで紹介している。季節の飾りつけとともに生徒の興味を引いているようだ。</p> <p>⑫クリスマス会 今年から、クリスマスブック（先生おすすめの本）を行うことにした。英字新聞で包まれて書名の見えない本を、教職員が書いたメッセージカードを読んで選ぶ取り組み。プレゼント形式で包装紙を開くため、生徒も嬉しそうだった。</p>
<p>取り組んだ感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級文庫を図書館に戻したことが良い効果をもたらした。図書館に来れば、新刊があり、季節の本を選ぶことができる環境であったため、生徒たちの読書推進につながった。学校図書館の貸し出し冊数は大きく増えた。令和5年度468冊に対して、令和6年度は11月30日までに1,054冊の貸し出しがあった。なお、ぶっくんでの貸し出し冊数は今年度、現在までで650冊であった。 ・今年度は文化学習委員会の委員長・副委員長が委員会の生徒をよくまとめ、積極的に委員会活動に取り組んだこともあり、ほぼ年間計画通りに進めることができた。 ・委員会の生徒が自作する「図書館だより」は子どもたちの興味・関心に即しているものと思われる。生徒が自ら考えて作るため、自主性を伸ばす機会にもなった。 ・学校図書館司書の尽力により、生徒が楽しめる取り組みを準備・実施することができ、充実した活動になったと感じる。
<p>今後の取組予定 (令和6年(2024年)12月 ～令和7年(2025年)3月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・12/19 クリスマス会 図書室に隠されたモノを探す「クリスマスミッケ」を行い、来館者を増やす。 ・多読者の集計・表彰 今年度の累計貸し出し冊数の集計と、他読者への賞状作成を委員会の生徒が行う。 ・図書館利用に関するルールの確認

②図書貸し出しパズル



2枚目突入



③ぶっくん
集団貸し出し利用
と貸し出し名簿



⑤図書だより

表面を生徒、裏面を図書館司書が書く。



⑥生徒による
ブックトーク



⑦七夕まつり



⑨家読ゆうびん
コンクール



⑩しおりコンテスト



令和6年度(2024年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	佐賀県立盲学校 幼稚部 2人 小学部 2人 中学部 5名 高等部 普通科 4名 保健医療科 2名 専攻科 5名
-----	--

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	図書館祭りに参加し、読書に親しもう（読書バリアフリーを視野に）
	取組期間	令和6年(2024年)5月8日～令和6年(2024年)11月30日

※令和6年(2024年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和6年(2024年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

評価	取組人数	20人	実施日数	207日	読書冊数	約100冊	連携した団体数	2団体
	取組内容（概要）	<p>①毎週1回のお話会（幼小学部：職員や図書情報部、高等部生徒による） 期間イベント「図書館祭り」での取り組み</p> <p>②生徒会へ：ポスター描きなどの協力要請</p> <p>③全体ゲーム、お話会、本の紹介コーナー、図書館クイズコーナー 等</p>						
	工夫したこと	<p>①毎週のお話会実施で、本を身近に感じられるようにした。</p> <p>②図書館へ足がなかなか向かない生徒にもよききっかけになればと、計画し、ポスター描きを要請した。描きやすいようにあらかじめ下描きを太めの線でしたり、興味が湧くような楽しいイラストを採用したりして、塗り絵形式で募集した。</p> <p>③目が見えない、見えにくい幼児、児童、生徒のために音で構成したゲーム、お話会、クイズ。</p>						
	取り組んだ感想	<p>①幼児から6年生までと実態の幅が広く、お話会での選書に頭を悩ますこともあったが、幼児には幼児の、6年生には6年生の「読み」があることが分かり、様々な本を紹介することができた。また、毎学期1回県立図書館からの出張お話会も子どもたちは楽しみにしており、来ていただくたびに私たち職員もとてもよい学びとなった。</p> <p>②児童、生徒の実態に応じて、ポスターを描いてもらった。描くことで、もうすぐ図書館祭りなのだという気持ちを高めることができた。</p> <p>③図書館内にクイズコーナーを設置するだけでなく、昼休みに全員に体育館へ集ってもらい、全体ゲーム：「サウンドブランククイズ」を実施した。毎年、みんなで楽しく取り組む恒例行事となっており、幼児から療科の成人の生徒まで幅広く楽しめるクイズを工夫し、行うことができた。お話会は、『あいさつ番長』という絵本を図書情報部を中心とした職員が役割を決めて音読した。効果音なども有効に入れて、バリアフリーで楽しめるお話会を目指して、脚本から台本の練習、本番まで、全員で取り組んだ。幼児、児童、生徒に喜んでもらえたようだが、「セリフが少し多すぎて内容がうまく伝わらなかったのでは」という意見もいただき、次年度へ向けての課題とした。また、本の紹介コーナーに掲示した出品はそのまま本紹介のポップにもなり、児童、</p>						

	<p>生徒、職員も興味深く目を通していた。「この先生がこんな本を読んでいるんだ」「あの生徒さんはこんなジャンルが好きなんだ」と、生徒も職員もなるほど！と思い、新しい読書ジャンルへのきっかけになったことだと思う。</p> <p>図書館内に期間中常設しているクイズコーナーでは、日常生活の中の音を録音し、何の音かを4択の中から選ぶクイズを楽しんだ。</p>
<p>今後の取組予定 (令和6年(2024年)12月 ～令和7年(2025年)3月)</p>	<p>○12月17日には、移動図書館（每学期1回実施）を予定している。新刊図書や新しく点訳していただいた書籍、理療科の専門書等を書架に掲示して、高等部1階玄関前にて実施。図書館に忙しくてなかなか足が向かわないのであれば、図書館の方から児童、生徒さんの近くに移動しようという企画である。立ち読み大歓迎！もちろんその場で貸し出しや返却もできる。</p> <p>○また、図書館祭り、本の紹介コーナーで掲示した作品を中心に、新刊図書として図書館に購入を予定している。</p> <p>○3学期まで幼小学部対象のお話会は継続する。3学期は、学部の枠を超えて、高等部の生徒が高等部職員と一緒にお話会で本を読んでもらえる予定。図書情報部主任によるICTを駆使したお話会も子どもたちが楽しみにしている。また、3学期も県立図書館の出張お話会を依頼。時間は毎回15分と短くて恐縮なのだが、その積み重ねは貴重である。</p>

①お話会の様子



今年度の幼小学部は対象幼児児童が4名(うち盲児3名、弱視児1名)だが、職員が当番で毎週、様々な本を読み聞かせした。大きな絵本に弱視児が食い入るように見入ったり、盲児が静かに集中して聞き入ったりする様子がみられた。読み聞かせ後の感想もそれぞれ発表し合い、他の友だちの考えや意見を聴く貴重な場になっている。図書時間に図書室を訪れ、読み聞かせやデージー図書を楽しむ姿も毎日見られる。

②図書館祭りの様子



お話会の様子



全体ゲーム(サウンドブランククイズの様子)



サウンドクイズに挑戦



クイズの答えを投函



本の紹介コーナーは毎年人気



絵本や本の内容に関するクイズに挑戦中

全校集まったのお話会は、絵本の挿絵をプロジェクターで大きく表示し、図書情報部の職員がそれぞれの登場人物の役を朗読し、効果音も入れて、より臨場感あふれる演出を工夫した。また、今年の全体クイズは「サウンドブランククイズ」と銘打って、様々な曲の一部を聞こえないように流し、その聞こえなかった部分の歌詞を当てるというゲームで、老若男女盛り上がった。また、図書室では、図書館祭り期間中、パソコンを操作しながら解答する「サウンドクイズ」が設置され、多くの幼児、児童、生徒が参加した。およそ7割の幼児、児童、生徒が期間中図書室を訪れ、クイズに参加してくれた。

令和6年度(2024年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	佐賀市立南川副小学校	児童数 211 人
-----	------------	-----------

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	読書の幅を広げ、お気に入りの本を見つけよう。
	取組期間	令和6年(2024年)4月15日～令和6年(2024年)6年11月30日

※令和6年(2024年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和6年(2024年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

	取組人数	211 人	実施日数	230 日	読書冊数	32,727 冊	連携した団体数	3 団体
評価	取組内容(概要)	<p>「誰もが足を運びたいくなるような図書室」を合言葉に、繰り返し足を運ぶことで本を身近に感じ、様々な本を手取る機会を増やしていくことを目指して様々な読書活動を行ってきた。</p> <p>1. 誰もが足を運びたいくなるような図書室づくり・・・①校内環境の整備、②「南っ子バルーン」と「プラス券」の発行、「達成記念品」プレゼント</p> <p>2. 図書室の主な活動・・・①図書の時間での新しい本の紹介、関連図書の紹介、②分類チャレンジ、③南っ子チャレンジブックの選定&レベルアップ</p> <p>3. 学習支援・・・①公共図書館や市内の中学校の図書館の本の活用(授業に関する資料の収集や児童の読みたい本の収集)</p> <p>4. 図書委員の主な活動・・・①常時活動の工夫、②年2回の図書館祭り</p>						
	工夫したこと	<p>1-①校内環境の整備：毎月変わる月コーナー(10月には、新米とかけて「あなたはパン派?ご飯派?）、SDGsに関するコーナー、読書感想文紹介コーナー(青少年読書感想文の県特選に入った児童の作品と本の紹介コーナー)、先生のおすすめ本コーナーなど、様々なコーナーを設置し、次はどんなコーナーができるだろうと、児童も職員も楽しみにしている。また、各学年の掲示板には「読書の木」があり、児童のおすすめの本を一人一人が紹介し、その本を読んだ児童は「読んだよシール」を貼ってお互いのお気に入りの本を読む取り組みを行っている。</p> <p>1-②「南っ子バルーン」とプラス券の発行、達成記念品のプレゼント：50冊達成で名前入りのバルーンを掲示している。また、プラス券は50冊・150冊達成時や図書館祭りのイベント時に景品として渡している。達成記念品は100冊達成時に「オリジナルしおり」、200冊達成時に「プラス券ケース」、250冊達成時に「犬・猫マグネットしおり」、300冊達成時に「メモ帳」をプレゼントしている。</p> <p>2-①新しい本の紹介、関連図書の紹介：毎週の図書の時間には、司書による新しい本の紹介や授業で取り扱った同じ作者の本の紹介がある。児童の実態に応じた本を冒頭で紹介することで、児童の借りてみたいという思いを引き出すことができている。</p>						

	<p>また、9分類の本のレベルアップを図るために、まずは見開きで話が完結する本から始まり、話が3～5ページで完結する本、短編が集まっている本へとレベルアップできるよう、児童の実態に応じて紹介している。</p> <p>2-②「分類チャレンジ」：特に3年生の児童を中心に取り組まれていることの一つに「分類チャレンジ」がある。3年生で日本十進分類法を学習した後、「今日は〇類にチャレンジしてみよう。」というお題を児童に出し、例えば7類でも70：芸術・美術、71：彫刻など一つの分類の中にも細かく分かれていることを表で確認できるように掲示している。この「分類チャレンジ」を通して、少しずつその分類でのお気に入りを見つけることができるようになってきている。</p> <p>2-③南っ子チャレンジブックの選定&レベルアップ：今年度から教科書が改訂されたことを受け、必読書である「南っ子チャレンジブック」の見直しを行ってきた。新しく教科書に掲載されているおすすめの本を可能な限り取り入れ、より児童に寄り添った本の選書を行っている。この「南っ子チャレンジブック」30冊を読んだ児童も図書館だよりで紹介するなど、児童が読む意欲を高める取り組みもしている。また、低学年を中心に「南っ子チャレンジブック」を30冊で終わらせず、No.2を作成し、児童の読んでみたいという思いを大事にしている。</p> <p>3-①国語科で授業の資料として使いたい本を公共の図書館から借りたり、佐賀市内の中学校からも5・6年生向けの本を貸出してもらったりするなど、佐賀市独自のネットワークをフル活用して、資料を提供している。また、予算が限られている中で新しい本を購入するため、なかなか児童の思いを全て叶えることができない。そこで児童のこんな本が読みたいに答えるべく、すぐに検索し、可能な限り貸出を行っている。</p> <p>4-①常時活動の工夫：南川副小学校では借りた本は返却ラックへ置くスタイルをとっている。そのため、本を戻す仕事を図書委員の児童が担っている。また、「my本棚」を導入し、整理整頓をする際は、「my本棚」を中心に取り組んでいる。</p> <p>4-②年2回の図書館祭り：図書委員を中心に「宝探し」「本のあらすじクイズ」「シルエットクイズ」「名無し本あてクイズ」「読書ビンゴ」「冊数くじ引き」「宝探し」「塗り絵コンテスト」「しおりコンテスト」などを行った。</p>
<p>取り組んだ感想</p>	<p>「誰もが足を運びたくなるような図書室」を合言葉に様々な取り組みを行ってきた結果、まずは昨年度の26,570冊を現時点で上回っていることが結果として見えてきた。ただ一概に、「貸出冊数が伸びた」＝「読書の幅が広がった」とは言い難いが、絵本や9類を中心に自分のおすすめの本を紹介したり、4類の自然科学や7類の芸術・スポーツを手にとって読んだりしている児童も多くみられる。また、様々なコーナーを随時作っているため、様々な分野の本を手取る機会も増えてきた。</p>
<p>今後の取組予定 (令和6年(2024年)12月 ～令和7年(2025年)3月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校へ行こう：アニメ版やライトノベル、映画化された小説などを中学校から借りることで、中学校の図書室にはこんな本があるという安心感を与える取り組みを行う。 ・卒業する君たちへ：職員から卒業する6年生に読んでもらいたいおすすめの本を紹介するコーナーを設置する。

佐賀市立南川副小学校の取組

1. 誰もが足を運びたくなるような図書室づくり

①校内環境



SDGs と先生のおすすめの本コーナー



佐賀市特選の児童の読書感想文とその本



10月の「あなたはパン派? ご飯派?」コーナー

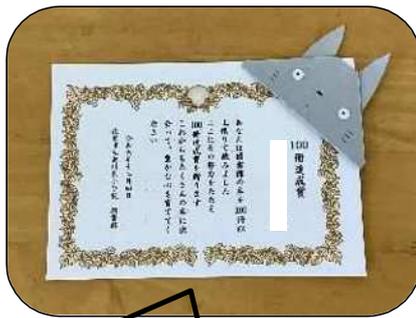


各学年の読書の木：児童一人一人のおすすめの本の紹介

②「南っ子バルーン」、プラス券&達成記念プレゼント



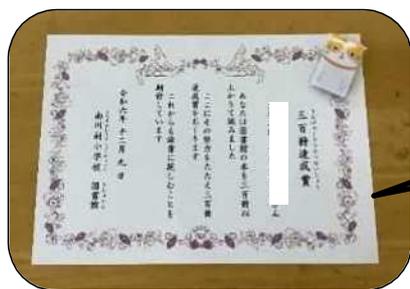
50冊達成するとバルーンを飛ばせる



100冊達成時のしおり



200冊達成時のパス券ケース



250冊達成時の犬・猫
マグネットしおり

300冊達成時のメモ帳



2. 図書室の主な活動

①新しい本の紹介・関連図書の紹介



教科書で学習した同じ作家の本

新刊コーナー



見開きから3~5ページ
ショートストーリーへ



②分類チャレンジ



分類チャレンジ

③南っ子チャレンジブックの選定&レベルアップ



南っ子チャレンジブック本棚

チャレンジブックを借りて
スタンプを押してもらおう。
No.2にも挑戦。



3. 学習支援



市立図書館や町の図書館などで学習資料や児童の読みたい本を借りて貸し出す

4. 図書委員の主な活動

① 常時活動の工夫



返却ラックの整理



my本棚を整理する児童



困っている児童にも優しく接する

② 年2回の図書館祭り



冊数くじ引き
大繁盛！！

カウンター業も
頑張りました！！



令和6年度「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	神崎市立仁比山小学校 児童数 211 人	担当者名	篠崎 涼子・菱岡 智美
住所	郵便番号 842-0107 佐賀県神崎市神崎町鶴 1634 番地	電話番号	0952-52-2504

◆ご提出いただいた個人情報は、本事業のためのみに使用し、それ以外の目的に使用することはありません。なお、県における個人情報の取扱については、佐賀県個人情報保護方針 (<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00319144/index.html>) に定めています。

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	ぽっかぽか図書館 「本は友だち いつでもみんなのそばにあるよ」
	取組期間	令和6年 4月8日 ~ 令和6年 11月30日

※令和6年4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和6年11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

評価	取組人数	211 人	実施日数	237 日	読書冊数	39313 冊	連携した団体数	1 団体
	取組内容（概要）	<ol style="list-style-type: none"> 本は身近にある環境づくりを行う お気に入りの一冊を見つける取り組みをする 授業での調べ学習などで使える本の充実を図る 様々なイベントを通しての図書館の楽しみ方 						
工夫したこと	<ol style="list-style-type: none"> 本は身近にある環境づくりを行う 本校図書館は、図書館担当教員、司書補、図書委員 10 名で運営を行っている。貸し出し目標冊数は、児童 1 人あたり 1～3 年生は 150 冊。4～6 年生は 130 冊としている。そのうち学年に応じての「おすすめの本」を選定しており、読破数をそれぞれの学年で決め、目標達成できるような声かけをしている。(1・2 年は 50 冊、3・4 年は 40 冊、5・6 年は 30 冊) 新学期始まってすぐに「図書館オリエンテーション」を行い、早い段階から貸出をすることによっていつでも本が身近にあるようにした。 お気に入りの一冊を見つける取り組みをする。 一冊のお気に入りの一冊を見つけることがスムーズに出来ない児童もいるため司書補が寄り添ってアドバイスをしている。 定期的に関書委員と、”季節のおすすめ本“や”委員さんが選ぶおすすめの本“または時事に合わせて選んだ本などのコーナーの入れ替えをし、本の紹介をしている 新刊が入荷した時には優先的に借りることができるチケットなどがある。その他にもチケットを発行しているので、用途に合わせながら気に入った本を選んでいく。 							

	<p>(3) 図書館だよりで新刊や季節にあった本の紹介も行い、児童が「読んでみたい」と意欲がわくようにしている。</p> <p>3 授業での調べ学習などで使える本の充実を図る。 一年生からタブレットの活用をしており、調べ学習での本の利用は以前に比べると少なくなってきたが、「本を使って調べる」ということで、「考える力」「感じる力」「表す力」を育てるためにも授業での利用を推奨した。</p> <p>(1) 授業で使う本の購入を心がける。 (2) 日本十進分類法に合わせた本の配置をしているので自分の調べたいものを表で探すように声をかけた。</p> <p>4 様々なイベントを通しての図書館の楽しみ方 イベントを通して、本を読むだけではない楽しい時間を過ごしたり、「図書館の正しい利用の仕方」を学んだり、「図書館」への親しみを持ってもらうことを考えた。</p> <p>(1) 4月の児童集会では、図書委員が選んだおすすめの本の紹介を行った。また、図書館での過ごし方や先生方の好きな本あて、日本十進分類などを〇×クイズ形式で出し、「図書館に親しんでもらうため」のイベントをした。 (2) 6月と10月の2回図書館祭りをを行い、様々なイベントを開催した。 名称は、図書館だよりにあわせて「ぼっかぼか図書館まつり」とし、児童への定着が見られる。また、図書館まつりの期間に合わせて6月には「ファミリー読書」(子供の選ぶ本を家族と一緒に読む)、10月には「読書がんばり週間」(家庭で何冊読んだか、題名と冊数を記入)を設定し、家庭での読書を奨励した。 (3) イベントの内容は基本的に図書委員が考え、司書補はサポートに徹した。6月に行った内容で、良かったものは残したり、変更したりと高学年のアイデアが光っていた。低学年は図書委員のサポートが嬉しいようで、「自分も図書委員になる」とあこがれを持つ児童も多い。</p>
<p>取り組んだ感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が毎日図書館に足を運び、楽しみながら読書をしている姿が多く見られ、取り組んでよかったと思った。本が好きな児童が多く、学校生活と図書が密接しているといっても過言ではない。 ・「ファミリー読書」を行った際には、保護者の方から「久しぶりに一緒に読んで楽しかった」等のコメントをもらい、読書が家庭に広がっていく喜びを感じた。そのほかにも「児童からこれを読みたいと言われた。」など書いてあり、読書のイメージアップにつながったと思う。 ・神崎市では、他校の図書館司書補で本のことに関する相談や、図書館運営に関しての共有ができています。自校だけでなく神崎市全体で連携を図りながら「読書」という良い習慣を継続できるよう、努力していきたい。
<p>これまでの取組や今後の取組予定 (令和6年(2024年)12月～令和7年(2025年)3月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の児童は、毎日朝読書を行っている。しかし、担任に促されないと読書を始められない児童もあり、貸出時の声掛けや読書意欲がわくような本の選定をこれからも続けていきたいと思う。 ・毎年、図書委員が取り組んでいる「図書館新聞」作成を3学期に行う。内容は児童の話し合いで決まった「分類毎で人気の本」や「図書館での約束はなに」「貸出が多かったクラス」等を予定している。 ・年度末に向けて、借りた本の冊数に応じた賞状の準備をし、目標達成をすることの喜びを味わってもらうことと、進級しても継続できる環境を作っておきたい。

ぽっかぽか図書館まつりの様子

☆内容は、キャラクターシルエットクイズ、本の分類でビンゴ、本の仲間外れゲーム、しおりまたはぬり絵コンテスト、時期に合わせた工作などでした。



ハロウィンモンスターづくり。どんな怖い顔になったかな～
図書委員さんが低学年に教えてくれる姿が微笑ましかったです。



シルエットクイズは毎回人気の企画です。「あてて、あてて！」とみんな必死で手をあげています。ただ、いざあてられるとちょっぴり照れ臭そうです。



初めて行った「本の分類でビンゴゲーム」そろった数だけくじ引きができるので、低学年も一生懸命探していました。元に戻すところまでが、きちんとできていました。





ビンゴチェックをしてくれたのは、頼もしい
図書委員のみなさんでした。分類がしっか
りと分かるようになったのも子供たちの成長
だと思います。

すぎの子文庫コーナー



「すぎの子文庫」は神埼町の方が建てられた私設図書館です。
本校にはこの図書館から紹介された本を常設展示し、いつでも児童に貸出
できるようにしています。「文庫」を図書館の中に置くことで管理もでき、
人気の本を共有したり、購入の参考にしたり、と読み語り団体との連携を
図っています。本は季節ごとに入れ替えをされています。

児童が借りたい時には、準備されている紙に名前と借りた日、返した日
を記入すれば、いつでも貸出ができるようにしていただいています。

(貸出時間：20分休みと昼休み時間)

バーコードではなく、目印となるシールが貼ってあり、低学年の児童も図書館の
本との区別ができています。丁寧に扱うこともできています。

年度初めにはオリエンテーションをおこなっていただきます。

また、毎週月曜日の朝の時間は各学級の教室で絵本の読み語りをされます。この
時に読まれた本は次の日に借りに来る児童が多いです。

他にも、毎年7月には1年生向けに「入学おめでとう」、3月には6年生向け「卒
業おめでとう」のお話会を行っていただきます。みんな興味しんしんに聞いていま
す。



年度初めのすぎの子文庫さんの自己紹介の様子です。
オリエンテーションでは、大型絵本や手作りのペープサートなど色々な出し物があり毎年楽しみにしています。子供たちは一瞬で本の世界に入っていきます。

- ☆ 一定の貸し出し冊数に達した時やおすすめの本読破の時は、「予約券」や「3冊貸し出し券」等をプレゼントし、児童が達成感を持てるようにしました。
- ☆ 年度末には、年間貸し出し目標数とおすすめの本の学年冊数クリアをしたら「仁比山小読書マイスター」の賞状がもらえます。
- ☆ 図書館だよりは、本のぬくもりを感じてもらえるよう、「仁比山小ぼっかぼか図書館だより」とし、図書委員が考えたキャラクターも登場させています。



毎年恒例の図書館新聞！

みんなが笑顔の図書館づくり



本校の図書館は校舎の北側に位置しているのですが、冬こそは寒い環境ではあるが、神埼市内の学校の中では唯一1～3年生の教室の向かい側にあるため、児童が大変利用しやすくなっています。また、市内の小学校の中では一番の広さであるため、児童がゆっくりと過ごせて、クラスが重なって入ってきても、あまり混雑がありません。

これからも、「本が身近にある」環境というものは、児童の成長へとつながっていくことを願いながら、図書館づくりをしていきたいと思っています

令和6年度(2024年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	多久市立東原産舎西溪校	児童数	215人
-----	-------------	-----	------

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	本に興味をもって、読書の楽しさを伝えよう
	取組期間	令和6年(2024年) 4月 1日 ~ 令和6年(2024年) 11月 30日

※令和6年(2024年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和6年(2024年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

評価	取組人数	215人	実施日数	244日	読書冊数	12684冊	連携した団体数	5団体
	取組内容(概要)	<p>1学期</p> <p>1 環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 壁面飾りの作成(傘のモバイル・おすすめ本棚・新刊紹介) 本棚の配置換え 引っ越しに向けて蔵書整理 <p>2 読書推進活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 出張図書館 夏休み開館日(夏休み限定しおりのプレゼント) 後期図書館引っ越し(7・8年生・教職員・多久市内司書部会・教育実習生) <p>2学期</p> <p>読書推進活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 後期 新図書館開館 後期図書館を5・6年生も利用対象に加えて本の貸出を開始し、全学年対象に毎週水曜日を開放・交流日とした。 8年生職場体験 読書ノートの活用呼びかけ ガチャガチャ作成(100冊達成・年間目標達成・読書ノートの提出・イベントの景品) 後期生徒目標冊数30冊達成で貸出カードのデザイン変更 POPコンテスト応募(掲示) 読書週間のスタンプラリー(10/29~11/8) 委員会主催の図書館祭り(しおり作り体験・読み聞かせ) コーナー(国スポ・季節におすすめ) <p>教職員・団体との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 書店様より見計らい本を借りて教職員に選書してもらった。 						

	<ul style="list-style-type: none"> ・他校司書と連携して引っ越し作業 ・多久ロータリークラブからの寄贈・お礼状 ・多久市立図書館よりセット貸出
工夫したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・生活図書委員が主体となる活動のサポート ・教職員との連携を図るために見計らい本を職員室に置き、意見を取り入れながら選書を行った。 ・スタンプラリーのカードの途中に2類と4類を借りるミッションを与え、特定の分類を貸出できるように促した。 ・後期図書館の引っ越し作業を生徒自ら行うことで、自分たちの図書館を自分たちの手で作り上げた。普段手に取らない分類の本を手にする機会にもなり、より親しみをもつことができた。 ・図書館だよりを毎月発行し、新刊やイベントの案内を積極的に行った。
取り組んだ感想	<p>図書館の雰囲気を変えることから始め、季節に応じた壁面飾りなどを作成し、明るくほっとできる空間づくりを工夫したことで、児童生徒が気軽に足を運ぶ様子が見られるようになった。</p> <p>後期図書館が前期図書館の向かい側に移転したことで、授業利用や委員会活動などについても更に連携を図ることができるようになった。移転後は来館者数・貸出冊数ともに増加し、児童生徒の身近に図書館があることの大切さを感じた。</p> <p>イベント期間中は委員会の児童生徒が進んで準備や下級生のお世話をを行い、学年を超えた交流ができた。</p> <p>委員会の児童生徒が教職員と一緒に掲示物作りや移転作業を行ってきたことにより、図書館への関心を高めることができた。今後も引き続き委員会をはじめ学校や市立図書館などと協力しながら、児童生徒にもっと利用してもらえる居心地のいい図書館づくりをしていきたい。</p>
今後の取組予定 (令和6年(2024年)12月 ～令和7年(2025年)3月)	<ul style="list-style-type: none"> ・多久市立図書館による読み聞かせ ・委員会による読み聞かせ ・年間目標冊数達成者へ校長から表彰状の授与

【取り組み内容】

1学期 1.環境整備

生活図書委員会で、傘のモビール・おすすめ本棚の掲示を作成



丸く切った画用紙で傘を作りました☂



廊下にたくさん飾ろう！



完成！風に揺られてキラキラ綺麗 ✨



余った画用紙の切れ端に本のタイトルを書いて、背ラベルを貼り、本棚を再現。

気になる本は見つかるかな？



本棚の配置換え・引っ越しに向けて蔵書整理



前期の図書館では本棚と本の配置換えをしました。低学年の児童も本が探しやすくなりました。



後期の図書館では引っ越しの準備が着々と進んでいます。



【後期図書館を移設した理由】

今までの後期図書館は生徒が使用している校舎から一番遠い別の旧校舎にあるため、気軽に立ち寄れる距離で居場所としても利用できる図書館が必要でした。夏休みの登校日に、後期課程生徒と教職員が一丸となって約7000冊もの本を運びました。2学期の開館を目指して、市内他校の司書さんたちにも移動した本の配架作業に協力していただきました。

2.読書推進活動



毎週水・金曜日は前期の図書館で後期の本を貸出する『出張図書館』を開催。

夏休みの開館日には来館した児童が読書や宿題をするなどして過ごしました。

開館日スタンプカードを配布し、来館者には夏限定しおりをプレゼント。



2学期 読書推進活動

後期新図書館の開館・イベントの実施



いよいよ新図書館が開館！新しい本棚からは、木の温もりが感じられます。



5年生へのオリエンテーションの様子

2学期からは5・6年生も利用可能となりました。

毎週水曜日に全学年の開放日を設け、異学年の交流の場としても親しまれています。



生活図書委員によるPOP作成



完成したものはポプラ社へ応募。得意のイラストやインパクトのある文字でおすすめの本を紹介しています。

コピーしたものを文化発表会で掲示し、全校生徒や保護者の方々にも鑑賞していただきました。



制作した手作りガチャは、貸出冊数の達成の意識向上にも繋がりました。

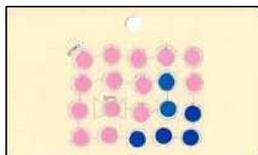
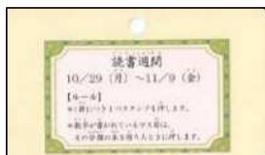


読書ノートにはおすすめの本がいっぱい！



ハロウィンの被り物でイベント達成の記念撮影☆

年間目標冊数の達成や読書ノートの提出でガチャガチャに挑戦できます。カプセルの中には、プラス1冊券やしおり引換券などが入っています。秋の読書週間(10/29～11/9)では秋限定しおりの引換券も登場し、イベントの運営に大いに役立ちました。



期間中に20冊本を借りて、スタンプまたはシールを集めるルール。途中のマスで指定された分類の本を借りることで、普段手に取らないジャンルの貸出を促しました。

生活図書委員主催の図書館祭り(11/25~11/27・29)



オリジナルのしおりだと読書が楽しくなるね♪



『そらめくんのベッド』を読みました。

昼休みの時間を利用して委員会の後期生徒によるしおり作り体験や、5・6・7年生による大型絵本の読み聞かせが行われました。後期過程の生徒も久々の読み聞かせを楽しみに参加していました。

教職員・団体との連携

教職員



教職員による見計らい本の選書。新刊の読み物や、授業で必要な資料などを選びます。



図書館に入れて欲しい本をリストに書いてもらい、実際に購入しました。

多久市立図書館



多久市立図書館より団体貸出。色々なジャンルの本を貸出していたことで、児童生徒の間でどんなことを知りたいのかなどの情報の共有をしています。

多久市役所



SAGA2024 国スポ・全障スポ特集コーナーは多久市実行委員会のインスタでも紹介していただきました。

多久ロータリークラブ



多久ロータリークラブ様より毎年本を寄贈していただき、委員会でお礼状を作りました。前期は国語の教科書に掲載されている本を、後期は読書感想文におすすめの本を選びました。

令和6年度(2024年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	佐賀県立鹿島高等学校（赤門学舎・大手門学舎）	生徒数 684人
-----	------------------------	----------

I.取組前の宣言内容

宣 言	目 標	本との出会い、知識の海を泳ぐ ～本が導く新しい視点と発見～
	取組期間	令和6年(2024年) 4月 1日 ～ 令和6年(2024年) 11月30日

※令和6年(2024年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和6年(2024年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

評 価	取組人数	684人	実施日数	244日	読書冊数	3,122冊	連携した団体数	1団体						
	取組内容（概要）	<ul style="list-style-type: none"> ① 季節に合った装飾や楽しい装飾で親しみやすい環境づくり ② 四季折々のテーマに沿った特集コーナーの設置 ③ 映画化・ドラマ化した小説コーナーの設置 ④ 校舎のホールに図書コーナーを設け、毎月の新刊のお知らせをする ⑤ 新刊コーナーにおいて、帯とPOPを新刊と一緒に展示 ⑥ 月1回、図書館だよりの発行 ⑦ 鹿島市立図書館の図書館だよりの「みんと」の掲示 ⑧ 赤門学舎図書室：図書委員のカウンター当番、当番日誌へのコメント記入 ⑨ 大手門学舎図書室：3年生を対象に国語の時間に下級生へのおすすめ本の紹介POPを作成、ホールへの展示 ⑩ 読書月間のイベント ⑪ クラス読書会の開催 ⑫返却BOXの設置 ⑬環境美化の徹底 												
工夫したこと	<ul style="list-style-type: none"> ① 春→桜、梅雨→雫、夏→ひまわり、秋→十五夜、晩秋→紅葉・イチョウと、図書室の新刊コーナー壁面に飾り付け、季節を感じ取れる空間、明るい雰囲気空間作りを行った。大手門学舎では可愛らしい切り絵の装飾を図書室全体に飾り、明るくて楽しい雰囲気作りを行った。飾りつけには図書委員も参加。 ② 赤門学舎図書室内の特集コーナーでは下記テーマで本を選書し、POPを作成。ペーパークラフトなどを飾りつけしながら、日頃目にとめない本にも興味を持ってもらう機会を作った。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">春(4～5月)</td> <td>別れと出会いの季節 心温まる物語と触れ合おう</td> </tr> <tr> <td>梅雨～夏(6～9月)</td> <td>言葉の雨をあなたの心に</td> </tr> <tr> <td>秋(10～11月)</td> <td>2024国スポ！スポーツの秋！ 読書でスポーツを体験しよう</td> </tr> </table> ③ 近々に映画化・ドラマ化した小説を紹介するコーナーを作り、POPを作成し、原作にも興味を持ってもらうようにした。 ④ 校舎のホールで生徒の往来が多い場所に図書の告知コーナーを設置。新刊のお知らせを掲示している。新刊のPOPを作成し、より興味を持ってもらうよう工夫した。 ⑤ 図書室の新刊コーナーにおいて、本についていた帯と、作成したPOPと一緒に展示。本の魅力を伝えるために、小説の内容に合った背景やイラストを選んでPOP作りを工夫した。 								春(4～5月)	別れと出会いの季節 心温まる物語と触れ合おう	梅雨～夏(6～9月)	言葉の雨をあなたの心に	秋(10～11月)	2024国スポ！スポーツの秋！ 読書でスポーツを体験しよう
春(4～5月)	別れと出会いの季節 心温まる物語と触れ合おう													
梅雨～夏(6～9月)	言葉の雨をあなたの心に													
秋(10～11月)	2024国スポ！スポーツの秋！ 読書でスポーツを体験しよう													

	<p>⑥ 赤門学舎と大手門学舎、隔月で交互に図書館だよりを発行。例えば梅雨の季節には雨の様々な呼び名などを紹介したり、季節に沿ったテーマで知的好奇心が上がるような記事を掲載。また、教諭や図書委員におすすめの本の紹介文を作成してもらい、掲載。</p> <p>⑦ 毎月、鹿島市図書館から届く図書館だより「みんと」を渡り廊下の掲示板に掲示。図書室にも配布用を設置。</p> <p>⑧ 赤門学舎において、図書委員に昼休みと放課後のカウンター当番を任せ、日誌に感想を記載してもらった。本や言葉の話題も多く、司書が毎回コメントを記入し、生徒とのコミュニケーションに役立てた。</p> <p>⑨ 大手門学舎において、夏季休業の前に、国語の時間を利用し、3年生を対象に下級生へのおすすめの本のPOPを作成してもらい、コモンホールにすべてを展示。下級生の読書への興味と選書に役立てた。</p> <p>⑩ 10月15日～11月15日を読書月間とし、この期間に貸出数の多かった生徒を表彰する。赤門学舎ではポスターを作成し、校舎の各階へ掲示、周知を促す。大手門学舎では、イベントでしおりプレゼントを実施。司書手作りのしおりを貸出の先着順でプレゼントし、図書室に足を運んでもらう機会を増やした。</p> <p>⑪ クラス読書会では1年生・2年生が学年毎に同じ小説を読み、各クラスの図書委員が司会・板書を務め、感想の発表・意見交換を行う。生徒主導で進行し、活発な意見交換ができた。</p> <p>⑫ 赤門学舎は校舎入口の廊下、大手門学舎はコモンホールに返却BOXを置き、生徒が返却しやすくなった。図書室をもっと気軽に利用してもらうことにつながっている。</p> <p>⑬ 閉館時や開館時に、机に消しゴムのカスなど残っていないかチェックし、読書の間・勉強の場としていつでも快適に利用できるように美化に努めている。紙で作ったBOXを机毎に置いてごみ入れに使ってもらい、使用されたらすぐに交換している。</p>
<p>取り組んだ感想</p>	<p>読書によって、自分の身の回りだけではない様々な世界があることを知り、視野を広げて欲しい、また、心の支えとなるような、今後の糧となるような言葉と出会ってほしい、という思いで、生徒が様々な本を手にとってくれるよう取り組んだ。</p> <p>赤門学舎では、季節ごとの特集コーナーにおいて、とくに梅雨の時期に、生徒がよく立ち止まって本を手に取り、立ち読みしていた。特集コーナーから借りていく生徒も多く、背表紙を見るだけでは見逃してしまう本との出会いを提供することができた。新刊のPOPもよく読み、参考にしてくれていた。「カウンター当番日誌」には、「もっと借りて欲しい、もっと来て欲しい」という感想も多く、来館者を増やすためのアイデアを生徒と一緒に考えることも必要だと感じた。</p> <p>大手門学舎では、装飾を生徒と一緒に飾り付けることによって、図書室への関心も持ってもらう、キャラクターを見つけることの楽しさと一緒にいろいろなジャンルの本に目をとめてもらう工夫ができた。読書月間では手作りしおりを先着50名に配布、しおりを選ぶ楽しさもプラスして本を借りていく生徒が増えた。コモンホールへの新刊の展示や、3年生のPOPの展示によって、生徒の興味を引き、図書室に足を運んでくれる生徒が増えた。貸出冊数が昨年より上回った(昨年一人当たり年間3.49冊→5.39冊)。生徒の読書欲を引き出せる工夫ができた。</p>
<p>今後の取組予定 (令和6年(2024年)12月 ～令和7年(2025年)3月)</p>	<p>◎両学舎間で本を貸し借りできるようにしているが、今後はさらにそれを活かし、それぞれの学舎で選書している本のタイプが違うので、人気の本やおすすめの本など紹介しあう機会を作る。</p> <p>◎赤門学舎図書室：引き続き、季節ごとに特集コーナーを設置する。</p> <p>◎大手門学舎図書室：図書委員による図書館だよりのための記事(おすすめ本の紹介)の作成</p> <p>◎教諭(5名ぐらい)のおすすめの本を紹介してもらい、展示する。</p> <p>◎図書委員の3年生におすすめの本のPOPを作成してもらう。</p>

◎大手門学舎：図書館内の装飾



入口



カウンター



新刊コーナー

様々なキャラクターの切り絵を館内の随所に装飾。図書委員が飾り付け。天井からつるしたり、テーマに沿った絵柄を飾ったり工夫した。館内が明るい雰囲気になり、生徒が楽しんで館内をめぐることができるようになった。



◎赤門学舎：四季折々のテーマに沿った特集コーナー、新刊コーナー

時期	春(4～5月)	梅雨～夏(6～9月)	秋(10～11月)
テーマ	別れと出会いの季節 心温まる物語と触れ合おう	言葉の雨をあなたの心に	2024国スポ！スポーツの秋！ 読書でスポーツを体験しよう
選書	別れと出会い、春の季節を描いた小説を展示。POPをつける。	「言葉」をテーマにした本を展示。古典や詩集、勇気を与えてくれる言葉集など、色々な言葉との出会いの機会を増やす。	国スポに合わせ、スポーツを題材にした小説やアスリートに関するノンフィクションを展示。POPをつける。周辺地域で開催される国スポ競技の一覧も掲示。



春

梅雨

秋



◎新刊コーナー

POPを作成し、帯とともに展示。



◎両学舎：校舎ホールにおける新刊のお知らせ

・赤門学舎



・大手門学舎



生徒に興味を持ってもらうように、
本の内容を表記し、展示。

◎大手門学舎：3年生おすすめ本 POP の掲示



3年生が下級生に向けておすすめの本を紹介。
POPを作成し、ホールにて展示。

◎大手門学舎：読書月間のしおり配布

大手門学舎では、10月15日～11月15日の読書月間において、しおりプレゼントのイベントを実施。司書手作りのしおりを貸出の先着50名に配布。どのしおりがいいか、選ぶのを楽しみに図書館に来る生徒が増え、50名分配り終えた。また、しおりを通して生徒とのコミュニケーションも増え、本の話もたくさんできた。生徒に図書館に足を運んでもらう機会を増やし、貸出冊数も増やすことができた。



司書手作りのしおり。
リボン付けなど図書委員も制作に参加。

◎両学舎：クラス読書会の開催



クラス読書会では1年生・2年生が学年毎に同じ小説を読み、各クラスの図書委員が司会・板書を務め、感想の発表・意見交換を行う。生徒主導で進行し、活発な意見交換ができていた。

◎両学舎：返却BOXの設置



<赤門学舎>
玄関に設置



<大手門学舎>
コモンホールに設置

◎季節の飾り付け



令和6年度「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	佐賀市立勸興小学校	担当者名	諸岡 麻由子(司書) 大西 章子(図書主任)
住所	佐賀市成章町3-16	電話番号	0952-24-4235

I. 取組前の宣言内容

宣言	目標	めざせ図書館マスター!!図書館へ行こう!楽しもう図書館!活用しよう図書館!
	取組期間	令和6年4月8日~11月30日

II. 取組後の評価

評価	取組人数	288人	実施日数	158日	読書冊数	24230冊	連携した団体数	53団体
	取組内容(概要)	<p>1. 図書館環境を整える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい廃棄を行う。 ・学級文庫を各学級へ配置する。 ・高い本棚は上の部分に本を配架しない。 ・別置資料にはシール等で案内する。 ・図書館配置図の配布。 <p>2. 図書の授業の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語の教科書に掲載された本や関連本をクラスへ貸出。 ・図書の授業で読み聞かせ。 ・分類番号を覚えてもらう学習。 <p>3. 図書館に親しむための取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポイントカードの導入(続) ・図書館クイズ(続) ・新聞の活用の導入(続) ・図書委員会主導の図書館まつり <p>4. 関係機関との連携した取り組み(続)</p> <p>5. 教科等の授業と関連した取り組み(続)</p> <p>6. 夏休みの図書館活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休み用ポイントカードの導入(続) ・読書感想文の書き方プリント作成(続) ・読書感想文の書き方ワークシート作成(続) <p>7. 読み聞かせボランティアとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝読の時間に月に1回、朝読み聞かせを行う。 ・毎月木曜日に1・2年生対象にブックトークや読み聞かせ、紙芝居、パネルシアター、エプロンシアターなどを行っていただく。 						

工夫したこと

1. 図書館環境を整える

- ・別置資料もなるべく分類番号に近いところに設置し、わかりやすいよう、ラベル近くにシールを貼り出した。
- ・背の高い書架に人気の本を配架されていたが、子どもたちの背では届かないため、本が動かされていなかった。上の部分は本を配架せず、面出しとして活用することにした。
- ・貸出時に現在の貸出冊数を伝えるようにし、子どもたちの意識が高まるように努めた。
- ・100冊貸出達成した児童にはミニ賞状を進呈し、達成する喜びを得られるようにした。また、「どくしょの木」に掲示することで子どもたちの肯定感を得られるようにした。
- ・毎月、学期毎に貸出冊数上位者、また、飛躍して貸出冊数が伸びた児童へミニ賞状としおりやプラス券入れなど月ごとに工夫したプレゼントを贈呈し、図書館の廊下にも掲示した。児童の励みになっている。
- ・毎月、月毎の学級全体・個人の貸出冊数一覧を学級担任に提示した。また、0冊の児童がいた場合は貸出を促すようにした。

2. 図書の授業の取り組み

- ・学習の幅が広がるように、各学年の担任の先生方と連携し、国語の教科書に掲載された関連本をコンテナやブックトラックを使って定期的に貸出を行った。
- ・3年生までは図書の時間を毎週設けてもらい、図書の時間の導入として毎時間、読み聞かせを行った。
- ・分類番号について知らない児童が多かったため、分類番号について学習を行った。わかりやすいよう書架を分類番号順に並べかえた。本を元に戻すときにラベルを見て戻す意識付けを行うため、どこにしまうのか伝えるようにした。

3. 図書館に親しむための取り組み

- ・毎月初めにお誕生日の児童へ「おめでとうカード」と貸出券を贈呈。
 - ・今年度は一昨年より継続してポイントカードの発行をし、図書館に来る楽しみを増やした。1回の貸出につき、1ポイントを押印し、20ポイント毎に貸出券1枚のプレゼント。
 - ・新聞の「松丸君のクイズ」を図書館にファイリングし、正解者には貸出券をプレゼントした。他にも、新聞の切り抜きをファイリングしたり、掲示したりしてテーマによって本を一緒に配置した。毎週、児童たちはクイズに挑戦したり、新聞の切り抜き特集を見たりして楽しみにしている。
 - ・図書委員会主体の図書館まつりと図書館経営
- (ア) 図書委員で意見を出し合い、みんなが楽しめるようなイベントを考え、6月(開催済)・12月の2回、開催。
- (イ) ぬりえコンクール…図書委員がオリジナルのぬりえを作成。事前に用紙を自由に取ることができ、提出は1人1枚とし、提出した児童のぬりえを掲示した。結果は廊下にコピー作品と共に掲示。盛り上がった。

- (ウ)〇×クイズ…図書館や資料に関するクイズを〇×方式で記入。図書館の正しい使い方を覚えてもらう意図があった。
- (エ)3ヒントクイズ…3つのヒントから何の本か題名を導くクイズ。どれだけ本を読んだことがあるかで答えることができるクイズとなっていた。
- (オ)読書郵便…自分が読んだ本で面白かった本を、他のお友だちへ紹介するハガキを出すイベント。本の題名だけでなく、どんなところが、どのように面白かったかを紹介できるものになっていた。文章力も磨かれるイベントになった。
- (カ)ラッキーブック…図書委員が事前にラッキーブックになる本を選書。普段はなかなか手に取られないような本を多数用意。ラッキーブックとして登録をしたら書架に戻し、借りてもらうのを待つ。図書館まつり中にラッキーブックをたまたま借用した児童に「ラッキーブックです」と伝え、ラッキーブックを借用した児童にプラス券を進呈。どんな本がラッキーブックになっているのかわからないので、予測を楽しみながら普段は借りないような書架にも足を伸ばし借りるきっかけになっていた。
- (キ)じゃんけん大会…図書館まつり中に本を借りたら図書委員とじゃんけんをし、勝ったらプラス券を進呈。図書委員も借用しにきた児童、双方楽しんでいた。
- (ク)ボランティアさんによる朗読劇…初めての取り組みだったが、朝の読書ボランティアに来ていただいている地域の方や保護者さんによる朗読劇(「あらしのよるに」)を図書館まつり中にしていただいた。特別教室はとても広いのだが、聞きに来た児童で入りきれないくらいの満員で、盛り上がった。聞きにきた児童もすぐに朗読劇になっていた本を借りに来て、シリーズの借用につながった。図書委員の司会の元、聞きにきてくれた児童がたくさん感想を述べてくれた。また、日頃のお礼として、メッセージカードを児童から募集していたものを冊子にして、読書ボランティアの方に進呈。とても喜んでいただけた。
- (ケ)くじ引き大会…図書館まつりに参加したり本を借りたりするとスタンプラリーカードにスタンプを押してもらい、スタンプを集めた数によってくじ引きできる回数が違うイベント。商品は図書委員体験チケットや、プラス券、図書委員が作成したプラス券入れ等が当たる。図書委員が作成したプラス券入れが人気で、当たった児童はとても嬉しそうだった。
4. 関係機関との連携した取り組み(続)
- ・他校や市立図書館と資源を共有することで、授業等に必要な図書を正確に、かつ確実に用いることで、児童の知識・理解に努めた。
- (資源共有システムの利用による本校の図書資料をカバーする役割。)
5. 教科等の授業と関連した取り組み
- ・各教科の関連本や新聞の切り抜き、リーフレットを用意し、コンテナやブックトラックで学級や学年へ貸出を行い、教科に深みをもたせた。
6. 夏休みの図書館活用
- ・普段のポイントカードとは別に夏休み用のポイントカードを作成・配布した。ポイント3個毎にくじ引きができるようにして、夏休みも図書館にくる

		<p>楽しみを作った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みに図書館に来た児童の学習支援…自由研究や学習の手助けをレファレンスした。 ・夏休みは普段より利用者が少ないため、図書委員体験として「貸出・返却」を自分たちでやってみる体験イベントを行った。普段できない体験に目を輝かせて喜んでくれた。 ・夏休みに入る前に読書感想文の書き方プリント及び、感想文を簡単に書くことができるようワークシートを作成し配布した。 <p>7. 読み聞かせボランティアとの連携</p> <p>朝の時間、地域ボランティアや保護者による読み聞かせ。</p> <p>月1回の木曜日に1時間(1・2年生対象)各クラス毎に読み聞かせ・紙芝居・パネルシアター・エプロンシアター等を行ってもらい、子どもたちの楽しみとなっている。</p>
	<p>取組んだ感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度より勸興小学校に赴任し、図書館に入っただけで「見にくい・使にくい・資料を探しにくい」といった印象を持った。そのため、本棚移動・書架配置換え・本棚から溢れた本を書架に収めた。昨年度は産休・育休のためお休みをしていたが、今年度復帰し、継続して子どもたちの読みたい気持ちを引き出し、面白いと読んでくれるようになるようにPOPや面出し・掲示物・アナウンスに重点を置き借用につなげた。 ・県立図書館や市立図書館が近いため、自分たちで借りた資料や購入した資料を学校に持ってきている児童が多くおり、本をじっくりと読むことができる児童が多い。そのため、貸出冊数を重視するのではなく、自分にあった本を探すこと・本と向き合うことに重点をおいた図書館学習を行った。もちろん、初めて図書館に触れる児童もいるため、図書館来る楽しみや本を読む楽しみを知る学習も同時に行った。また、佐賀市立図書館の電子図書館を児童が使っているタブレットから利用できるようアナウンスを行った。 ・分類番号について知らない児童がまだまだ多いため、引き続き、請求記号の説明・ラベルの説明を行い、常に意識を持ってもらうよう声かけを行った結果、1年生でもラベルについて覚え自分たちで本を戻すことができるようになりはじめています。 ・自分たちで考え行動し、図書委員が主体となり休み時間の図書館運営を行ってくれている。図書館まつりも図書委員が主体となり行うことができた。教員が側にいなくても、どう動いたらいいのか、自分たちより下の学年たちに教えたり案内したりすることができていた。 ・様々な取り組みを継続している中、「図書館って楽しい」と言ってくれる児童がたくさん増え、一年生だけでなく高学年が特に利用が増えたことが大きな成果だと感じられた。また、レファレンスを気軽に申し出てくれる児童が増えた。 ・インターネットやスマホが普及する今、読書離れが心配されてるが、図書館や本が面白いと児童たちはたくさん利用してくれる。本が好きであり、読書意欲が高いと感じられた。

これまでの
取組や今後の
取組予定

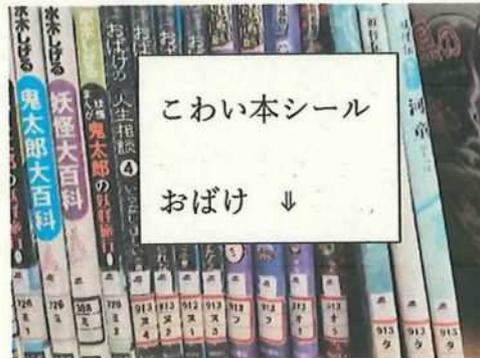
- ・読書の楽しみだけでなく、図書館へ訪れる楽しみを体感してもらう。
(アナウンスを増やし、訪れたり借りたりするきっかけを増やす。)
- ・図書館の使い方を学校で覚え、公共図書館及び、中学校・高校・大学へ進学した時に図書館を容易に使えるように学習する。
- ・読み聞かせ等を継続することで、ことばの大切さ、ことばの使い方も伝えたい。
- ・読書を通して心身の健康を促進していきたい。

図書館環境を整える



別置資料シール

環境・戦争・怖い本（おぼけの絵）・人権・日本の昔ばなし・世界の昔ばなし・小さい絵本・各学年教科書掲載の本など別置資料にはシールを貼り、本棚にも案内を掲示している。分かりやすくなり、自分たちで間違えずに戻すことができるようになった。



季節の本の展示

毎月、季節の本を展示して貸出を促している。普段、書架にあると借りられなくても、ここに展示されることで貸出につながっている。この展示の下にはテーブルを用意し、様々なテーマ・分類の関連本を展示し、貸出につなげている。



本棚に余裕を

ぎゅうぎゅうに入れられた本棚に余裕を持たせ、展示も無かったので面出しをして貸出を促した。



普段あまり借りられない8類の本。面出し展示をすることで貸出につながっている。



新しい本の展示・テーマ展示

新しい本と共に、毎月テーマを決めて展示している。子どもたちは、まずこの本棚を見ることが多く、いつも空っぽになるほど人気の本棚となっている。

雑誌の切り抜きや時事問題、本に関する特集と共に展示すると貸出意欲が高鳴るようだ。

楽しい気持ちになるようとの願いで展示している。

夏休み前には読書感想文ワークシートと一緒に置いていると手に取る児童が多数いた。



LGBTをテーマにムーミンの本の紹介
(新聞切り抜き・雑誌での紹介を共に添えて)

谷川俊太郎さんをテーマに
先日亡くなられた谷川俊太郎さんの本を朝の読書ボランティアさんに各クラスで読んでいただき、展示。





背の高い書架は配架せず、上を 面出し展示書架として活用

背の高い書架は子どもたちにとって届きにくいもの。また、見にくいので、配架せず、面出し展示書架として活用。興味・関心を持ち、貸出につながっている。

新聞の活用

毎日小学生新聞の展示・切り抜きを展示して時事問題に興味関心をもたせている。



新聞の活用(人気編)

毎日子ども新聞に「もちもち♡ぱんだ」が毎週金曜日に掲載されている。ファイリングすることで読み返すことができ、子どもたちに大人気となっている。



新聞活用(考えよう!編)

毎日子ども新聞には毎週金曜日に松丸君のクイズが掲載されている。切り抜きにして掲示し、誰でも挑戦することができるようにしている。答えがわかったら解答用紙に記入して提出。正解していたら貸出券をプレゼントしており、子どもたちは毎週楽しみにしている。





学習との連携・図書を活用

宿題として出される「自学」。上手な人を各学年で毎学期選び、ファイルに綴じ「自学名人ノート集」として図書館に展示。授業だけでなく自学に関してもレファレンスし、学習に利用できる本を紹介している。

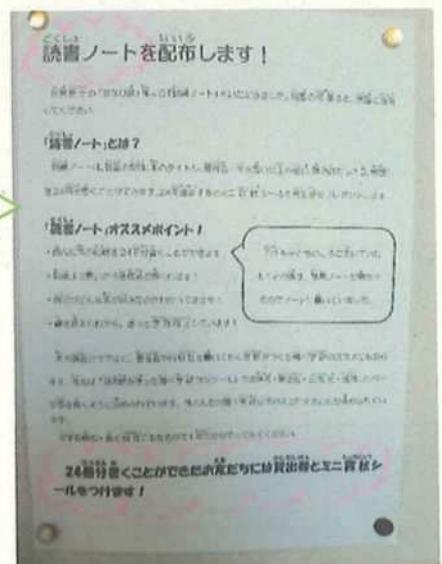


夏休みの学習に使う本

夏休みの自由研究・工作・読書感想文等の本を展示。裏面には過去の読書感想文・読書感想画の課題図書を展示。図書館入口近くに展示し、夏休み前や夏休み中の貸出につなげた。夏休みに図書館に来館した児童のほとんどが、このブックトラックから1冊は借用。保護者の皆様にも好評だった。

読書ノートの活用

佐賀県学び課様より毎年いただいている読書ノートを今年度も活用。読書ノートの説明・おススメポイント・活用方法を記載したプリントを読書ノートと共に配布・図書館にも展示している。取り組む児童も多く、記入が終わったノートは図書館に提出してもらい、すべてのページにコメントを入れるようにしている。卒業時に渡す「読書ファイル」に保管。





七夕

初めての取り組みだったが、学校の竹を図書館に展示。七夕関係の本と共に、七夕飾りと短冊を用意し、参加者を募った。願い事は「図書委員になりたい」「たくさん本を読みたい」「プラス券がほしい」といった図書館に関する願い事が多く見られた。願い事を叶えられそうなものは願い事の手伝いを図書委員が行った。



机で迷路

学習机に新聞の迷路を張り出し掲示。椅子も用意したことで、ゆっくりと迷路を楽しむことができる。紹介できそうな本がある時は一緒に展示している。



図書館まつり

ぬいえ

図書委員オリジナル塗り絵に色を塗ったり、絵を書き足したりオリジナリティあふれる作品が集まった。





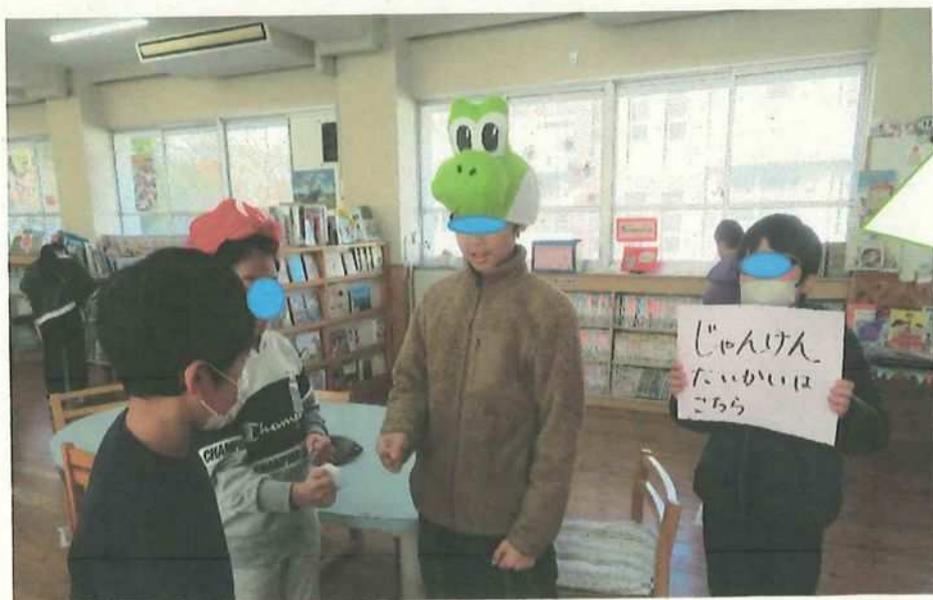
コラボ給食

図書館まつり中に、本にちなんだ給食を用意していただいた。給食に出てきた本は借用へつながつた。また、他校から同じ本を借用（資源共有を利用）し、借りたのに貸出中で借りられないという状況にならないようにした。



くじ引き大会

本を借りたり、イベントに参加したりしてスタンプラリーのスタンプを集めてくじに参加。一番人気のイベントで図書委員が作ったプレゼントを進呈。



じゃんけん大会

図書館まつり中に本を借りたら図書委員とじゃんけん。勝ったらプラス券を進呈。プラス券は毎日絵柄が違うため集めた児童が毎日の借用にきていた。

読み聞かせボランティアさんによる朗読劇

初めての試みで、地域ボランティア・保護者による朗読劇を図書館まつり中に行っていただいた。はじまる前は少なかったが、お話しが始まると児童で満員に。会場では図書委員が司会・案内も行い、聞きに来ていた児童たちもたくさん感想やお礼のことばをボランティアに述べていた。

朗読劇に使用された「あらしのよるに」はすぐにシリーズで借用につながった。図書館に残っていた図書委員も朗読劇の呼び込みをするなど、図書委員自ら考え行動できていたのも良かった。



読書郵便

自分が読んだ本で、面白かった本を他のお友だちへ紹介するハガキを出すイベント。本の題名だけでなく、どんなところが、どのように面白かったか紹介できるか、文章力も磨かれるイベントになった。

低学年より高学年にお手紙を出したり、高学年が低学年へお手紙を出したり、先生方に書いたり学年を超えた交流にもつながった。

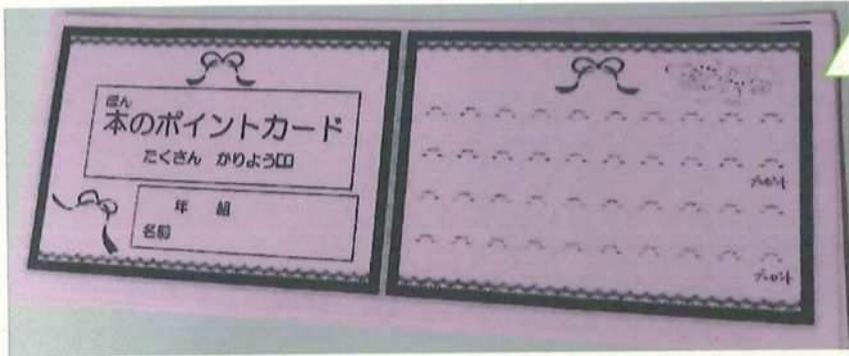
お手紙をもらった児童は実際に借用にきていた。



その他

ポイントカード

本を借りにきたら1ポイント
をもらえる。20ポイント毎で貸
出券1枚プレゼント。みんなポ
イントゲットを楽しみに来館し
ている。



プラス貸出券

毎月、ポイントでもらえる
プラス券は絵柄を変えてい
る。今年度は初めての試みと
して、イベント時は形も変え
てプラス券を作成。いろいろ
集めたくなり貸出やイベント
参加につながった。



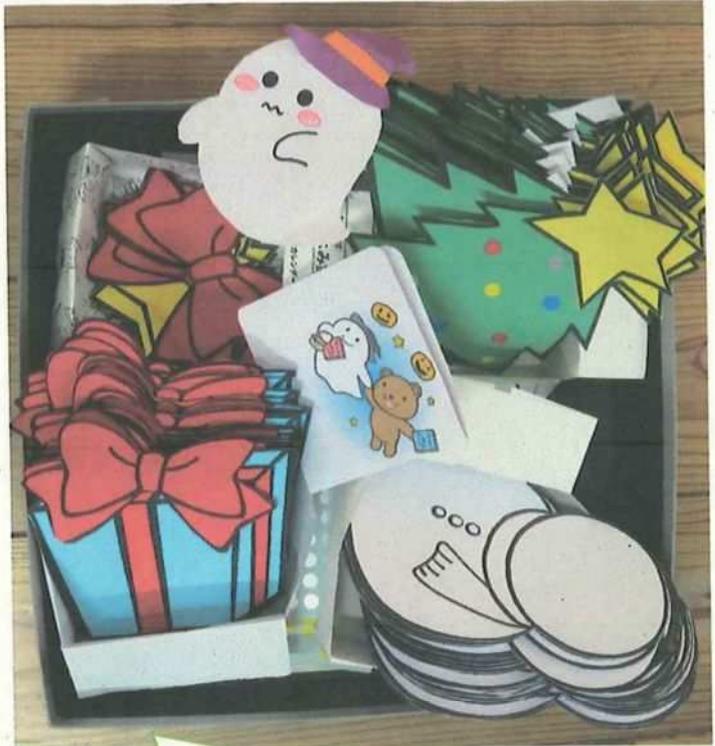
とくしょの木

100冊・200冊・300冊～に応じて達成した児童を掲示。肯定感や読む喜びにつながっている。
貸出冊数にこだわらず、難しく長い文章に挑戦している児童にも「頑張っているで賞」を贈っている。

100冊達成者…114人・400冊達成者…4人
200冊達成者…24人・500冊達成者…2人
300冊達成者…9人・600冊達成者…1人

多読賞

毎月・学期毎に多読賞だった児童。飛躍的に読書量が増えた児童へ表彰をしている。これを見て肯定感や「頑張ろう」の意欲につながっている。



プラス券入れ

毎月・学期毎に多読賞だった児童がもらえるプラス券入れ。毎月、入れ物が変わるので児童たちも楽しみにしている。クリスマスツリーはシールをセットし自由に貼れるようにした。雪だるまは顔の見本をいくつか用意し、自由に書けるできるようにした。



学期多読賞

学期の多読賞は図書司書作成のプレゼント、や図書の本についてくる付録が選べるようにした。プレゼント入れは本の表紙を紙袋にし、児童が喜ぶように工夫した。

木曜日(1・2年生対象)読み聞かせボランティア

地域ボランティアによる読み聞かせの時間。1時間のなかで、読み聞かせやパネルシアターなど、様々なことをして下さる。楽しくて子どもたちも毎回楽しみにしており、使用された本はすぐに貸出へつながっている。



図書館だより

毎月、暦や英語での表記、季節に関する図書館のお知らせをしている。

子どもたち向けの図書館だよりとして、読みやすさを意識して作成している。

公共図書館からのお知らせ

市立図書館や県立図書館から届いたお知らせを掲示。





キッズマート文庫

昨年度（令和5年度）に現5年生によるキッズマートが開催された。その売上金を今年度に自分たちが図書館に置いてほしい本を購入し、実際に図書館の本として貸出を始めた。

毎年、学習で使う本や投票の多かった本を購入したので、すぐに借用につながった。また、本と共にキッズマートが開催されるまでと開催当日の写真をデコレートし飾ったので、児童の興味・関心を引き出すことができた。保護者にも喜んでいただけた。

夏休みも図書館を楽しもう

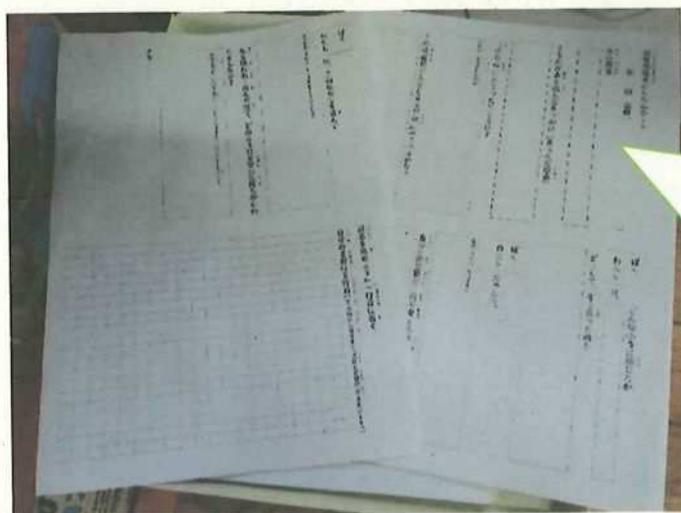
夏休みポイントカード

夏休みに本を借りたら1ポイントもらえ、3ポイント毎にくじびきができる。最初は本を読みにきたり勉強しにきたりしていた児童も、本を借りたい意欲につながっていた。

なつやすみ ポイントカード

なにが当たるかな？
くじびきをすると・・・

1~4のすうじ→もらえる貸出券の数
ま→まほうのチケット
じ→マグネット



読書感想文ワークシート

読書感想文の書き方を配布し、図書館には課題図書と共にワークシートを設置した。

夏休み前から取り組む児童もいた。

夏休みに図書館で書く児童もいたので、選書・書き方の相談にのった。

まとめ

こんな成果ができました！

様々な図書館改革を行い、今年度は3年目の取り組みとなった。登校している児童のほとんどが図書館利用しており、そこから電子図書館の利用・公共図書館の利用とつながっている。

図書館って楽しい！毎日行きたい！と言ってくれる児童も増えたように感じる。貸出冊数1人あたりの平均は前年度や、前々年度と同じくらいだが、資源共有を利用し、自分が好きな本や読みたい本を見つけるのが上達したように実感している。

また、授業を通してブックトークに取り組んだり、ワークシートを使用したりと、本の楽しさを人に伝える文章力の上達、アウトプットが上達したと感じている。

環境に関しては、これからクラスが減り、その代わりに1クラスあたりの人数が増えるだろうと予測し、今年度中に机と椅子を増設予定だ（1月予定）。また、常設本を移動式書架（ブックトラック）に本が入っているところがあったため、新たに書架を設置し、使いやすく安全面も考慮する（1月予定）。その他にも授業でクラス貸出が増えたため、移動式書架（ブックトラック）を増やしいろいろな学年への貸出に対応する予定だ（12月予定）。

小学校は図書館教育のはじまりで重要な位置づけだと考える。これからも、図書館教育をはじめ、レファレンス・アナウンスを大切に子どもがより読書が好きになるよう邁進したい。



令和6年度(2024年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	佐賀市立 日新小学校	児童数 372人
-----	------------	----------

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	イベントいっぱい！ 図書館に行こう！
	取組期間	令和6年(2024年)4月8日 ~ 令和6年(2024年)11月30日

※令和6年(2024年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和6年(2024年)11月30日までの取組みとする。

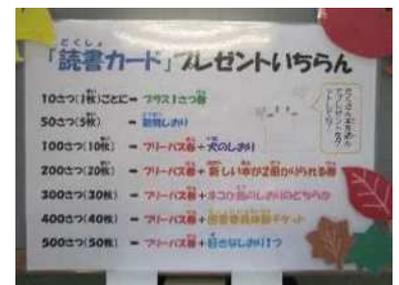
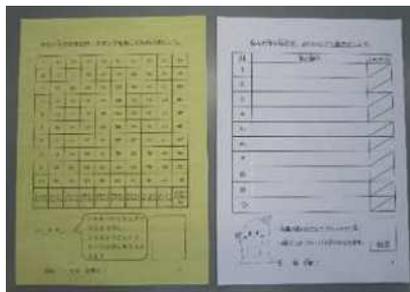
II.取組後の評価

	取組人数	372人	実施日数	237日	読書冊数	29,118冊	連携した団体数	2団体
評価	取組内容(概要)	<p>図書委員、司書、司書補助、司書教諭を中心とした体制の下、年間計画に沿って多様な読書活動を継続して行っている。</p> <p>①読書カードを使った貸出し記録 ②年間目標貸出数達成者の掲示 ③読書ビンゴ&佐賀弁クイズ ④年2回の図書館まつり ⑤1日体験図書委員 ⑥読み聞かせ体験 ⑦季節展示による読書推進と情報発信 ⑧市立図書館やボランティアとの連携</p>						
	工夫したこと	<p>①カードを見れば自分が今までに何冊借りたのか一目でわかる。いくつか目標冊数を設けており、達成すれば「プラス1冊券」「フリーパス券」「しおり」などのプレゼントがもらえ、目標達成への意欲にも繋がっている。</p> <p>②1・2年生100冊、3・4年生90冊、5・6年生80冊の年間目標を達成した児童の名前を書いた星を掲示。その後も200、300冊以上と段階的に星の色を変えることで、さらなる読書意欲を高める工夫をしている。(毎週金曜に司書補助により更新)</p> <p>③ビンゴカードには「担任の先生が好きな本」「家族に読んであげたい本」(以下に詳細)「動物の本」「乗り物の本」など様々なテーマが書かれており、借りたらスタンプを押す。列が揃ったら「佐賀弁クイズ」に挑戦。日頃使い慣れていない佐賀弁に苦慮しながらも、先生方に質問する姿が見られた。(開催期間1ヶ月)</p> <p>「家族に読んであげたい本」 自宅で児童が家族に読み聞かせをした後、家族から感想を書いてもらい図書館だよりで紹介した。たくさんの温かいコメントを書いていただき、家読推進にもつながっている。</p> <p>④図書委員主体で様々な担当を分担して取り組ませる。事前におまつりのしおりを全校に配布し、開催中はイベント内容を図書委員が毎日給食時間に放送。終了後もしばら</p>						

	<p>く作品を展示することで児童が図書館に足を運びきっかけにもなった。</p> <p>(以下開催内容 各1週間開催)</p> <p>6月…しおり作り・イラストコンテスト・ピョンピョンかえる作り・図書館クイズ</p> <p>11月…イラストコンテスト・本ビンゴ・どんぐりトトロ作り・折り紙でどんぐり作り・4コマまんが・コラボ給食3日間</p> <p>⑤希望する児童に図書委員の仕事を体験してもらう。図書委員が受付や本の整理の仕方を指導。低学年の参加者が多く、楽しんで参加する姿が見られ、図書委員活動の理解にも繋がっている。</p> <p>⑥参加希望の児童には10分程度で読める本を図書館や自宅で選んでもらい、学校や自宅で練習をするよう指導。多くの児童の前でも落ち着いて読み聞かせができる児童が多かった。</p> <p>⑦・館内だけでなく図書館前の廊下や靴箱の上でもおすすめの本を紹介。 ・長崎の修学旅行の後、6年生が制作したSDGs⑩「平和と公正をすべての人に」のパンフレットを戦争の本コーナーで紹介。 ・新しく入った本は1冊ずつ写真付きでポスターを作成し、紹介文を添えて掲示。 ・イベント時の写真をふんだんに掲載した図書館だよりや、職員と図書委員からのおすすめの本を顔写真付きで掲示するなど、目で見ても楽しめる工夫を行っている。 ・今年は教科書が変わったため全学年の国語の教科書(〇年生の本だな)に掲載されている本を購入し、教科書コーナーを新設。 ・図書館で行う展示やイベントはたくさんの児童に足を運んでもらうため、図書館だよりや給食時間の放送で全校に周知。 ・毎月各クラスの貸出実績を担任と管理職に報告し、情報を共有している。</p> <p>⑧本校に無い本や、調べ学習で使用する本を市立図書館から随時借りることができるため、職員や児童からのリクエストに素早く対応できる。また、保護者や地域の方で構成されたボランティアによる読み語りを、年13回全クラス朝の時間に実施。</p>
<p>取り組んだ感想</p>	<p>今年度は学年別に無理のない年間目標冊数を職員で検討・設定した。そのため図書の時間を活用したり担任が勤めたりすることで、児童の来館数が増えた。職員全体で図書館教育に取り組んだことで、児童の読書意欲をさらに向上させる成果が得られている。「図書館で何か楽しいことやっているな。行ってみようかな」と思ってもらったため様々なイベントを毎年継続して開催している。図書委員と司書だけでなく先生方にも協力いただき、楽しくイベントに参加する児童を見ることができている。今後の課題としては、借りる本の質には個人差があるため、個々に合ったジャンルの本を手にとってもらえるような取り組みをしていきたい。</p>
<p>今後の取組予定 (令和6年(2024年)12月 ～令和7年(2025年)3月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・12月 先生方によるクリスマスおはなし会 ・12月 図書委員による折り紙教室「サンタクロースを作ろう」 ・1月 図書委員によるイベント(昨年は「十二支のはじまり」の劇) ・1月 お正月イベント「おみくじ&絵馬を書こう」 ・2月 図書館キャラクター&プラス1さつ券デザインコンテスト ・2月 節分イベント「本を借りて鬼とジャンケン!勝ったらプラス券ゲット!」 ・3月 校長より年間多読児童の表彰

① 読書カードを使った貸出し記録

1年生は借りた冊数分図書委員がスタンプを押す。2～6年生は借りた本の題名を自分で記入。目標冊数に応じてプレゼントがもらえる。



② 年間目標貸出数達成者の掲示

毎年、夏休み明けから掲示開始。階段踊り場に掲示しているため目につきやすく、自分の名前が掲示されることで特別感を味わうことができる。



③ 読書ビンゴ&佐賀弁クイズ

1・2・3年生用と4・5・6年生用のビンゴカードがあり、お題の本を借りるとスタンプがもらえる。その中に「家族に読んであげたい本」があり、家族から感想を書いてもらい図書館だよりで紹介した。スタンプが3列揃うと佐賀弁クイズに挑戦できる。ビンゴゲーム同様ゲーム感覚で本に親しむことができる。



④ 年2回の図書館まつり

楽しみながら本に親しんでもらうためのイベント。工作やクイズが人気。毎年多くの児童が参加するため図工室で開催。司会進行や作り方の指導も図書委員が行う。全てのイベントに参加してしおりにスタンプをもらおうと、図書委員特製の特別プラス券がもらえる。毎年給食室に協力いただきコラボ給食を実施している。使用した本は料理が出てくるページを拡大コピーして展示したり、家庭でも家族と作れるようにレシピを紹介したりしている。



⑤ 1日体験図書委員

昼休みに図書委員と一緒に仕事を体験する。貸出し受付だけでなく、返却された本を本棚に戻す作業をすることで返却の仕方を理解することができる。「5年生になったら図書委員になりたい」と言ってくれる児童もいて、毎年人気のイベントになっている。



⑥ 読み聞かせ体験

本は一人でも友達と一緒に読んでもよい。2年目の試みで毎回参加してくれる児童もいる。休み時間に何度も練習をしている姿が見られた。そのため、本番は多くの児童や職員の前でも落ち着いて読むことができた。



⑦ 季節展示による読書推進と情報発信

～心掛けていること～

- ・四季を感じられる雰囲気作り。
- ・季節や時事に応じた変化のある展示。
- ・入り口ドアは全開にしておき、児童も職員も入りやすくしている。



⑧ 読み語りボランティアとの連携

読み手が足りない時は職員や司書補助が入る。絵が見えやすいように電子黒板を使用する場合もある。



【今後の取り組み予定】

- ・12月 先生方による「クリスマスおはなし会」（4日間）

先生の名前をふせた招待状兼スタンプカードを全校に配布。スタンプが全部たまれば図書委員手作りのサンタの折り紙をプレゼント。司会進行は図書委員。

- ・12月 図書委員による折り紙教室「サンタクロースを作ろう」

事前に図書委員が作り方を覚え、当日折り方を指導する。

- ・1月 図書委員によるイベント

昨年は図書委員の発案で「十二支のはじまり」の劇を開催。

セリフの読み合わせや動き方の確認など自主的に何度も練習をする様子が見られた。130名ほどの児童と職員が観に来てくれた中、本番は少し緊張した様子だったが練習の成果を発揮してスムーズに発表できた。その後、十二支関連の本を展示したらたくさんの児童が借りに来てくれた。

- ・1月 お正月イベント

「おみくじ&絵馬を書こう」

- ・2月 図書館キャラクター&プラス1 さつ券デザインコンテスト

- ・2月 節分イベント

「本を借りて鬼とジャンケン！勝ったらプラス券ゲット！」

- ・3月 校長より年間多読児童の表彰

昨年の様子



令和6年度(2024年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	佐賀県立高志館高等学校
	生徒数 250 人

I.取組前の宣言内容

宣 言	目 標	図書館スタッフと図書委員でつくる「足を運びたくなる図書館」
	取組期間	令和6年(2024年)5月1日 ～ 令和6年(2024年)年11月30日

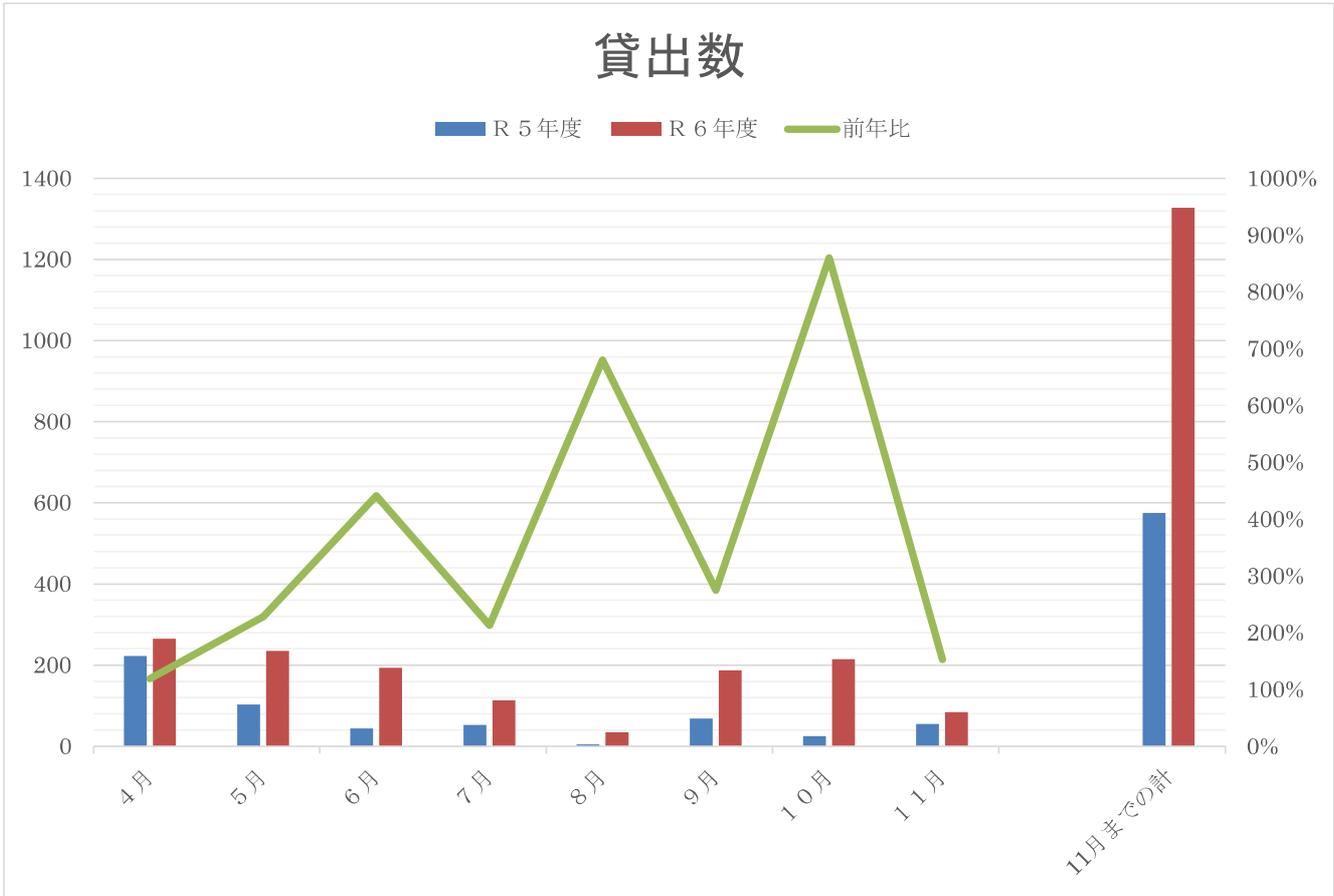
※令和6年(2024年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和6年(2024年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

評 価	取組人数	26 人	実施日数	143 日	読書冊数	20 冊	連携した団体数	1 団体
	取組内容（概要）	<p>【宣言目標設定の理由】</p> <p>本校生徒の読書離れ・図書館離れは著しく、昨年度の一人あたりの貸出冊数は2.8冊であった。まずは、「図書館に行こう」と思えるような仕掛けを作ることが重要であると考え、下記のような取組を行った。</p> <p>【取組の概要】</p> <p>1、委員会活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 図書委員の月当番制 ② 来館者クラスマッチ ③ 本探しイベント ④ ウェルカムボード作成 ⑤ 七夕飾り準備 ⑥ 夏季休業中の図書館整備 ⑦ 他校の図書館見学（代表生徒1名） ⑧ 文化祭での出展「ミニ図書館」 <p>2、教科との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 川柳、新聞など生徒作品の展示、コンテスト開催 ② 国語辞書、古典辞書の貸出 ③ 教科からのリクエスト書籍購入 <p>3、居場所づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 行きたいときに開いている図書館・・・スタッフの連携による開館時間の確保 ② 娯楽道具でも楽しめる図書館・・・コミック・絵本コーナー、オセロ、将棋、囲碁、論語かるた、百人一首かるたの常設 <p style="margin-left: 20px;">* 閲覧席から離れたところに長椅子を置き、くつろげるスペースを作った。</p> <p>4、広報活動</p> <p>上記1～3の取組を「図書館だより」や学校Instagramで紹介し、PRにも力を入れた。</p>						

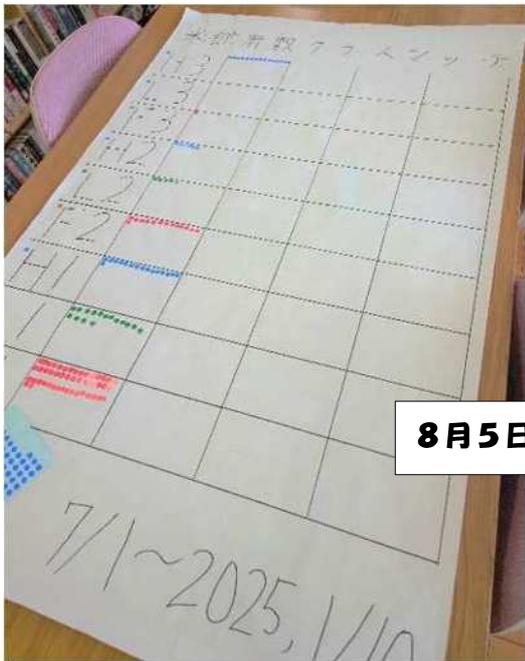
工夫したこと	<p>1、委員会活動の活性化</p> <p>① 図書委員の月当番制 初の試みとして、水曜昼休み限定ではあるが、カウンター当番制を採用した。</p> <p>② 来館者クラスマッチ 授業以外で図書館に訪れた際に、来館者本人が広用紙にシールを貼るようにした。広用紙を目につく場所に置き、スタッフが声を掛けた。</p> <p>③ 本探しイベント 図書委員のアイディアで、三つのヒントから特定の本を探し出すというゲームを行った。正解の本を借りた生徒にはちょっとしたプレゼントを準備した。</p> <p>④ ウェルカムボード作成 図書委員がウェルカムボードを描き、季節感のある図書館入口とした。</p> <p>⑤ 七夕飾り準備 来館者が願い事を書けるよう短冊を準備した。</p> <p>⑥ 夏季休業中の図書館整備 図書委員の年間業務の一つとして長期休業中の館内整備を行うこととした。本棚の本を取り出して奥まで拭き上げ館内の美化を図った。</p> <p>⑦ 他校の図書館見学（代表生徒1名） 他の高等学校の図書館を訪問し、選書やPOP、館内装飾などの参考とした。コミックをはじめとした寄贈本が多く、見やすくレイアウトされていた。</p> <p>⑧ 文化祭での出展「ミニ図書館」 生徒のアイディアから以下の企画を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しおり作りのワークショップ ・絵本の世界 ・ブックリサイクル（除籍本、雑誌のバックナンバー、職員からの提供） ・図書委員おすすめ本の紹介、閲覧コーナー <p>2、教科との連携 館内に国語科作品を掲示して授業で図書館を活用してもらうとともに、コンテストの投票箱を設置して休み時間も生徒が投票できるようにした。また、各教科に関連する図書について、各部署に確認し授業に役立てる選書を目指した。</p>
取り組んだ感想	<p>カウンター当番の時間を活用し、図書委員とスタッフとでイベント内容を考えたり作業を進めたりすることもできた。来館者クラスマッチは、当初スタッフから声をかけていたが、次第にシールを貼るのを楽しみ様子が見られるようになった。</p> <p>これらの取組の成果が見られ、貸出数は前年度同時期の2倍以上となっている。ただ、一人で300冊以上借りている1年生がいるので単純比較はできない。今後は、図書館利用者の幅を広げるべく、生徒・職員の要望に応える選書や配架の工夫などに、一層力を入れて「足を運びたくなる図書館」をつくっていきたい。</p>
今後の取組予定 (令和6年(2024年)12月 ～令和7年(2025年)3月)	<p>○クラス読書会・・・12月に実施。クラス図書委員が進行。ビブリオバトルを参考にした形式で行い、本への興味を喚起する。</p> <p>○来館者クラスマッチ・・・12月に経過報告を行い、1月中旬に結果発表及び表彰。</p> <p>○クリスマスや正月、バレンタインデーなどの季節行事に関連したコーナーの設置やイベントの実施。</p>

貸出数の前年度比



② 来館者クラスマッチ

授業以外で図書館に来たらシールを1枚貼る。
(1日1回だけ)



③ 本探しイベント



④ ウェルカムボード



⑤ 七夕飾り



⑥ 図書館整備



⑦ 他校見学



広報活動

「図書館だより」や学校Instagramで取組を紹介する。

図書館だより

6月号

水曜日ミナツキ 6月号
令和6年6月6日発行
高志館高等学校図書館
文責 塚原

今年の高校団体はいかがでしたか?懸命に頑張った、良い思い出が出来ましたか?今年も団体、改め、国スポ・全障スポが佐賀で行われます。約50年に一度、佐賀で行われる大会です。佐賀を代表する選手の方々と皆さんで、国スポを盛り上げていきましょう。

図書館から本を借りて、返却を忘れている本や辞典はありませんか?

お知らせ
先日発表になった、**読書感想文課題図書(高校の部)** 3冊を紹介します。(全て揃っています。)

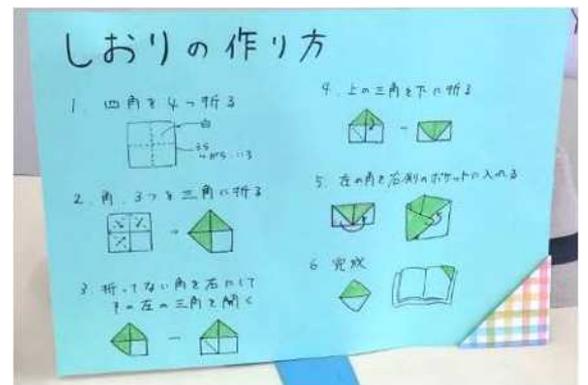
宙(そら)わたる教室 伊予原 新【著】
東京・有明にある都立高校の定時に集った、さまざまな事情を抱えた生徒たち。彼らは「科学部」を結成し、「火星のクレーター」を再現する実験を始めた。嵐々と突かりが合った表の夜空で、小さな奇跡が起きる...

優等生サバイバル 一青春を生き抜く13の法則 ファン・ヨンミ【著】
テスト、課題、進路、SNS、そして恋...。1日は24時間、やらないといけないこと、覚えなきゃいけないことは満載!「ハードな高校生活を生き抜くために、“優等生”のジュノが見つけた法則とは?

私の職場はサバナンです! 14歳の世渡り術 太田 ゆか【著】
大好きな動物を守りたいー東アフリカ政府公認・唯一の日本人女性サファリガイドが伝えたい知られざるサバナンの動物たちの生態、環境保護の最前線。人と自然が共生するために大切なこと。



⑧ 文化祭「ミニ図書館」



令和6年度(2024年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	有田町立有田中部小学校	児童数	463人
-----	-------------	-----	------

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	咲かせよう、読書の花！ ～見つけようお気に入りの1冊～
	取組期間	令和6年(2024年)4月15日～令和6年(2024年)11月30日

※令和6年(2024年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和6年(2024年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

評価	取組人数	463人	実施日数	230日	読書冊数	33506冊	連携した団体数	2団体
	取組内容(概要)	<ul style="list-style-type: none"> ①読書桜 ②読書ノートを活用 ③「ドリーム」さん(保護者の方を中心としたグループ)による読み聞かせ ④図書祭り(6月・11月) ⑤学級文庫や調べ学習図書 of 積極的な貸し出し ⑥教職員への希望図書アンケート 						
	工夫したこと	<p>【①読書桜】</p> <p>4月、図書室に読書桜を設置しました。学年ごとに桜が咲く基準(貸出冊数)を設定し、3月に満開の桜が咲くことをゴールにしました。各学年の貸出冊数が桜として表され、桜が咲くにつれ「花が咲いてきたね。」などと児童の声も聞かれるようになりました。</p> <p>「読書桜」は図書室を鮮やかにするとともに児童一人一人の心にも読書を通して桜が咲いてほしいという思いで始めました。次の学年に心に咲いた多くの桜をもってほしいと願っています。</p> <p>【②読書ノートを活用】</p> <p>アジサイ図書祭り(6月)に合わせて、県から配布された読書ノートを配布しました。読書ノートチャレンジとして、全校で取り組み、読書ノートを書き終えた児童には、賞状としおり、プラス1冊券を渡しました。1年生は、文章で書くことが難しいため、本を読んだらシールを貼るようにしました。</p> <p>【③「ドリーム」さんによる読み聞かせ】</p> <p>読み聞かせグループ「ドリーム」さんが、月に1回程度クラスごとに読み聞かせを行っていただきました。児童の発達段階に応じた本を選んで、読み聞かせをしていただきました。昔話、民話、季節の本など児童のことを考え様々なジャンルの本の読み聞かせを聞くことができました。児童も毎回どんな本を読んでもくださるのか楽しみにしていました。</p>						

	<p>【④図書祭り（6月・11月）】</p> <p>毎年、年に2回の図書祭りを実施しています。図書委員会の児童が協力して図書祭りの計画、準備、運営を行いました。くじ、本探し、しおり作り、わなげ、読み聞かせなどのイベントを行いました。日によってイベントに参加できる学年を分け、学年に応じた取り組みになるよう計画を立てました。図書祭り期間中は多くの児童が図書室を訪れ、たくさんの本を借りていました。特に、借りた本の冊数に応じて挑戦できるくじ引きは毎回人気で、読書への意欲が高まるきっかけとなりました。くじの景品では、次回から使える「プラス1冊券」が人気で、図書祭りが終わった後も図書室へ足を運びたいような工夫をしています。</p> <p>【⑤学級文庫や調べ学習図書の積極的な貸し出し】</p> <p>学級文庫用に学年に応じた本を図書室から貸し出しています。朝の時間に読書タイムがあるので、学級文庫の本を読んでいます。先生方に必要な本の冊数とどのような本がよいかのアンケートを取り、貸し出しをしています。年に3回の入れ替えを行い、たくさんの本に触れる機会を作っています。読んだことのない分類の本も読んでほしいため、普段借りないような本も入れるようにしています。</p> <p>各学年の学習内容（平和学習、総合的な学習の時間の調べ学習、国語科説明文や物語文の並行読書）に合わせて、学習用図書の貸し出しを積極的に行っています。各学級への貸し出しには冊数も必要になってくるため、図書室にない場合は町立図書館と連携をして準備しました。</p> <p>【⑥教員の希望図書アンケート】</p> <p>各クラスの担任の先生に希望図書のアンケートを取りました。各教科に活用できる図書を用意することができました。</p>
<p>取り組んだ感想</p>	<p>2回開催した図書祭りでは、普段図書室へと足が向かない児童も、意欲的に本を借りに行く機会となつてよかったです。また、読書桜や読書ノートの取り組みでは、継続的に読書へと向かう手立てとなりました。貸出冊数も昨年より約5千冊増えていたので、今後もたくさんの本と出会ってほしいです。</p>
<p>今後の取組予定 (令和6年(2024年)12月 ～令和7年(2025年)3月)</p>	<p>昨年度から継続的に取り組みを行っていることによって、読書に親しむ児童が増えました。現段階での貸出冊数も昨年より増え、児童が本に触れる機会が多くなっていると考えます。今後は、学年末に向けて、読書冊数を個人にフィードバックしたり、多読賞で讃えたりして、次年度の意欲へとつなげていきたいと考えています。また、「見つけようお気に入りの1冊」がテーマなので、見つけたお気に入りの共有していく取り組みもしてみたいです。</p>

読書桜～心に満開の桜を～

4月から読書桜の木を図書室に掲示し、スタートした「読書桜」。読書を通して、豊かな心を育ててほしい。目に見える形で満開にしたいのはもちろんのこと、なにより児童一人ひとりの心に読書桜を満開にしたいという思いで始めました。一人ひとり桜の咲かせ方はさまざまです。一冊の本と長い時間向き合い咲かせる子、出会ったことのない本との出会いから咲かせる子、友達からのおすすめでの出会いから咲かせる子、どの咲かせ方も素敵です。

「読書桜」は図書室の出入り口に設置してあります。図書室から出た子は借りた本との素敵な出会いにわくわくし、図書室へ入るときには次の本への期待と読んだ本への感謝を持ってほしいという思いがあり、設置場所を決めました。学年ごとに桜の木を用意し、それぞれの桜を咲かせるようにしました。11月末時点でもきれいな読書桜が咲いていますが、ゴールは3月末の満開の読書桜です。6年生は心に満開の桜を咲かせ、中学校に。1～5年生は心に満開の桜を咲かせ、次の学年へ。本との出会い・読書が人生の1ページに刻まれることを信じて…。

「読書桜」への児童の声も聞こえるようになりました。「たくさん咲いたね。」「もっと咲かせたい。」「3月にはもっと増えてるよね。」その声は目に見えている読書桜について言っているのかもかもしれませんが、児童の心にも同じように読書桜が咲いていると感じます。

4月の読書桜（植えた当初）



貸し出しカウンターの正面にあるため、子ども達も自然と目が行き、「たくさん咲いてきたね。」「0年生はたくさん本を読んでいるんだね。」「もっと咲かせたいね。」と呟き、意識している様子が伺えました。

読書桜が咲いてきました！



きれいな読書桜（3月の満開の読書桜に期待）



ぱっと見て全校の貸し出し冊数が把握できるので、学級担任の先生が児童への促しを意識するきっかけにもなりました。

読書ノートで継続を!!



読書ノート

ノートが配られると早速子どもたちは意欲的に記録をしていました。1ページ1ページ埋まっていく達成感もあり、面白い本に出会うと、「先生、この本読書ノートに書くね!」と嬉しそうな顔が見られました。言葉で表現するのが難しい1年生は絵を描いて感想を伝えようとする姿も見られました。

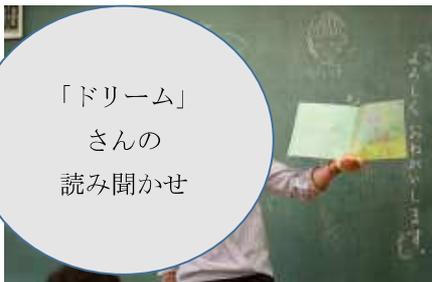
達成した人には…

ミニ賞状
プラス1冊券(3枚)
オリジナルしおり



「ドリーム」さんによる読み聞かせ

「ドリーム」
さんの
読み聞かせ



月に1回程度朝の時間に、クラスごとに読み聞かせに来てくださいます。昔話、民話、季節に関係する本、外国の本などさまざまなジャンルの本を児童の発達段階に合わせて選び、読み聞かせを行ってくださいます。読み聞かせを聞いて、その場で感想を伝えあうクラスもありました。

アジサイ・コスモス図書祭り

6月と11月に図書祭りを開催しました。

図書委員会の子どもたちが、どんなイベントを開催するとたくさんの人が集まってくるか・本に親しむきっかけになるか考えながら企画しました。本探しやしおり作りなど学年ごとにイベントに参加できる日を決め、学年に応じた内容を考えていました。特に「くじ」は大人気で、景品のプラス1冊券を狙ってたくさんの児童が本を借りて挑戦しました。プラス1冊券によって、図書祭りが終わった後も図書室に足を運ぶ児童が増えました。



くじ引き

【イベント内容】

- ・本探し
- ・くじ引き
- ・わなげ
- ・まちがい探し
- ・読み聞かせ
- ・しおり作り
- など

まちがい探し



学年ごとに問題を変えて、楽しめるように工夫しています。参加者にはプラス1冊券のプレゼントがあり、また本を借りに来るきっかけとなります。

わなげのイベントは大人気でした。高得点の児童を放送で発表したり、賞品をプレゼントしたりして、盛り上がりました。



わなげ



図書祭り期間中は図書室利用者が**普段の2~3倍!**たくさんのイベントで盛り上がりました。



自分の好きな絵を描き、しおりにしています。何を描こうかな?

しおり作り

わいわい文庫の活用

いろいろな事情で、通常の本では読書が難しい児童もいます。そんな児童もお話に触れることができるようにマルチメディアDISY図書「わいわい文庫」を活用しました。各クラスの電子黒板から絵本の読み聞かせを楽しめるようになっています。読者のニーズに合わせて、文字の大きさや読み上げるスピードも変更することができます。クラスで楽しむことも、個人で楽しむこともできました。図書室では、図書祭りのイベント「読み聞かせ」で活用をしました。まだ、使い始めたばかりですので、各担任の先生方へ周知を図ったり、図書室でもいろいろな使い方ができないか創意工夫をしたりしていきたいと考えています。

昨年度より、貸出冊数**約5000冊増加!**

令和6年度(2024年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	三根西小学校	児童数	194	人
-----	--------	-----	-----	---

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	学年別目標達成を目指して
	取組期間	令和6年(2024年)4月22日～令和6年(2024年)6月11月30日

※令和6年(2024年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和6年(2024年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

評価	取組人数	194人	実施日数	233日	読書冊数	13420冊	連携した団体数	2団体
	取組内容(概要)	先生おすすめの本の紹介 本の展示 先生おすすめの本の福袋 (校長先生おすすめの本) 本の展示 図書館おみくじ 1日図書委員 読み聞かせで読まれた本の紹介 展示 雨の日キャンペーン 季節の掲示 ろうか掲示 コラボ給食 スタンプラリー						
	工夫したこと	児童が図書館に興味をもてるよう図書館おみくじを設置した。「毎月テーマ展示や季節の飾りつけを実施。校長先生や先生方のおすすめの本を低学年・高学年ごとに紹介してもらい、1冊ずつ本の福袋にいれて貸し出す。通常2冊貸し出しを、雨の日は3冊貸し出しにする。						
	取り組んだ感想	図書館おみくじは、どの学年の子供たちにも人気であり、図書館に来る回数が、増えた。雨の日キャンペーンも好評で、児童がとても喜んだ。先生おすすめの本に興味をもち、先生おすすめの本の福袋も設置するとすぐなるくらい盛況だった。						
	今後の取組予定 (令和6年(2024年)12月 ～令和7年(2025年)3月)	継続して、先生おすすめの本の福袋、雨の日キャンペーン、校長先生おすすめの本を続ける。保護者の方にもおすすめの本を紹介してもらい、本を展示する予定。また、今後お昼の放送時間に級外の先生によるキャンペーンや読み聞かせ、司書による新刊案内などに取り組む。						

【三根西小学校の取り組み】

① 環境整備

月ごとに廊下と館内掲示の掲示を変えて、
月ごとのテーマの本を展示しています。



(としょかんおみくじ)



おみくじは1日1回 休み時間などにひけるように
しています。おみくじの8つの色で、占えるおみ
くじは人気コーナーになっています。



【おすすめの本30選】

各学年30冊のおすすめの本を選んで、コーナーを作り
オリエンテーション時に用紙を配布しています。達成し
たら、認定証とプレゼント券を渡しています。



町立図書館のおすすめの本30冊とも連携していて、
達成した児童には、学校図書館を通じて町立図書館へ
報告し、図書館からプレゼントがもらえます。

【町立図書館との連携】

「おうちとしょかん」の宣伝で、1学期から、おうちとしょかん
コーナーを設置していましたが、町立図書館の本を借りたい
児童が多数いたので、貸し出し用にしました。プラス1冊
借りることができるので、人気のコーナーになっています。



図書館より箱ごと貸し出し
してもらっています



② 先生おすすめの本

先生方におすすめの本を紹介してもらい、廊下掲示と、図書館にコーナーを作って貸し出しました。2学期は、1年生から3年生用と、4年生から6年生用に1冊ずつ紹介してもらい、1～3年生用と4～6年生用に1冊ずつ本の福袋にして貸し出しました。（くじ券を入れて、当たりが出たら、プラス貸し出し券をプレゼントしました。）



おすすめの本紹介（廊下掲示）



本の福袋（今年度1番の人気イベント）

③ 図書館まつり

年2回開催しています。1学期は、分類ビンゴと、図書委員による1・2年生への読み聞かせ、2学期は、オリジナルしおりコンクールとスタンプカード、図書館クイズを行いました。ビンゴ、スタンプカードを達成した児童は、ガチャガチャができます。景品には、1日図書委員体験券や、本の付録や本のカバーのエコバックなどを用意して、子供たちに好評でした。



くじ引き用のガチャガチャは、6年前職員が作成



くじの景品は、本エコバックや、本の付録・1日図書委員体験券など用意しました。



図書委員体験券で、体験中の4年生。体験券は、3年生以上に限定しました。

④ 読み聞かせボランティア おひさま会との連携

今年度は、1学期4回 2学期7回 3学期4回の計15回実施予定です。金曜日の始業前10分程度の読み聞かせを、全部の学年に行ってもらっています。メンバーが、足りないときは、司書も応援メンバーになります。三根西小は、小規模校ですが、ボランティアのメンバーは10名ほど在籍されており、全学年に読み聞かせを実施することができています。読み聞かせノートは、毎回先生方に回覧しています。読まれる本は、学校図書館からも借りてもらい、紹介してもらっています。



(朝の読み聞かせの様子)



読み聞かせで紹介された本

「おばけのケーキ屋さん」の絵本は、特に児童の心にしみた絵本だったので、校長先生にも、紹介して校長先生のおすすめの本の1冊としても紹介して展示しました。児童もよく借りています。

⑤ 各学年の努力目標達成数 11月30日までの達成者数

R5年度			
学年	目標冊数	児童数	達成者数
1・2年	120	59名	20名
3・4年	100	64名	4名
5・6年	80	61名	0名

R6年度			
学年	目標冊数	児童数	達成者数
1・2年	120	73名	11名
3・4年	100	56名	15名
5・6年	80	65名	2名



今年度は、3・4年生の児童が本をよく借りにきてくれています。先生おすすめの本の福袋効果が高いです。

令和6年度(2024年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	太良町立大浦中学校	生徒数 66人
-----	-----------	---------

I.取組前の宣言内容

宣 言	目 標	本をたくさん読んで、知識や想像力を豊かにしよう。
	取組期間	令和6年(2024年) 4月 8日 ~ 令和6年(2024年) 11月 30日

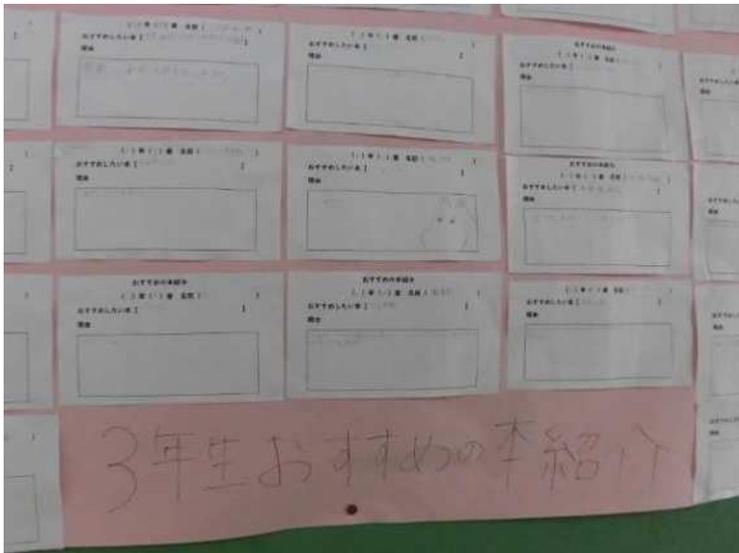
※令和6年(2024年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和6年(2024年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

評 価	取組人数	66 人	実施日数	237 日	読書冊数	28 00冊	連携した団体数	0 団体
	取組内容(概要)	<p>【おすすめの本紹介】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おすすめしたい本を生徒や教員に書かせ、図書室前の掲示板に掲示。 <p>【図書館祭り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本集めクイズ/本パズル/図書ビンゴ <p>【本の川柳】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本についての川柳を生徒に書かせ、文化学習発表会時に掲示。 <p>【昼休み終了前の読書タイム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGs「質の高い教育をみんなに」に貢献するために、月・水・金の5分間読書を行っている。 <p>【読み聞かせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学期1回行う。人権擁護委員さんによる人権作文の読み聞かせや地域のボランティアによる絵本の読み聞かせを行った。 						
	工夫したこと	図書室に来てほしいという呼びかけだけではなく、読書タイムを取り入れ、掲示物を生徒の作品にすることによって、生徒が自分で本を探して読みたくなるような取り組みを目指した。						
	取り組んだ感想	生徒は図書館祭りの企画に楽しそうに取り組んでいた。本を読むことが苦手だと感じている生徒が図書室に足を運ぶ機会づくりとして、様々な取り組みを行ったことは、非常に効果的だったと思う。また、教職員だけでこのような取り組みを行うのではなく、生徒会の図書委員長を中心に、企画・運営をさせたことで、生徒主体の図書館教育ができたと感じる。						
	今後の取組予定 (令和6年(2024年)12月 ~令和7年(2025年)3月)	読書タイムは継続して行う。 読み聞かせを2月に予定している。						

【太良町立大浦中学校】取り組み内容資料

○生徒・教員のおすすめの本紹介用紙の掲示



○廃棄本のリサイクル



○太良町に関する本のコーナー



○新刊リクエスト



○新着図書紹介コーナー



○SDGsに関するコーナー

○国スポ2024コーナー
+
スポーツコーナー



令和6年度(2024年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	佐賀市立若楠小学校	児童数	305人
-----	-----------	-----	------

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	たくさんの本に出会って、読書の幅を広げよう！
	取組期間	令和6年(2024年)4月8日～令和6年(2024年)11月29日

※令和6年(2024年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和6年(2024年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

評価	取組人数	305人	実施日数	236日	読書冊数	33,938冊	連携した団体数	1団体
	取組内容(概要)	<p>①日常的な読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書記録カード ・多読賞 ・ラッキーブック <p>②児童主体の委員会活動 年2回の図書館祭り</p> <p>③本とつながるきっかけを作る取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域・保護者ボランティア「ゴジラの会」 ・図書館便り ・コラボ給食(本に出てくる料理を給食に) 						
工夫したこと	<p>①日常的な読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書記録カード <p>全校児童に配布している「わたしの読書記録カード」には、目標冊数を記録し、ブックチャレンジの本30冊と分類の表、おすすめの本の紹介の欄を設け、カードをいつもブックバッグに入れて持ち歩けるようにしている。ブックチャレンジは学年ごとに教科書に載っている本や、司書のおすすめの本などを載せている。取り組む中で今まで興味のなかった本にも出会い、読書の幅を広げている。</p> <p>本の貸し出し冊数は、通知表「はげみの記録」にも載せ、家庭との連携を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多読賞 <p>貸し出し冊数が100冊増える毎に「貸し出し券」を発行する。また、図書室前の廊下に「読書の木」スペースを設け、読書数が増える毎にミカンの形をした紙を貼ることができるようにしている。たくさん本を読むと、ミカンの形の紙をたくさん貼ることができる。100冊毎にミカンの実の色を緑→黄色→オレンジと変えて、児童の多読に対する意欲を高める取り組みを行っている。</p>							

	<p>・ラッキーブック</p> <p>児童が多様な分類の本に親しむことができるようにするために、それぞれの月で「ラッキーブック」を指定している。例えば、1月のラッキーブックが「1類の本」とすると、通常であれば児童が一度に借りることができる冊数は2冊であるが、ラッキーブックを借りるのであれば2冊に加えてもう1冊借りることができる。ラッキーブックとなる本の分類は毎月変わるため、児童は多様な分類の本を読む機会を得ることができると考えている。</p> <p>②児童主体の委員会活動 年2回の図書館祭り</p> <p>図書委員会が企画し、6月に「あじさいまつり」、11月に「もみじまつり」を開催している。この期間は毎日、本を5冊借りることができるほか、図書館への関心や読書意欲を高めるため、図書委員会による様々なイベントを計画・実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼休みのイベント（図書館クイズ大会、本の神経衰弱、ビンゴ大会、クイズ大会、本かるた大会など） ・「ゴジラの会」による読み聞かせ ・常設イベント（宝くじ、スタンプラリーなど）各イベントの参加者や入賞者には、貸し出し券等の賞品を渡したり、図書館に足を運ぶようアナウンスしたりしている。 <p>③本とつながるきっかけを作る取り組み</p> <p>・地域・保護者ボランティア「ゴジラの会」</p> <p>「ゴジラの会」の方には毎年読書活動で協力していただいている。各クラス学期に1回程度水曜日の朝の時間に各クラスで本の読み聞かせや素話をしていただいている。</p> <p>年2回の図書館祭りでは、昼休みにすすくホールにて、パネルシアターや大型絵本の読み聞かせなどを行っていただき、毎回たくさん子どもが集まり、楽しんでいる。</p> <p>・図書館便り</p> <p>児童や保護者が、学校図書館について理解と関心を高めることができるように、毎月発行している。本の借り方や返し方、新着図書の紹介、多読賞を達成した児童の紹介、図書館まつりのお知らせ等を掲載している。</p> <p>・コラボ給食・・・本に出てくる料理を給食に</p> <p>6月24日～28日と11月18日～22日に、食への興味関心をもってもらうために、図書館にある本の中から出てくる料理を再現し、給食で提供した。給食時間に本の画像と共に紹介した。また、紹介した本を特設コーナーに提示し、児童が手に取って見られるようにすることで、料理が出てくる他の本にも関心を広げたり、そのシリーズの本に目を向けたりできるようにした。</p>
<p>取り組んだ感想</p>	<p>本校では、まずは本に興味をもち、自ら手に取って読むという習慣をどの児童にも身に付けてほしいという願いから、以上のような取り組みを行っている。その結果、貸し出し冊数は増加傾向にある。一方で、読書量には個人差があるため、読書量の少ない児童を図書館に誘うための手立てが必要だと思われる。今後も、さらに図書館祭りなどのイベントを充実させ、図書館に足を運んでもらい、児童の読書の幅を広げていきたい。</p>
<p>今後の取組予定 (令和6年(2024年)12月 ～令和7年(2025年)3月)</p>	<p>引き続き、季節の行事や学校行事に関係のある本などを適宜紹介していく。また、図書委員の児童が交代するので、活動を振り返って次年度につながるような改善策を話し合ったり、仕事を引き継いだりして、児童の意識を高めていく。</p>

○資料

①日常的な読書活動の推進



【多読賞は校長先生からの表彰】



【図書館廊下の掲示】



【「ラッキーブック」の指定】

②児童主体の委員会活動（図書館祭り）



【クイズ大会（あじさいまつり）】



【手作り本かるた（あじさいまつり）】



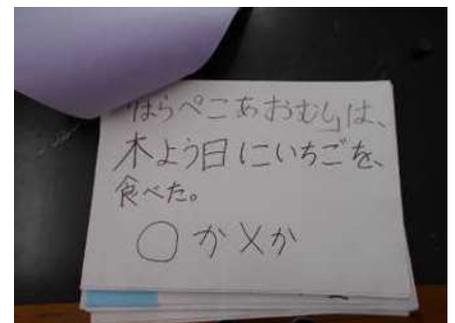
【ゴジラの会読み聞かせ】



【スリーヒントクイズ（もみじまつり）】



【本の表紙あてクイズ（もみじまつり）】



【クイズは全校児童から募集（もみじまつり）】

③本とつながるきっかけを作る取り組み（季節の本の紹介・コラボ給食）



【クリスマスに関する本の紹介】



【「ああ、アジのひらきがたべたい!」のあじのしおやき】



【「パンどろぼう」のピザトースト】

令和6年度(2024年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	佐賀市立春日北小学校	児童数 552人
-----	------------	----------

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	読書の世界を楽しもう！広げよう！
	取組期間	令和6年(2024年)4月8日 ～ 令和6年(2024年)11月30日

II.取組後の評価

評価	取組人数	552人	実施日数	237日	読書冊数	53059冊	連携した団体数	0団体
	取組内容(概要)	<p>(1) 楽しい図書館を目指した取り組み</p> <p>(2) 読書意欲を高める取り組み</p> <p>(3) 使いやすい図書館を目指した取り組み</p>						
工夫したこと	<p>4月に図書委員と図書館司書、図書館担当教員とで委員会活動の時間を中心に、今年度の活動内容について話し合った。その中で、「全校のみんなと本とのつながりを大切にしていきたい。」「本の世界を楽しむ場としての図書館にしたい。」という考えが出た。これらの意見から、図書委員の方から積極的に読書の楽しさを伝えることで、本と児童との結びつきを築いていこうという考えにまとまった。本を読む喜びを知ってほしいと考えたこの目標に向けて、読書の楽しみを様々な工夫して全校児童に紹介することに努めていった。</p> <p>(1) 楽しい図書館を目指した取り組み</p> <p>①年2回の「としょかんまつり」を図書委員で企画した。まつりの案内とスタンプラリーのプリントを全校児童に配布し、開催中は図書委員が毎日放送で来館を呼び掛けて図書館に来るきっかけ作りを行った。以下の催しを行った。</p> <p>6月：「スタンプラリー」「としょかんビンゴ」「てるてるぼうずのしおり」「まちがいさがし」「ぬりえ」「4コマまんがをつくろう」</p> <p>11月：「スタンプラリー」「運動会の赤青黄組対抗の貸出競争」「としょかんクイズ」「まちがいさがし」「本さがし」</p> <p>②児童玄関と図書館の棚の2か所に「おすすめの本」を紹介している。「おすすめの本」は、その月にまつわるテーマの本やメディアなどで話題の本を図書館司書が選書したものである。図書館で紹介している本は「ラッキーブック」として、読むとスタンプを押し、スタンプを集めると貸し出し券をプレゼントするようにしている。また、「としょかんまつり」の時期には、図書委員や教員が選書した「おすすめの本」を「ラッキーブック」とした。</p> <p>③来館した児童の読書意欲を誘うように、季節や行事、社会の時事、流行に沿って図書館内の飾りつけや配架を絶えず変化させた。体育の日や運動会の前などにはスポーツ関係の本を、ハロウィンの時期にはカボチャの飾りつけ等、絶えず変化させる図書館とした。</p> <p>(2) 読書意欲を高める取り組み</p> <p>4月に図書委員を中心に各学年に応じた本の内容等を考慮して話し合いを行い、低学年120冊、中学年100冊、高学年80冊という1年間の貸し出し目標を設定した。</p> <p>① 図書館の廊下には貸出冊数が増えるごとに名前を書いたりんごの実の色が変</p>							

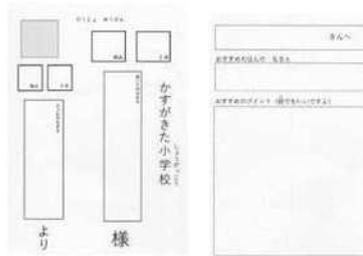
	<p>わる「どくしょの木」のコーナーを設けて、自分の貸出冊数がどれくらいなのかを誰もが把握できるようにした。また、りんごの実と一緒にもらう券を校長室へもって行くと、ごほうびシールを校長先生から直接もらえるようにした。これを楽しんでいた児童も多くいた。</p> <p>② 本の冊数に応じてくじ引き券やガチャガチャ券をプレゼントした。500冊を借りた児童には手製のトロフィーを渡している。学級のクラスメートの前でこれらの券を渡すようにした。</p> <p>③ 毎学期、終業式に全校で貸出冊数が多い児童上位10名に多読賞の表彰を行った。放送で全校児童に多読者の名前を知らせ、校長室で校長先生から賞状を手渡すようにした。</p> <p>④ 各学年ごとに読んでほしい本を「どくしょチャレンジ」として必読図書とし、これを読むと台紙にスタンプを押し、すべて読んだ児童にはプレゼントを渡すようにしている。</p> <p>⑤ 6月の「としょかんまつり」では「分類ビンゴ」を行った。指定された分類番号の本を借りるとビンゴカードにスタンプを押してもらい、ビンゴになるとくじ引きができるようにした。子どもたちが借りる本は9類に偏りがちであるため、いろいろな分類の本を手にする機会となるようにした。</p> <p>⑥ 図書の時間に読み聞かせや本の紹介をすることで本への興味を高めた。</p> <p>(3) 使いやすい図書館を目指した取り組み</p> <p>① 整理しやすいように本の配置を工夫した。書架から別置されていた小型の本や大型の本、人気の本には片付けの際に間違いが多かったため、目印となるラベルを付けた。また、書架の配置を分類番号順になるように変更した。</p> <p>② 分類を知ることで、子どもたちが自分たちで使いやすい図書館にできるように工夫した。各クラスの図書の時間に本の分類について説明した。分類を知ることで、1年生は物語の本を返せるように、2,3年生は借りた本を自分で棚に返せるように、4年生以上は読みたい本を分類から探すことができるようになることを目標にした。1学期は返却用のブックトラックに本を返していた児童も、分類の知識をもとに自分で本棚に本を戻すことができるようになった。自分が借りていない本でも、ブックトラックから本棚に本を戻してくれる児童もいた。</p> <p>③ 子どもたちが豊富な種類の本に触れることができるように工夫した。資源流通便を活用して市立図書館や他校から調べ学習等で使用する本を集めた。学期ごとに教職員に学習に活用する図書の希望アンケートを採り、学習活動の前に必要な資料を集めることができるようにした。</p>
<p>取り組んだ感想</p>	<p>「図書委員をやってみて一番思い出に残ったことは、たいへんだったけど、とても楽しかったことです。貸し出し、返却のカウンターの仕事ははじめてのときはとてもきんちょうしたけれど、バーコードを読みこなすのも、とても楽しかったです。そして、本棚を整理する仕事も、はじめはいやだったけど、やってみるとけっこう楽しくてとてもよかったです。ほかにも楽しいことはいっぱいありました。」「6月と11月のとしょかんまつりが楽しくて、一番の思い出です。それは準備が楽しかったからです。各曜日でクイズや本探し、4コマまんがなどのいろいろな楽しいイベントをするために、図書委員の仲間と話し合いをして、みんなの意見を聞いて、どんなことをしたいかなどを決めて、準備に取り組んでまつりを行いました。それと、低学年の人たちがたくさんとしょかんまつりに参加してくれたことがうれしかったです。」という図書委員の言葉が、活動後の感想に書いてあった。今年度の全校の貸し出し冊数は、昨年度の11月までと比較して、1万冊以上も増加している。これは図書館が『読書の世界を楽しもう！広げよう！』をテーマに掲げて様々な活動を行ったことで、全校児童に読書意欲を喚起した成果である。</p>
<p>今後の取組予定 (令和6年(2024年)12月 ～令和7年(2025年)3月)</p>	<p>図書委員と図書館司書、図書館担当教員とて話し合いながら、「読書チャレンジ」に応募することを大きな目標として、今年度、様々な活動に取り組んできたが、その効果は確実にあった。委員会活動としての図書委員の自主性も大切にしながら、本校児童にとって豊かな読書が日常になるように、これからも活動を工夫していきたい。</p>

(1) 楽しい図書館を目指した取組

①としょかんまつりの様子(抜粋)



てるてるぼうずの型紙に絵をかいて自分だけのしおりをつくった。しおりは図書館で掲示した後、返却した。カラフルなてるてるぼうずたちは、梅雨の時期の図書館を明るくしてくれた。→



←読書郵便は初めての取り組みだったので、図書委員会が全クラスに説明に行った。宛名の書き方などを丁寧に説明したため、混乱することなく、1年生から楽しめた。



↑自分のオリジナルの4コマまんが。高学年にも人気があり、たくさんの作品が応募された。



↑スタンプラリーは集めた数で貸出券がもらえ、全部集めるとくじびきができる。

②児童玄関や図書館で紹介するおすすめの本



↑児童玄関の毎月のおすすめの本



↑ラッキーブックを借りるとスタンプを押してもらえる。



↑図書委員のおすすめの本



↑先生のおすすめの本

←先生のおすすめの本は特に人気があり、あっという間に借りられていた。

③季節の詩の飾りつけ

季節の詩は毎月のおすすめの本である「ラッキーブック」と一緒に掲示している。季節の詩と一緒に掲示することで、ラッキーブックを手にするきっかけとなっている。→

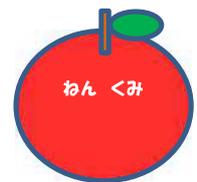


(2) 読書意欲を高める取組

①どくしよの木



貸出数	りんごの色
30冊	赤
60冊	黄
90冊	橙
120冊	緑
200冊	青
300冊	紫
400冊	黒
500冊	白



↑りんごの実印刷したものを図書委員会で切っている。

↑【どくしよの木】貸出数 30冊、60冊、90冊、120冊、200冊、300冊、400冊、500冊と増えるごとにりんごの色が変わる。

【ご褒美シール】読書の実をもらう時に一緒に『校長先生からのご褒美シール』の引換券をもらう。休み時間に校長室に行くと、校長先生からご褒美シールがもらえる。子どもたちは校長先生からシールをもらって褒めてもらうことを楽しみにしている。→



②冊数に応じた賞品

- 50冊：貸出券
- 100冊：しおりくじびき
- 150冊：貸出券入れくじ引き
- 200冊：マグネットしおりガチャガチャ
- 300冊：選べる特別貸出券入れ
- 400冊：選べる付箋ケース
- 500冊：トロフィーと賞状
- 600冊：トロフィー（大）と賞状



【100冊達成くじびき】↑
100冊達成時はしおりとプラス貸し出し券が入っている。大きなくじ引きの箱なので、初めてくじを引く時は、びっくりして喜んでいる。

【200冊達成ガチャガチャ】→
マグネットしおりとプラス貸し出し券が3回～5回分入っている。ガチャガチャを回す時はどの学年の児童も嬉しそうである。



③多読賞の表彰

全校に放送で紹介され、校長室で校長先生より表彰を受けることができ、子どもたちの自信につながっている。自分の目標冊数に向かって読書をする事ができている。→



④必読図書「読書チャレンジ」

必読図書は長く読み継がれている本や、教科書で紹介されている本などを中心に選書している。子どもたちが必読図書にチャレンジすることで、読書の幅を広げたり、質を高めたりする手助けとなっている。→



⑤としかんビンゴ



どくしょビンゴ 4・5・6年

本の中央の数字を見て数字を借りてお楽しみしよう。
スタンプを押します。どの数字でもかまいません。

E 絵本	4類 動物・生き物	7類 芸術・スポーツ
2類 歴史・伝説	ブックチャレンジの本	こわい本 平和の本
933 外国の物語	913 日本の物語	3類 雑学

※数字を借り、お楽しみしよう。お楽しみしよう。
年 組

←としかんビンゴは指定された分類番号の本を借りると、ビンゴカードにスタンプを押してもらえます。全て揃うとくじ引きができる。いろいろな分類の本を借りるきっかけとなった。

令和6年度(2024年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	小城市立晴田小学校	児童数	302人
-----	-----------	-----	------

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	本の楽しさを伝えよう
	取組期間	令和6年(2024年)5月7日～令和6年(2024年)11月30日

※令和6年(2024年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和6年(2024年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

評価	取組人数	302人	実施日数	208日	読書冊数	31474冊	連携した団体数	3団体
	取組内容(概要)	<p>昨年度、学年に応じた読書量を確保することを目標に、貸し出し冊数を100冊と定めて取り組んだが、目標に達しなかった学年があった。そこで今年度は全学年80冊借りることを目標とするとともに、各学年で、図書室から本を借りてきて教室や廊下に置いておき、児童がいつでも本を取れるようにし、読書量を確保するとともに読書の質の向上に努めた。また、いろいろな本に接する機会を増やそうと、図書委員会を中心に様々な活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○読書の木の掲示…貸出冊数が100冊・200冊・300冊に達した児童の名前をみかんを模ったカードに記し、掲示を行うことで読書意欲の向上を図った。〔資料1〕 ○貸出冊数に応じたプラス券の配布…貸出冊数10冊毎に1冊貸出券を配布する。さらに、100冊毎に、プラス券綴りを配布し、読書意欲の向上を図った。 ○学年の本棚にある本を読もう！…教師が読んでほしい本や、学習に使う本を教室や廊下に持ってきておいて、児童がいつでも本を手にとれるようにした。〔資料2〕。 ○図書館まつり(年2回各1週間)…図書委員会主催で、しおりコンクール、読書ビンゴ、図書館くじ、図書委員体験、読み聞かせなどに取り組んだ。〔資料3〕 ○図書委員や6年生のおすすめの本の紹介文を掲示し、いろいろな種類の本に目が向くようにした。〔資料4〕 ○読み聞かせ(年7回朝の時間)を行う…地域ボランティアと育友会、幼稚園園長、職員による読み聞かせを行った。〔資料5〕 ○小城市民図書館による読み聞かせ会の開催や、毎月の移動図書館本丸くんを活用10月4日に小学1年生を対象に、絵本の読み聞かせ会を開催した。〔資料6〕 						
工夫したこと	<ul style="list-style-type: none"> ○図書館まつり 図書館まつりに、たくさんの児童に来館してもらうために、図書委員がいろいろなイベントを企画して運営した。図書委員会による全校児童や1年生を対象としたおすすめの本の読み聞かせをする新企画を立ち上げた。また、図書館祭りの期間中に2回本を借りた児童がひける図書館くじ、給食時間に図書館や本に関するクイズを放送したり、図書委員体験会を開催したり、図書に関するしおりコンクールを行っ 							

	<p>て優秀作品を掲示したりするなどして、来館者数を増やそうと試みた。さらに、全種類の分類番号の本を読むことを目標にした読書ビンゴを企画し、様々なジャンルの図書に興味を持てるようにするなど、多彩な催しを行った。図書委員会の児童や担任の呼び掛けで、多数の児童が参加することができ、より多くの本と接する機会となった。</p> <p>○読み聞かせ 高学年の児童も、集中して聞き、お話の世界に浸っている姿が見られた。読んでいただいた本を図書室で借りて読む児童の姿も見られた。</p> <p>○読書タイムの設定 朝の5分間を読書タイムとして設定している。児童は自分で選んだ本を静かに読んでいる。学力向上の一環として、読書をすることによって文字に慣れ、読む力を向上させるねらいももたせている。</p> <p>○小城市民図書館からの移動図書館本丸くん 移動図書館本丸くんは、月に1度本校に来て児童への本の貸出をしてもらっている。5月には、1年生に向けてオリエンテーションを行い、本の魅力を伝えていただいた。</p> <p>○小城市民図書館による読み聞かせ会の開催 10月4日に小学1年生の児童を対象に、絵本の読み聞かせを行い、本の世界を楽しんだ。大型絵本をくいいるように見つめ、顔を輝かせてお話に聞き入る姿が見られた。本の読み聞かせだけでなく、おすすめの本を紹介していただいたことで、本への関心を高めることにつながった。</p>
<p>取り組んだ感想</p>	<p>1年間で80冊読むことを目標としたため、目標数を明確にとらえることができた。11月末時点で貸出冊数が80冊を超えた児童は、全校児童のうち62%であった。</p> <p>図書館祭りでは、図書館に行きたくなるような多様なイベントを図書委員が企画し、実施することができた。図書館まつりの期間中は、連日多くの児童が来館した。また、教室や廊下に本を置いておくことで、空いた時間に本を手にとって読んでいる姿が見られた。児童の全てが、じっくり本の中身と向き合っているとはいえないが、まずは、手に取ることから初め、図書館を身近に感じ、「図書館に行きたい。」「本を読みたい。」と思えるような図書館にしていけるように、図書委員会の児童とともに活動していきたい。</p>
<p>今後の取組予定 <small>(令和6年(2024年)12月 ~令和7年(2025年)3月)</small></p>	<p>今後も、図書館まつりやおすすめの本コーナーの充実など、児童が図書館に行きたいと思うような工夫をしていきたい。職員のおすすめの本、季節の行事に関する本などを紹介したり、読み聞かせの時間を計画的に行ったりするなど、全校での取り組みを行い、読書に関する関心を高め、本を身近に感じることができるよう、今後も全校で連携して、図書館の活動を充実させていきたい。</p>

〈活動内容〉

〔資料1〕晴田っ子 読書の木

100冊・200冊・300冊の貸出冊数を達成した児童は、みかんを模したカードに名前を書いて、読書の木に掲示した。



読書の木

〔資料2〕学年の本棚

教師が読んでほしい本や、学習に使う本を教室や廊下に持ってきておいて、児童がいつでも本を手にとれるようにした。



〔資料3〕図書館祭り



図書館祭りの期間を6月と11月の各1週間設定した。スポーツの本、学年の本、歴史の本などいろいろな種類の本を読むように仕組んだ図書館ビンゴ、全学年を対象とした読み聞かせなど図書委員会の児童が企画したイベントに楽しみながら参加する姿が見られた。

図書館ビンゴカードに
スタンプをもらう。

図書委員による読み聞かせ

〔資料4〕図書委員や6年生のおすすめの本紹介



六年生から、全校児童への
おすすめの本の紹介

図書館の南入口に掲示した。多くの児童が掲示物の前で立ち止まって読んでいた。

〔資料5〕読み聞かせ



地域のボランティアの方々に来ていただき、今年度は7回読み聞かせ会を行った。毎回、さまざまな分野の本を読んでいただいている。児童は、読み手の方に体を向け、お話に興味を傾けていた。

〔資料6〕小城市民図書館による読み聞かせ



10月に、1年生の児童を対象に小城市民図書館の読み聞かせ会を行った。

大型絵本の読み聞かせでは、近くに座る児童に笑顔で同意を求めながらお話の世界を楽しんだり、身を乗り出して本に見入ったりしている姿が見られた。また、おすすめの本を紹介していただくことにより、本への興味関心を高める機会となった。

貸出総数 5月7日～11月30日まで (169日)

★全校貸出冊数・・・31,474冊

★一人当たりの貸出冊数・・・104冊

低学年・中学年では図書の時間に、図書室でゆっくり本を読む時間を確保することができ、図書室への来館数が増加した。朝読書、読み聞かせ、図書館まつりなど、本に親しむ機会を作ることにより、図書館に行く楽しさ、読書の素晴らしさを感じている。

各学年における目標達成状況

学年	達成目標 (冊)	1人当たりの達成数 (冊)	達成率 (%)
1年	80	158	198
2年	80	105	131
3年	80	90	113
4年	80	120	150
5年	80	87	109
6年	80	52	65

11月30日現在

令和6年度(2024年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	武雄市立御船が丘小学校	児童数609人
-----	-------------	---------

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	学校や家庭での読書活動を通して、自主的に図書室へ足を運び、多様な本に触れる児童の育成
	取組期間	令和6年(2024年)4月15日～令和6年(2024年)11月29日

※令和6年(2024年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和6年(2024年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

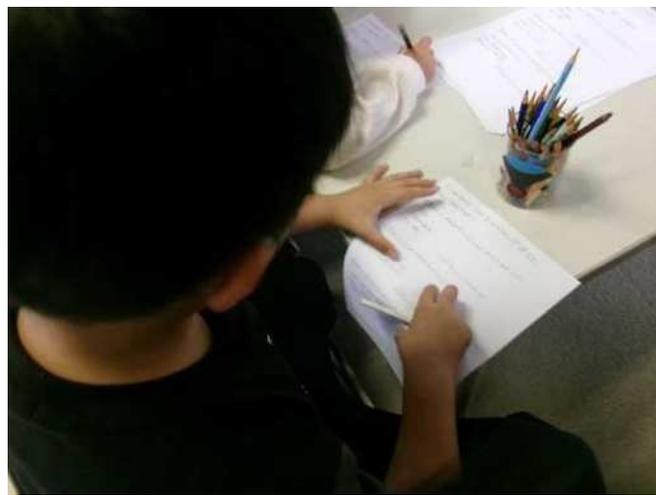
評価	取組人数	609人	実施日数	229	読書冊数	一人平均 106冊	連携した団体数	1団体
	取組内容(概要)	<ul style="list-style-type: none"> ① 図書館まつり(読み聞かせ、クイズ、しおり作り) ② 表紙パズル ③ リレーうち読(家庭で本を読み、次の人に回していく) ④ 育友会および育友会OBによる読み聞かせ(月1回) ⑤ その他の取り組み(呼びかけ・2冊カード・おすすめの本紹介・読書ノート) 						
工夫したこと	<ul style="list-style-type: none"> ① 図書館まつり 学校や家庭での読書活動を通していろいろな本に親しめるように、図書館まつりを2回(6月と11月)行った。一週間前に図書館まつりのチラシをクラスに配布し、イベントを予告した。一週間さまざまなイベントを行うことで図書室に足を運ぶきっかけを作った。また、イベントに参加した児童には、ラミネートしたしおりやプラス1冊券をプレゼントするなどさまざまな工夫をした。 ② 表紙パズル 図書館まつりのある月に低学年10冊、中学年8冊、高学年5冊を借りたら出席番号に応じたパズルのピースがもらえる。20冊、16冊、10冊借りた人は2枚目のピースがもらえる。学年の実態に応じた絵本や物語などの本の表紙を選び、学級のみみんなで協力して完成させられるようにした。 ③ リレーうち読 学年の実態に応じた本を用意し、一人ひとり家で読んで感想を書く。家庭に持ち帰ることで保護者と一緒に本を読むだけでなく、家族の時間を楽しめるようにした。 ④ 読み聞かせ 月に1度、読み聞かせボランティアグループに来ていただき、朝の時間(15分)に読み聞かせをしてもらった。児童の興味を引くような、多様な本を持ってきていただいた。 ⑤ その他(呼びかけ・2冊カード・おすすめの本紹介・読書ノート) ・毎日給食時間に、図書室に来てくれるように呼び掛けた。毎月1日、15日と毎週 							

	<p>金曜日は誰でも2冊借りられる日とし、少しでも図書室に足が向くように工夫した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・50冊借りたらいつでも2冊借りられるカードを発行し、多様な本に触れる機会を増やせるようにした。 ・図書委員が選ぶ「おすすめの本紹介カード」を canva で作成し、図書室前に掲示し、いろいろな本があることを知らせるきっかけを作った。 ・県からの読書ノートを配布し、しっかり読んで感想を書いている児童には、プラス1冊券を一人最大5枚プレゼントした。
<p>取り組んだ感想</p>	<p>本校の児童は活発で、毎日外に出て遊ぶ児童が多い。そのため現状として図書室に足を運ぶ児童は多いとは言えなかった。しかし、さまざまな取り組みを行ったことで変容が見られた。</p> <p>「図書館まつり」は毎年行っているが、児童の興味のあるイベントを取り入れたことで、昼休みになると進んで図書室に足を運ぶ児童が増えた。特に、図書館まつり開催の月に行った「表紙パズル」は、どの学年の児童も生き生きと取り組み、「あと何冊でもらえるかな。」「これ何の表紙かな?」と表紙パズルの完成を楽しみながら、図書室に足を運んでいた。表紙が完成すると、「表紙と同じ本借りたよ!」と嬉しそうに教えてくれる児童もいた。なかなか本を読まない児童も学級全体で取り組むイベントを仕組んだことで、自然と本を借りに来るが増えた。</p> <p>「リレーうち読」は、家庭に本を持ち帰ったり、担任がチェックをしたりなど大変な面がありはしたが、普段読まないような本を読む機会となった。また、家庭で読む取り組みなので、自分で読んでも、保護者に読み聞かせしてもらってもいいことにしている。家庭に合った方法で取り組むことができた。</p> <p>読み聞かせでは、月に1度、朝の時間(15分)を活用して2冊程度読んでいただいた。児童は読み聞かせが好きで、読んでもらった後に図書室へ行き、「あの本あるかな?」と探し、友達と集まって楽しく読んでいる姿が見られた。短い時間でも読んでもらうという時間があることで、児童が本に興味をもつきっかけになった。また、なかなか読まないジャンルの本を読み聞かせしてもらうことで、「読んでみようかな。」と多様な本に触れる機会になり、児童にとってよい影響を与えた。</p> <p>図書館まつりなどのイベントのほかに、普段から図書室へ行って、本を読みたいと思える取り組みを行ったが、少しずつ図書室へ足を運ぶ児童が増えてきている。また、掲示物を豊かにすることで図書室前で足を止める児童も増え、様々な本に興味をもってくれていることが分かった。まだまだ、人によって貸出冊数に差はあるが、さまざまな取り組みにより、多様な本に触れる機会は増えてきている。</p>
<p>今後の取組予定 (令和6年(2024年)12月 ～令和7年(2025年)3月)</p>	<p>表紙パズルが好評であったため、2月に第3回表紙パズルを計画している。そして、今後も読書奨励の継続を行っていく。</p>

① 図書館まつり



しおりづくり



クイズ



図書委員による読み聞かせ

②表紙パズル



③リレーうち読

リレーうち読記録表(1-2年)

日付	読み手	読んだこと・感じたこと	感想
前	みふね たろう	140きのねずみたちの えがき がわいかった。ぼくも、ピクニックに いきたいな。	動物
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			



④育友会および育友会 OB による読み聞かせ



⑤その他の取り組み



おすすめの本紹介



プラス1冊券



いつでも2冊カード

⑥貸出数の変化



令和6年度(2024年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	唐津市立第五中学校	生徒数	331人
-----	-----------	-----	------

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	多くの人に図書室を利用してもらい、たくさんの本を読んでもらう
	取組期間	令和6年(2024年) 5月20日 ~ 令和6年(2024年) 10月22日

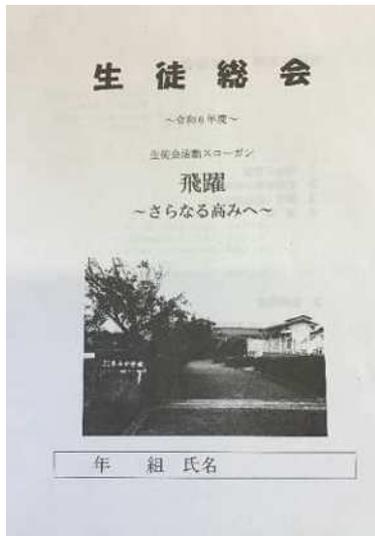
II.取組後の評価

	取組人数	331人	実施日数	156日	読書冊数	1,512冊	連携した団体数	1団体
評価	取組内容(概要)	<ul style="list-style-type: none"> ①年間活動目標に基づき委員会活動を盛り上げ、活動の幅を広げる。 ②図書館利用増進のため、委員会活動と全校生徒で制作物を作成する。 ③依頼を受けたおすすめの本の紹介書きに取り組む。 ④利用者と読書数増加のため、図書館アンケート調査を行う。 ⑤季節の飾りや本の展示を工夫し、館内の利用促進を図る。 						
	工夫したこと	<ul style="list-style-type: none"> ①唐津市近代図書館との連携強化を図り、委員会活動の幅を広げることができた。 <ul style="list-style-type: none"> ①唐津市近代図書館とは日頃より書籍の貸借で連携をしている。その図書館に、毎年本校で取り組んでいる全校生徒で作上げた制作物を贈呈することで、校外へ向けた取り組みができ、委員会活動の幅が予想以上に広がった。 ②制作物と依頼を受けた本の紹介文書きを完成させるまでの工夫点 <ul style="list-style-type: none"> ①制作物はSDGsに配慮し、材料が無駄にならないようにできた。 ②公共図書館向けに本の紹介をするので、学校にない本でも良いこととして、生徒の選択肢を広げた。 ③幼児や小学生など、年齢の低い人にも読んでもらえるように、ルビを付けて分かりやすく書き、やさしい色使いをして見やすく仕上げた。 ④台紙(180cm×180cm)に紹介文の貼り付け作業をする時には、唐津市近代図書館に運搬する時のことを考え、折りたためるように作業を進めていった。 ⑤制作物と本の紹介文が別々に展示されることが予想されたため、台紙にブックルくん等のイラストも描き、仕上げていった。 ③多くの人に図書館を利用してもらう工夫点 <ul style="list-style-type: none"> ①季節の飾り作りに際して、昼休みに作業ブースを設定し、図書委員だけでなく図書館を利用する生徒も参加できるようにした。このことによりたくさんの生徒が作業に参加し、図書館来館者が増加した。 ②季節の飾りの展示における工夫点は、館内のホワイトボードを活用し手書きでメッセージやイラストを描き、制作した飾りをマグネットで固定した。ホワイトボードを活用したことで、来館した生徒も描き足すことができ、予想以上に来館者の増加につながった。 ③各学年の教科書に掲載されている本を、手に取りやすく表紙が見えるように展示 						

	<p>し紹介をした。興味関心も高く、想像以上に本を閲覧に来る生徒と職員も多く、貸し出し冊数が増加した。</p> <p>④毎月図書館だよりを発行し、委員会の取り組み内容の紹介と図書館の積極的な利用と活用を呼びかけた。さらに校内放送も活用して呼びかけた。</p> <p>④読書数を増加させるための工夫点</p> <p>①アンケート調査を行い購入希望図書や、貸し出しの希望利用冊数を調査した。生徒総会を通して検討し、来年度改善を行っていく。</p> <p>②返却期限を守って本の利用をすることを定期的に呼びかけた。学期末に取り組んでいる本の完全返却週間は定着し、本の紛失防止にもとても有効である。</p> <p>③本を借りたままにならないように、再度延長の手続きを周知した。</p>
<p>取り組んだ感想</p>	<p>取り組み宣言目標である本校図書委員会の年間活動目標に基づき、たくさんのアイデアを出し合い、みんなが楽しめるような活動を計画し実践できている。季節ごとに制作した飾りで館内を彩ってきたが、ホワイトボードを使い、飾りを磁石で固定する方法をとることで、今までにない演出ができ目をひく仕上がりとなった。また、SDGsへの関心が非常に高く、材料が無駄にならない作業をしている。</p> <p>1学期は、まず新入生への歓迎メッセージを展示した。桜型の色画用紙に書かれたあたたかいメッセージで館内が桜で満開になった。また7月には七夕飾りも行った。昼休みに図書館を利用した多くの生徒が、楽しそうに飾り作りをしてくれた。短冊も色画用紙の切れ端を使い、ひとりひとり自分らしく願いを書き仕上げていた。1学期末まで読書チャレンジ運動にエントリーする予定ではなく、十分な写真が撮れていないことが残念であり反省すべき点だ。写真を撮り記録をしておくことは、年間を通して生徒会、委員会活動をしていくうえで必要なことだと改めて思った。</p> <p>委員会活動の幅を広げて取り組んだ、唐津市近代図書館へ贈呈した制作物については、生徒主体のアイデアが満載で、工夫を凝らした作業工程と内容だった。作業工程では、漢字にルビを付けたり、色使いをやさしいものにするなど、年齢の低い人への優しい思いやりや、配慮があちこちに見られ、とても感心した。また唐津市近代図書館のイメージキャラクター「ブックルくん」制作には、生徒だけではなく、会議で図書館を利用した先生方も貼り付け作業を行った。贈呈前に行われた本校の文化発表会で、展示(掲示)をした。その後、10月22日の放課後に代表として図書委員長と図書副委員長、本校職員で贈呈に行った。贈呈を行った二人からは「とても楽しくいい経験になりました。図書委員会でも学校内だけでなく幅広く活動ができるのですね。」と校外活動への嬉しさと達成感があふれる感想を聞くことができた。</p> <p>これらの取り組みの成果ともいえるが、1学期の本の貸し出し冊数が1000冊を越え、ここ数年での最高記録となった。また工夫を重ねて様々な作業を取り入れたことで、図書館活動への協力の輪が広がり、館内の利用者数も増加した。</p>
<p>今後の取組予定</p>	<p>12月9日から4回にわたって、本校ALTのジェニール先生に協力をしていただき、今年度2度目のお話会とクリスマス会を計画している。</p> <p>また、来年1月の3学期からは新生徒会役員体制となり、委員会活動が継続される。3学期は、来年度の新入生を迎えるための取り組みができればと考えている。</p>

【資料1】

6月7日の生徒総会で、提案と発表をしました。



月	月別活動	具体的な活動内容
4・5月	入学の確証 新入生へのメッセージ書き(完成)	カラー写真の撮影・加工 印刷・取り組む内容の確認
6月	図書室の呼びかけ 近代図書館の準備	7月の図書室の呼びかけの作成(カラー) 近代図書館の読み手紙の品・制作
7月	図書室の呼びかけ 図書室の本紹介、安全通知	カラー写真の撮影・加工 安全通知の呼びかけ
9・10月	近代図書館の作品展示 図書室の呼びかけ	図書室の呼びかけ 安全通知の呼びかけ
11月	図書室 近郊パズル大会	パズル大会の呼びかけ、進捗連絡 しるし
12月	安全通知の呼びかけ	安全通知の呼びかけ
1月	入学内容の確証	カラー写真の撮影・加工 印刷・取り組む内容の確認
2・3月	安全通知 新入生、卒業生に向けてのメッセージ書き	安全通知の呼びかけ 新入生へのメッセージ書き
これまでの取り組み		
カラー写真・当番		
これからの取り組み(常時活動)		
カラー写真・当番		

【資料2】

【左図】唐津市近代図書館イメージキャラクターのブックルくん(手描き)

【右図】専門委員会の時に、図書委員で作業ができるように委員長と副委員長がクラス数に切り分けて準備をしました。



【資料3】

クラスごとに準備された用紙に、図書委員が美術室から借用したクレパスで丁寧に色を塗りました。久しぶりにクレパスを使った生徒も多く、とても楽しそうに作業ができました。



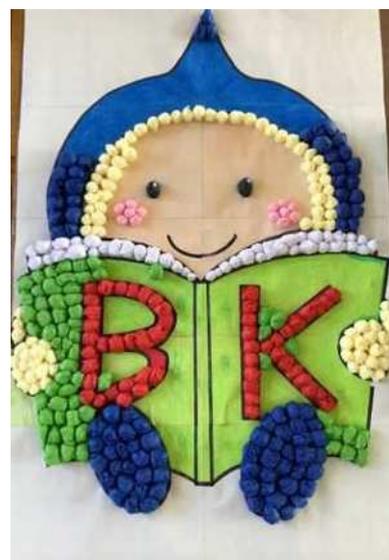
【資料4】

【上図】昼休みの制作風景

【右図】

材料は、お花紙を丸めた玉。

図書館を利用した生徒が1日1個、クレパスで塗られた色の玉を、木工用ボンドで台紙に貼り付けていきました。会議で図書館を利用した先生方も貼り付け作業をしました。第五中学校の全員が協力をしてくれました。





【資料5】

【上図】 おすすめの本の紹介完成

【右図】 ブックくん完成

【下図】 贈呈時の写真

文化発表会で、図書館前に掲示、展示をして
10月22日に贈呈をしました。

唐津市近代図書館のホームページでも紹介
をしていただきました。



令和6年度(2024年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	朝日小学校	児童数 440人
-----	-------	----------

I.取組前の宣言内容

宣 言	目 標	本を読んで 世界を広げよう
	取組期間	令和6年(2024年) 4月22日 ~ 令和6年(2024年)年11月30日

※令和6年(2024年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和6年(2024年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

評 価	取組人数	440 人	実施日数	223 日	読書冊数	48652 冊	連携した団体数	2 団体
	取組内容(概要)	<ul style="list-style-type: none"> ① 図書室環境整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ 書架を分類番号順に並べる。 ・ 別置資料はシール等で案内。 ・ 季節の本や新刊の紹介。 ・ 貸出カードを個人管理に。 ② 図書委員会の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書委員会主導のとしょかんまつり。 ・ 図書委員の読み聞かせ。 ・ ポイントカードの導入。 ・ クラス別貸出冊数の掲示。 ・ 図書委員おすすめの本棚設置。 ③ 読み聞かせボランティアとの連携(全学年) <ul style="list-style-type: none"> ・ 朝の時間に月1回、読み聞かせを行う。 ④ 図書だよりの発行(毎月1回・イベント時には臨時発行あり) ⑤ 図書の授業の取り組み(分類指導、自学学習での図鑑活用) <ul style="list-style-type: none"> ・ 国語の教科書に掲載された本や関連本をクラスへ貸出。 ・ 図書の授業での読み聞かせ。 ⑥ 夏休みの図書室の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 夏休み用のポイントカード導入 ⑦ 市立図書館との連携(団体貸し出しの利用) 						
工夫したこと	<ul style="list-style-type: none"> ① 図書室環境整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が本を探す時に、わかりやすいように分類番号やシールを使って配架。 ・ 別置資料は、ラックを用意し配架。 ・ 目標冊数を達成した児童には、「いつでも3冊貸し出し券」を進呈し、達成する喜びを得られるようにした。 ・ 毎月、学年全体・学級全体・個人の貸し出し冊数一覧を学級担任に渡した。 ② 図書委員会の活動 							

	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員で、意見を出し合い、みんなが楽しめるようなイベントを考え、6月と11月の2回としょかんまつりを開催。 ・目標貸出冊数を目指してみんなが図書室に来たくなるように、夏休み前に各クラスごとの図書室の本の貸出冊数を棒グラフにして掲示した。 ・11月の児童集会では、図書委員が各クラスで読み聞かせを行った。 ・イベントを行う6月と11月に、ポイントカードを発行して図書室に来る楽しみを増やした。1冊の貸出につき1ポイントを押印し、10ポイントごとにくじを引けるお楽しみ付きにした。30ポイントでは、貸出冊数が1冊増える「3冊貸出カードをプレゼントした。 <p>③ 読み聞かせボランティアとの連携（全学年）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回の水曜日の朝の時間、地域ボランティアや保護者によるお話会。 <p>④ 図書だよりの発行（毎月1回・イベント時には臨時発行あり）</p> <p>⑤ 図書の授業の取り組み（分類指導、自学学習での図鑑活用）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語の教科書に掲載された関連の本を各学年に貸出を行ったり、図書室にコーナーを作ったりして学習の幅を広げた。 ・分類番号について、図書開きの時に説明をした。分かりやすいように書架を分類番号順に並べ、本を返却するときにラベルを見て戻しやすいようにシールを張るなどの工夫をした。 <p>⑥ 夏休みの図書室の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休み用のポイントカードを作成し配布した。来室したらスタンプを押印し、「3冊貸し出し券」を渡すことで、夏休みも図書室に来る楽しみを作った。 <p>⑦ 市立図書館との連携（団体貸し出しの利用）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市立図書館の団体貸出を利用して、調べ学習の授業に必要な資料の提供、国語や理科・社会等の教科書で勉強する单元などの幅広い資料提供により、児童の興味・関心を広げることができた。
<p>取り組んだ感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員が主体となり、図書室の開閉や日々の返却・貸出、図書館祭りの準備などができた。特に図書館祭りでは、昨年の取り組みを参考に、今年度新しいイベントを考えることができた。当日までの準備、必要な道具、場の作り方なども委員会の児童が中心となり、遊びに来た児童が楽しんで活動できていた。 ・ポイントカードの期間には昨年度よりも多くの児童が図書室に足を運んでくれた。スタンプをもらいたいことをきっかけに、多くの本に親しむ機会ができたことをうれしく思った。 ・多くの児童が図書室に来室してくれるが、休み時間では時間が足りずに借りられない児童もまだいる様子だが、貸出カードを個人で持っておくようにしたことで、スムーズに返却・貸出ができるようになった。
<p>今後の取組予定 (令和6年(2024年)12月 ～令和7年(2025年)3月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・冬ならではの本を集めて、特設コーナーを図書室入口に設置する。 ・来年度の委員会活動をよりよくするために、図書館祭りの振り返りを行い、児童と一緒に検討をする。

図書室環境の整備

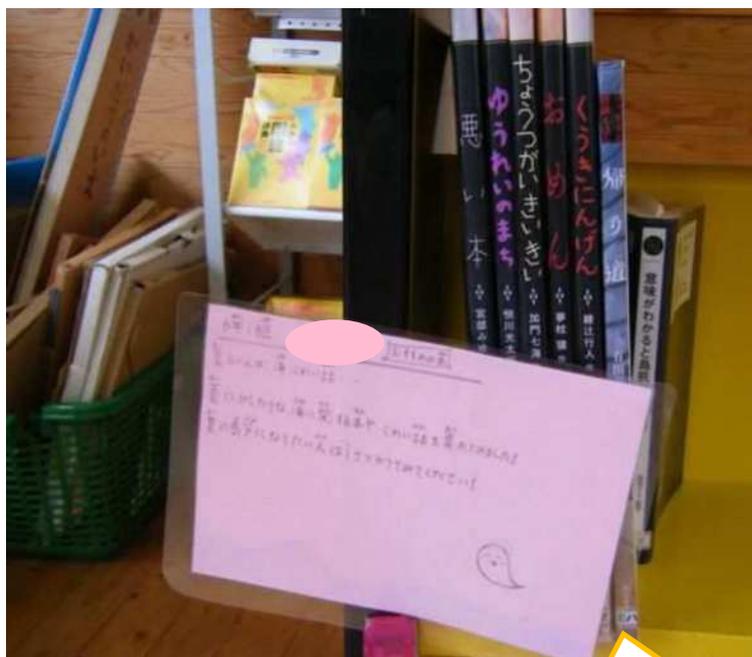
季節の本の展示

季節ごとに、本を展示しています。ここに展示し紹介することで貸出につながり、読書の幅も広がっています。委員会の児童がレイアウトを考えることもあります。



読書感想文のおすすめの本棚

課題図書・推薦図書のコーナーの本棚を作っておくと、読書感想文の本が選びやすくなっています。



シリーズ本の本棚

〇〇シリーズなどの本をまとめて配置しています。特に、ひみつ文庫シリーズは人気もあるので、自分の好きな本をまとめてあることで、選びやすくなっているようです。

図書委員おすすめの書棚

図書委員の児童が自分が好きな本を集めた本棚を配置しました。怖い本、生き物が出てくる本など、個性的な本棚が出来上がり、ほかの児童の本を選ぶ参考になりました。

別置資料シール

絵本や各学年教科書掲載の本などには、シールを貼っています。図書室の配置図や本棚にも案内を掲示することで、子どもたちには、わかりやすくなり自分たちで間違えずに返却することができます。



図書委員の活動

図書館祭り(6月、11月)

今年も2回開催しました。特に、6月は梅雨で外で遊べないこともあり大盛況でした。本の題名を使ったビンゴゲームや、表紙の絵を使った間違い探し、題名当てゲーム、しおりづくりなどを行いました。毎日始まる前から教室の前に列ができ、楽しみにしていることが伝わってきました。



スライドを使っ
てのクイズづく
りも、委員会の児
童が時間を見
つけて作りまし
た。



間違い探し
をきっかけ
に、この表
紙の本を読
もうかな、と
思ったりし
てくれたらと
思います。



全校への読み聞かせ

11月朝の時間に、児童集会の一環で、図書委員による読み聞かせを行いました。図書委員が自分で担当したい学年を決め、各学年に応じた絵本を選びました。休み時間や委員会活動の時間を利用して練習して、緊張しながら本番に臨みました。



お話会

地域ボランティアや保護者の方の読み聞かせを月に1回水曜日の朝の時間に開催しました。毎月季節にあった絵本を読んでいただいています。初めて出会うお話や外国の絵本などに子どもたちはくぎづけでした。ありがとうございます。



夏休みの図書室

夏休み読書チャレンジとして、ポイントカードを配布し来室を促しました。今年はお盆前の1週間の開放日を設け、午前中2時間の開放で、1日平均45人の子どもたちが来室しました。多い日には50人を超える利用者数でした。送迎で来られた保護者の方も、子どもと一緒に読書を楽しんでおられました。



各教科との連携

国語の教科書に載っている本をまとめて展開しています。

令和6年度(2024年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	唐津市立西唐津中学校	生徒数	147人
-----	------------	-----	------

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	図書室に来室し たくさん本を借りよう
	取組期間	令和6年(2024年) 4月 1日 ~ 令和6年(2024年) 11月30日

※令和6年(2024年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和6年(2024年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

評価	取組人数	187人	実施日数	244日	読書冊数	2410冊	連携した団体数	2団体
	取組内容(概要)	<ul style="list-style-type: none"> ・図書部の活動を中心とし、イベント等を通して図書室への来室者を増やすことで、貸し出し冊数を増やし、読書を身近に感じる生徒を増やす取組に力を入れる。 ・毎月、図書部員が図書だよりを発行して、情報を発信する。 ・10冊借りるごとに、2冊券をプレゼントして、読書意欲を高める。 ・毎年4月に絵を貼り出し、本を1冊借りるごとにシールを貼り、3月までに絵を完成させる。 ・月に1回保護者や地域の方々に朝の読書の時間に来てもらい、各クラスで読み語りを実施する。 ・唐津市近代図書館と連携して、年に3回、200冊の本の貸し出しや授業や調べ学習で使う資料の貸し出しをしてもらう。 <p>4月 1年生にオリエンテーションを行い、利用の仕方を教える。 2, 3年生は、図書だより等を通して、正しい使い方を確認する。</p> <p>5月 1年生の部活動入部のための意識を高めること、また中体連が近いことから、部活動に関する本を生徒玄関に展示する。さらに、給食の時間に日替わりで展示した本の紹介を放送で行い、部活動に対する意識を高める。</p> <p>6月 新刊本が配架された時は、図書だよりでお知らせし、生徒が手に取りやすいように図書部員がPOPを制作して、図書室に新刊のコーナーを作り展示する。</p> <p>7月 平和学習の関係で、生徒玄関に図書部員が選書した「戦争と平和」の本を展示し、展示している本について、給食の時間に日替わりで放送する。</p> <p>9月 全校生徒に図書室の本からお気に入りの1冊を選んでもらい、本の内容にあったイラスト部門か、川柳部門のどちらかのしおりを書いてもらう。図書部員がその立案・説明・しおりの回収をする。</p> <p>10月 集まったしおりをイラスト部門・川柳部門に分けて掲示し、全校生徒と先生方に投票してもらう。10月末の文化発表会でイラスト部門3位までと、川柳部門</p>						

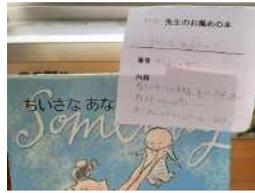
	<p>1位の表彰を行う。</p> <p>「お薦めの本をたくさん読もう」の月目標実践のため、先生方のお薦めの本を聞き、POPを図書部員が書いて、本に付けて生徒玄関に展示する。</p> <p>昼休みに図書部員による大型絵本の読み語りや紙芝居を行い、昼休みの入室者を増やす取組をする。</p> <p>11月 各学年の廊下と特別教室の音楽室・美術室・技術室・家庭科室等の入口前廊下に、4冊ずつ本を展示して、色々なジャンルの本を手にとって読んでもらう「バッタリ図書館」の取組を行う。</p> <p>中旬から月末まで、分類別ビンゴを行う。本の分類を覚えて、いつもはあまり手にしないジャンルの本を読むことを目的とする。1学期より昼休みを使って図書部員が制作したしおりと3冊券を賞品とする。</p> <p>11月25日～12月20日まで、本を1冊借りるごとに図書室前に掲示している各クラスのクリスマスツリーにシールを貼る。クラス対抗とし、60枚貼れた上位2クラスを発表し、1位のクラスには全員に2冊券をプレゼントする。</p>
工夫したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナにより減っていたイベントを、少しずつ工夫をして復活させた。 ・校舎のあらゆる所に本を置くことで、手に取りやすく、本に興味を持ちやすくなる工夫をした。 ・毎月図書部員による図書だよりを発行して、色々な本の紹介をしたり、簡単なクイズを載せて、正解者には2冊券をプレゼントしている。
取組んだ感想	<p>毎月図書部の取組が有り、常時活動のカウンター当番や図書だよりの発行に加え、POPを書いたり選書したり、読み語りの練習をしたり等、少ない部員で日々頑張っている。また、図書室に来て本を読んでもらえるように、毎月の委員会の話し合いの中で、意見を出し合った結果、現時点で昨年より少し貸し出し冊数が増えている状況にあり、良かったと思います。</p>
今後の取組予定 (令和6年(2024年)12月 ～令和7年(2025年)3月)	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きクリスマスツリーにシールを貼り、完成させる取組を行う。 ・2学期に好評だった分類別ビンゴを1月にもう一度行う。 ・図書室の本から言葉を選び 3年生に向けてエールを送る。 ・来年度に向けて図書室の環境を整える。(本棚の整理・掃除)

※本報告書は簡潔に記述し、**A4サイズ2頁以内**とし、**取組内容が分かる資料**(写真、イラスト、取組前後の比較データ等)を**A4サイズ3頁以内**にまとめて、添付してください。
報告書・資料の様式はWordを基本とし、他形式も可としますが、一度にメール添付できる容量は**5MB**までですので、これを超える場合は、佐賀県まなび課までご連絡ください。
 ※県のホームページに掲載しますので、**写真等は、「個人が特定できないもの」または「本人の了承を得ているもの」**をお願いします。

Ⅲ.応募する【提出期限：令和6年(2024年)12月13日(金)】

実践報告書は、データ(Word版)で佐賀県まなび課まで電子メールにより送信してください。

生徒玄関の本の展示のようす



5月 部活動に関する本
7月 戦争と平和の本
10月 先生方のお薦めの本
生徒玄関に展示しました。

図書部員による大型絵本の読み語り・紙芝居

図書室の来室者を少しでも増やすために、図書部員による大型絵本の読み語りや紙芝居の読み語りを昼休みの時間を使って開催しました。3年生がたくさん聞きに来てくれました。

月に1回、保護者さんや地域の方に読み語りに来ていただいています。読み手になる大変さを実感しているようでした。



しおりコンクール



9月、国語の時間に「図書室の本の中から、お気に入りの本を見つけてしおりを作ろう」の取組をしました。提案としおりの回収は図書部員が行いました。

イラスト部門と川柳部門に分かれ、10月に生徒玄関に貼り出し、全校生徒と先生方による投票を行いました。イラスト部門は3位まで、川柳部門は1位を10月末の文化発表会で表彰しました。



投票のようす

11月の分類別ビンゴ大会のようす。図書部員が1学期より制作したプレゼントのしおりと3冊券、たくさんの生徒が参加してくれました。

分類別ビンゴ大会



各クラスのクリスマスツリー



3年2組 60冊達成1位

谷川俊太郎さんの本コーナー



図書室にある谷川俊太郎さんの本を集めて、追悼のコーナーを作りました。

季節の本のコーナー



季節感を出すレイアウトを考えて、本を展示しています。



令和6年度(2024年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	鹿島市立 北鹿島小学校	児童数	176人
-----	-------------	-----	------

I.取組前の宣言内容

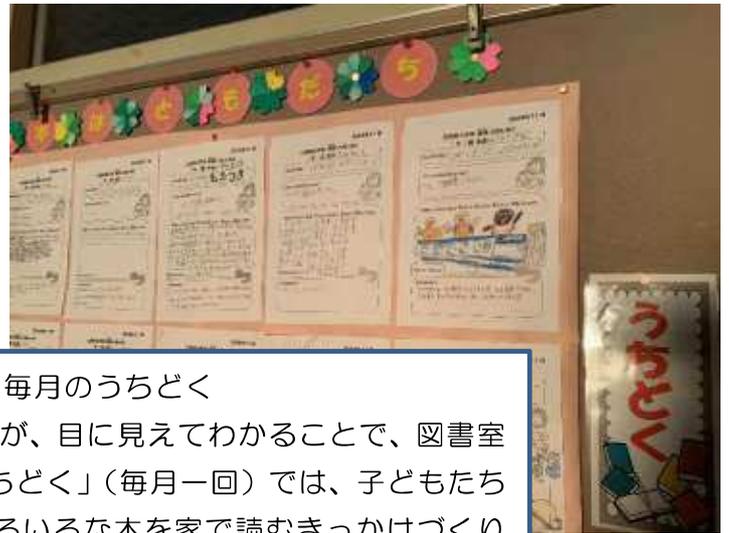
宣言	目標	読書に親しむ児童を増やす
	取組期間	令和6年(2024年)4月22日～令和6年(2024年)11月30日

※令和6年(2024年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和6年(2024年)11月30日までの取組みとする。

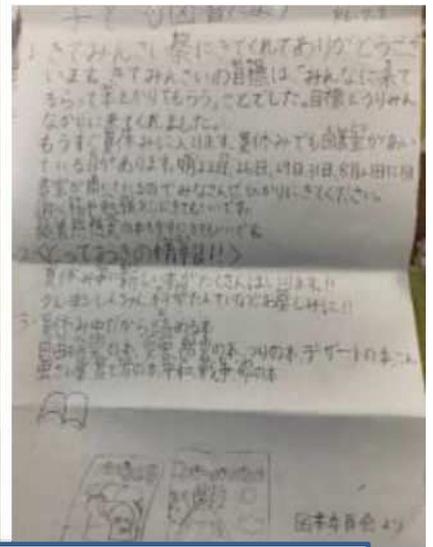
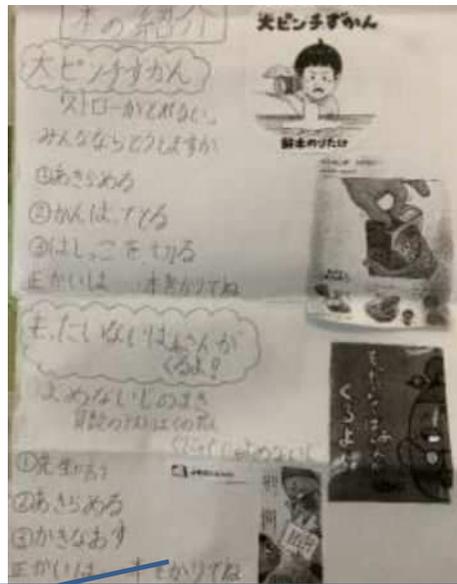
II.取組後の評価

	取組人数	176人	実施日数	150日	読書冊数	20455冊	連携した団体数	3団体
評価	取組内容(概要)	図書委員、司書を中心とした取り組み 1 楽しんで読書ができるような取組(常時) 2 図書委員会主催のイベント実施(6月 きてみんさい・11月 図書館まつり) 3 読み聞かせ交流(たてわり活動・教職員・図書委員) 4 教職員によるおすすめの本の紹介 5 新しい本(北小がばいよか文庫・児童が選んだ本) 6 ボランティアによる読み語り(えくぼの会)						
	工夫したこと	1 楽しんで読書ができるような取組(常時) ① 30冊貸出で1冊多く借りられる「サービス券」を配布する。 ② 100冊達成者の読書の木。100冊読んだら葉が、図書委員会目標の180冊読んだら果物や昆虫が読書の木につく。 ③ 「読んでおきたい本34冊」を完読すると、表彰と賞状、サービス券を渡す。 ④ 図書委員が図書だよりやポスターを発行する。 ⑤ 読書で家族のコミュニケーションを図り家族の絆を深める「うちどく(家庭読書)」をノーテレビ・ノーゲームデーと合わせて月に一回行う。 ⑥ みにみに図書館(エイブルから2ヶ月に1回200冊借りている)を各学年に50冊ずつ置く。 2 図書委員会主催のイベント実施 ① 6月の「きてみんさい」では「スタンプカード」「しおり作り」「パズル」を行った。「スタンプカード」は、本を借りたらスタンプを打ってもらい全部たまるとサービス券がもらえる。「しおり作り」は、図書委員の子が書いたしおりに色をぬり、オリジナルのしおりを作る。「パズル」は、期間中に本を借りると一枚ピースがもらえ、クラスでパズルを完成するという企画である。 ② 9月運動会の練習期間は「読書運動会」を実施。本を借りたら、運動会の自分のチームのところにチームの色のシールを貼っていく。 ③ 11月図書館まつりでは、「読書すごろく」と「先生の似顔絵パズル」を行った。						

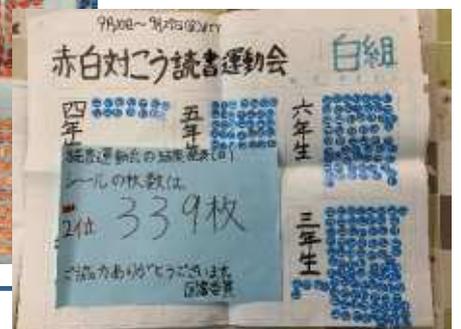
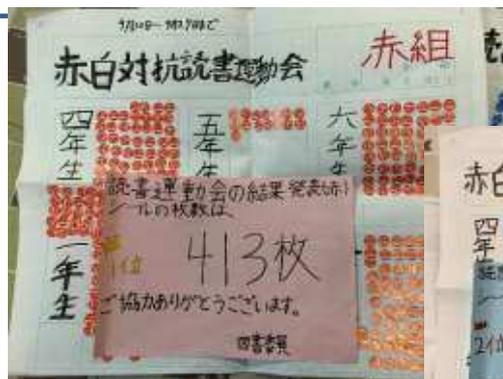
	<p>「読書すごろく」は、すごろくの内容（好きな本を借りたら2つ進むなど）にそって、ゴールを目指す。クラスごとに、ゴールに到着した人数分のシールを貼って掲示する。「先生の似顔絵パズル」は、期間中に本を借りると、パズルのピースを1枚配布する。ピースは、一人につき1枚。教室掲示用のパズルの台紙に、自分の番号箇所にのりで貼る。完成したら、担任の先生に『くじ』を引いてもらう。</p> <p>④ 図書委員が大型絵本による紙芝居や読み聞かせを行う。</p> <p>⑤ 図書委員のおすすめの本を図書室前に掲示する。</p> <p>3 読み聞かせ交流（たてわり活動・教職員）</p> <p>① 図書委員会や給食委員会のおすすめの本やお気に入りの本を放送による読み聞かせを行う。（週1～2回）</p> <p>② たてわり活動のペアやグループで、上学年が下学年に読み聞かせを行う。上学年は、相手に合わせた本や自分のお気に入りの本を選び、読み聞かせの練習を行う。読み聞かせ後は、感想交流を行い、活動後は下級生が上級生にメッセージカードを書き、図書室に掲示したり図書便りに掲載したりする。</p> <p>③ 教師は自分が読み聞かせる本を選ぶ。本の題名とあらすじをカードに記入する。本の題名とあらすじ、表紙と読み聞かせを行う教室の場所を児童に知らせる。読み聞かせを担当する教師の名前は、当日まで児童には秘密にする。当日、本の題名やあらすじを見て児童が教室に移動し、読み聞かせを行う。</p> <p>④ 人権週間に教師が読み聞かせをする。エイブルから本を借りる。（30冊）その中から教師が各クラスの児童に読み聞かせを行う。（くじでクラスを選ぶ）</p> <p>4 先生方によるおすすめの本紹介</p> <p>○ 本のあらすじ、おすすめする理由とおすすめする対象を書いたカードと表紙を掲示する。児童が希望する本を貸し出し、読んだら先生に手紙を書く。</p> <p>5 新しい本（北小がばいよか文庫）</p> <p>① 北鹿島小学校に昭和30年に入学された先輩方が、令和5年度に「北小がばいよか文庫」を設立。本を読んだ児童が感想を書いて、訪問時に読んでもらう。</p> <p>② 全児童に「読みたい本」「図書室においてほしい本」のリクエストをとり、学校で購入する本を図書委員が選んだ。本が届くと、放送で読み聞かせやクイズを出すなどして、新しく入った本についての呼びかけを行うことで、本の予約が殺到した。</p> <p>6 ボランティアによる読み語り（えくぼの会）</p> <p>月に一回、火曜日の朝の時間に各教室にボランティアの方が読み語りを実施。学校行事や季節の催し、年齢にあった内容をしてもらった。</p>
<p>取り組んだ感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝読書だけでなく昼休みも読書をする子が増えた。 ・ いろいろな本に出会うことで、本のおもしろさに気づく子が増えた。 ・ 前年度より、貸出冊数が増えた。
<p>今後の取組予定 (令和6年(2024年)12月 ～令和7年(2025年)3月)</p>	<p>1月：福袋（くじを引いてもらい、あたりには読んで欲しい本を入れておく）</p> <p>1月：教師による読み聞かせ（本の題名とあらすじのみ紹介し、児童は自分が聞きたいと選んだ本の教室に移動する。当日までどの教師がどの本を読むかわからない。）</p> <p>2月：たてわり読み聞かせ（たてわり班で上級生が下級生に本を読む）</p> <p>3月：6年間で一番心に残った本紹介（卒業生が全校に向けて）</p>



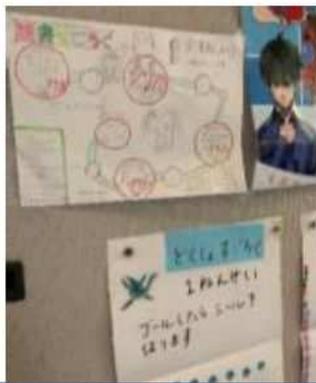
②③「どくしょの木」おすすめの本 ⑤ 毎月のうちどく
 図書室の廊下に掲示しています。本を借りたことが、目に見えてわかることで、図書室に足を運ぶきっかけにもつながっています。「うちどく」(毎月一回)では、子どもたちの感想だけでなく、保護者の方の感想もあり、いろいろな本を家で読むきっかけづくりになっています。



④ 図書委員が発行している「図書だより」おすすめの本紹介やイベントのお知らせや感想を載せています。



① きてみんさいのイベント(6月) ② 読書運動会
 スタンプやパズルのピースを集めようと、図書室に行くきっかけになりました。スタンプがたまると、サービス券がもらえます。図書委員が描いた絵に塗り絵をして、しおりを作成し、本には喜んで楽しそうに読んでいる子が増えました。運動会や学習発表会などの行事があると、準備が忙しくなり、図書室に足を運ばない子がいるので「赤白対抗読書運動会」など企画をして、図書室に行くきっかけを作っていました。



2 ③ 図書館まつり（11月）

図書委員がつくった読書すごろくや先生の似顔絵パズルを完成させようと、図書室がにぎわってました。すごろくのマスには、分類のことや学習の本についても書かれ、借りたことのない本を手取る工夫をしていました。パズルがだんだん完成していくと、担任の先生の似顔絵になることが「本を借りに行こう」と図書室に誘う姿を多く見かけました。



3 ① 給食時間の放送

図書委員だけでなく、給食委員もお昼の番組の一つとして、本の読み聞かせを行っています。季節や行事にあったもの、自分が読んだおすすめの本、先生方のおすすめの本などの読み語りをしています。新しい本の紹介や本のクイズなども取り入れて、呼びかけています。



3 ② たてわり読書 ③ 先生方による読み聞かせ 2 ①③図書委員による読み聞かせ

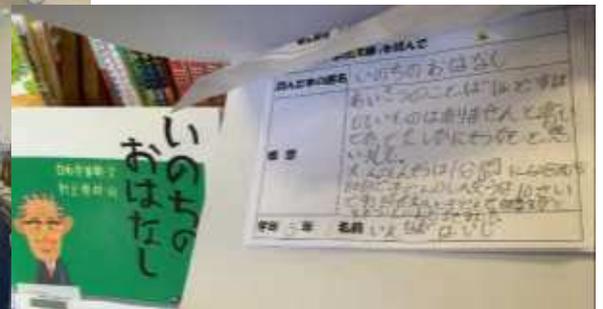
上級生が下級生に読むときには、相手のことを考えて本を選定し、練習に取り組みます。読んでもらった下級生は、読んでもらった上級生に、本の内容や感想についてのお手紙を書いて交流します。先生方の読み聞かせでは、本の題名とあらすじだけを見て、教室に移動します。どの先生が読むかわからないので、先生方が本をもって教室に入ると歓声があき起こります。担任の先生ではない先生に読んでもらい、喜んでいました。図書委員さんの読む読み語りも大好評で、いつも満員です。





4 先生方によるおすすめの本紹介

先生方のおすすめの本を紹介しています。掲示だけでなく、給食の時間の放送で呼びかけたり、読み聞かせをしたりしています。本を貸し出せるよう「おすすめの本コーナー」を設置しています。ポスト置いて、本を読んだ感想を先生宛にお手紙を出す（読書郵便）を行いました。



5 ① 「北小がばいよか文庫」には、SDGs に関する本や世界と日本の偉人伝など新しい図鑑、戦争に関する絵本から、「もったいないばあさん」シリーズの本など、調べ学習にも使え、子どもたちに人気の本がずらりと並べてあります。

読んだ本の感想を書いて、ファイルにとじています。



5 ② 「こんな本があったら」と全校児童に図書委員がアンケートをとりました。人気のある本から図書委員が選び、新しい本を購入してもらいました。図書室に本が並ぶと大人気で、予約でいっぱいになりました。

6 月に一度のえくぼの会の方による読み語りは、子どもたちが楽しみにしています。

